

# 第六類 第二十九號

## 議院 戰時補償特別措置法案外五件委員會議錄(速記)第五回

(三三八)

付託議案	戰時補償特別措置法案(政府提出)
金融機關再建整備法案(政府提出)	特別和議法案(政府提出)
大藏省預金部等損失特別處理法案	(政府提出)
厚生年金保險法及び船員保險法特別例	企業再建整備法案(政府提出)
財產稅法案(政府提出)	厚生年金保險法及び船員保險法特別例
財產稅等收入金特別會計法案(政府提出)	企業再建整備法案(政府提出)
企業整備資金措置法を廢止する等の法律案(政府提出)	厚生年金保險法及び船員保險法特別例
帝國鐵道會計又は通信事業特別會計における昭和二十一年度の經費支辨のための借入金等に關する法律案(政府提出)	財產稅等收入金特別會計法案(政府提出)
復興金融金庫及び產業復興營團出資拂込金支辨のための公債發行に關する法律案(政府提出)	企業整備資金措置法を廢止する等の法律案(政府提出)
自作農創設特別措置特別會計法案(政府提出)	帝國鐵道會計又は通信事業特別會計における昭和二十一年度の經費支辨のための借入金等に關する法律案(政府提出)
昭和二十一年十月四日(金曜日)午前十時四十八分開議	財產稅等收入金特別會計法案(政府提出)

出席委員	天野 久君	金光 義邦君
委員長 本多 市郎君	北村徳太郎君	中野 四郎君
理事森 理事石原圓吉君	小池新太郎君	鈴木 明良君
理事武藤 嘉一君	寺田 榮吉君	常介君
理事西村 葵一君	上田清次郎君	奥村又十郎君
理事岡田 勢一君	川島 金次君	昇次君
江藤 夏雄君	森 三樹二君	中崎 敏君
大塚基之助君	秋田 大助君	駒井 正男君
坂本 實君	大橋 喜美君	藤平君
河原田 鶴代君	森 定一君	順造君
大石ヨシエ君	德積 七郎君	

出席政府委員	岡田勢一君	天野 久君
農林大臣 和田 博雄君	十月四日委員久保猛夫君辭任ニ付其ノ補闕トシテ岡田勢一君ヲ議長ニ於テ選定シタ	十月四日委員久保猛夫君ノ補闕トシテ
遞信大臣 一松 定吉君	岡田勢一君ガ理事ニ當選シタ	岡田勢一君ガ理事ニ當選シタ
厚生大臣 河合 良成君	十一月四日理事久保猛夫君辭任ニ付其ノ補闕トシテ岡田勢一君ヲ議長ニ於テ選定シタ	十一月四日理事久保猛夫君ノ補闕トシテ
運輸大臣 平塚常次郎君	岡田勢一君ガ理事ニ當選シタ	岡田勢一君ガ理事ニ當選シタ
大藏大臣 石橋 湛山君	岡田勢一君ガ理事ニ當選シタ	岡田勢一君ガ理事ニ當選シタ
國務大臣 睽 桂之助君	岡田勢一君ガ理事ニ當選シタ	岡田勢一君ガ理事ニ當選シタ
上塚 司君	岡田勢一君ガ理事ニ當選シタ	岡田勢一君ガ理事ニ當選シタ

出席委員	○ 本多 委員長	○ 本多 委員長
委員長 本多 市郎君	○ 本多 委員長	○ 本多 委員長
理事森 理事石原圓吉君	○ 本多 委員長	○ 本多 委員長
理事武藤 嘉一君	○ 本多 委員長	○ 本多 委員長
理事西村 葵一君	○ 本多 委員長	○ 本多 委員長
理事岡田 勢一君	○ 本多 委員長	○ 本多 委員長
江藤 夏雄君	○ 本多 委員長	○ 本多 委員長
大塚基之助君	○ 本多 委員長	○ 本多 委員長
坂本 實君	○ 本多 委員長	○ 本多 委員長
河原田 鶴代君	○ 本多 委員長	○ 本多 委員長

出席委員	○ 石橋 國務大臣	○ 石橋 國務大臣
委員長 本多 市郎君	○ 石橋 國務大臣	○ 石橋 國務大臣
理事森 理事石原圓吉君	○ 石橋 國務大臣	○ 石橋 國務大臣
理事武藤 嘉一君	○ 石橋 國務大臣	○ 石橋 國務大臣
理事西村 葵一君	○ 石橋 國務大臣	○ 石橋 國務大臣
理事岡田 勢一君	○ 石橋 國務大臣	○ 石橋 國務大臣
江藤 夏雄君	○ 石橋 國務大臣	○ 石橋 國務大臣
大塚基之助君	○ 石橋 國務大臣	○ 石橋 國務大臣
坂本 實君	○ 石橋 國務大臣	○ 石橋 國務大臣
河原田 鶴代君	○ 石橋 國務大臣	○ 石橋 國務大臣

本日ノ會議ニ付シタ議案  
戦時補償特別措置法案(政府提出)  
金融機關再建整備法案(政府提出)

ガ、此ノコトハ單ニアノ本會議ニ於ケ

ル所ノ一ツノ儀禮ニ止マルモノデアツ

ニハドウモ國民全體ヲ安心セシメル譯

ニハ行カナイト思フノデアリマス、ソ

レデ總理大臣ノアノ言明ガアツタニ付

キマシテハ、關係諸公ヲ初メ、殊ニ大藏

大臣、膳國務大臣ニ於カレマシテ、固ヨリ

總理大臣ヲシテアノ言明ヲサセタ根據ハ

兩大臣ヨリ御提供若クハ御進言ナサツ

タモノト思フノデアリマシテ、固ヨリ

石橋大藏大臣、膳國務大臣ニ於キマシ

テハ、國民ヲ安定シ、國家ノ經濟ヲ鞏

固ニスルト云フ意味カラ、茲ニ至ツタ

コトハ察スルコトハ出來ルノデアリマ

スガ、其ノ具體的な内容ヲ此處テ御説

シ下サレマシテ、本當ニ國民ヲ納得セ

リマス、左様ナ譯デ、日本ノ經濟ガ大

體非當時體制カラ常態ニ戻リ得ル、斯

様ニ譯デ、隨テ各國民が經濟的ニ動ク

ガ解消サレルコトニ相成ルト信ジテ居

テ參リマスト、屢々申上ダメスマヤウニ、

ヲ完全ニ實行シテ、補償問題ノ如キ未

解決ノ問題ガスッカリ解決シ、企業及

ビ金融機關が新勘定ニ依ツテ整理サレ

テ參リマスト、屢々申上ダメスマヤウニ、

案フ實行スルニ當リマシテハ、隨分ノ

困難ガアルト云フコトハ總理大臣初メ

フ譯デハゴザイマセヌ、今後此ノ諸法

案フ實行スルニ當リマシテハ、隨分ノ

困難ガアルト云フコトハ總理大臣初メ

フ譯デハゴザイマセヌ、今後此

前途横タハル問題ハ非常ノ苦難途アリマス、日本經濟ノ再建ニハシテ居ルヲ考ヘマシテモ、今生產ガ非常ニ衰ヘテ居ルト申シマスカ、減退シテ居ル、之ヲ常態ニ回復スル、ソレスラ中々困難ノ問題デアリマスガ、何ヲ申シマシテモ、サウ云フ困難ノコトヲ回復スル第一前提トシマシテハ、企業ノ健全性、國家財政ノ健全性ヲ得ルト云フコトガ何ヨリノ前提ナノアリマシテ、之ヲ切括ケマニハ、單ニ政府ダケノ努力デハ如何トモナシ難イコトデアリマスガ、國民ノ協力ヲ得テ前途ニ光明ノ道ガ開クニハ、一度ハ此ノ苦難ノ道ヲ切開キ、苦難ノ道ヲ通ル、是レヨリ外ニ途ハナイ、サウ云フ意味ニ於キマシテ總理大臣ガ強ク強調セラレマシタ、其ノ事ハ私共全ク同感ナノアリマシテ、斯様ナ意味ニ於テ「タビ病棘」ノ道ヲ開ケレバ、一度颶風ガ一過シタル、總理大臣ノ仰セラレタヤウニ、此ノ途ガ開ケレバ、丁度颶風ガ一過シタルヤウナ氣持デ、新シイ建設ニ立直ル、左様ニ私共ハ確信致シテ居リマスノデ、御諒承願ヒタイト思ヒマス。

○石原(圖)委員　兩大臣ノ御説明ニ依リマシテ、其ノ一部分ヲ知リ、且ツ御苦心ノアル所ハ十分ニ察知スルコトガ出來ルノデアリマス、又斯カル事態ノ中ニ此ノ案ヲ御提案ナサレルマデノ言フニ言ハレヌ所ノ御苦心、又某當局トノ折衝ニ當ラレテノ御奮闘、不退轉ノ御決心デ御折衝サレタ、サウ云フヤウナコトヲ我々ハ漏レ承ルコトモアリマシテ、特ニ兩大臣ニ感謝ノ意ヲ持ツテ居ルノデアリマス、ソレデ個人的ニハオ氣ノ毒ナ御立場ニ立タレテ國難ニ善處スル御苦心ニ對シテ敬意ヲ表スルノ

案アリマス、併シ此ノ案ガ議會ニ提  
案サレテ、議會ニ移ツチ可決シタ場合  
ハ、全然議會ノ責任トナリマス、其ノ  
議會ノ責任トナル我々議會人ガ或ル程  
度ノ、一般人ニ知ラレヌ所ノ内容ヲ知  
リタイト云フコトハ、是ハ責任上當然  
デアルト私ハ思フノデアリマス、故ニ  
私ハ進駐軍トノ折衝ノ内容デアル  
カ、今後ノ動向デアルトカ云フヤウナ  
コトハ、政府當局ヨリ進シテ我々委員  
ダケノ祕密會ニ對シテデモ、外部ニ油  
ラサレヌヤウナ事柄ノ中ノ其ノ権要士  
ル點ヲ御渡ラシ願ツタナラバ、審議  
ノ上ニモ非常ナル便宜ヲ得テ、又我々  
議員トシテセソコニ關係ト同等ノ責任  
ヲ感ジ、義務ヲ感ジ、又是ガ遂行ニ努力  
スル決意モ付キ易イト思フノデアリマ  
シテ、ソレ等ノ點ニ付テ何カ御考へが  
ナイデセウカ、一應御伺ヒ致シマス  
○石橋國務大臣 一寸速記ヲ止メテ下  
サイ

差別ト云フヤウナコトニモ及ボスノデ  
アリマシテ、要スルニ政府ガ聲明シタ  
コトハ變ラナイ、ヤツタコトニハ錯誤  
ハナイト云フコトデナケレバナラヌ、  
國民ニ安心サセ、納得サセテ、サウシ  
テ此ノ案ガ制定サレタ以後ニ於ケル執  
行ノ方面ニ何等ノ問題ヲ起サナイヤウ  
ニシナケレバナラヌ、斯ワ云フ點カラ  
私共ハ先刻ノ御尋ネヲ申スコトニナツ  
タ次第デアリマス、要スルニヤラナケ  
レバナラナイコトデアルカラヤラナケ  
レバナラヌガ、ソレニ對シテハ言行ノ  
伴フ、實行ト聲明トガ伴フ、同時ニ國  
民モソレニ協力シテヤツテ行クト云フ  
建前ニスルノガ政治ノ要諦デアツテ、  
是ハ進駐軍等ノ關係デ、敗戦國ノ悲シサ  
ニ、國ノ政府ガ立テル通リニヤツテ行  
ケナイカラ起る問題デアルト云フコト  
ハハツキリ分ルノデアリマスケレド  
モ、其ノ事柄ヲ國民全體ニ周知セシ  
メ、納得セシメテヤル所ノ手段、方法  
ニ缺クル所ガアリ、寧ロ拙劣ナ點ガア  
ルカノヤウニ私共ハ感ズルノデアリマ  
シテ、サウ云フヤウナ點ニ對スル今後  
ノ御心構ヘ、御方針等モ一應此ノ際承  
ツテ置キタイト思フノデアリマス  
○石橋國務大臣 御趣意能ク分リマシ  
タ、過去ノ補償問題モサウデゴザイマ  
スガ、尙ホ今御擧ギニアリマシタ鹽ニ  
問題ノ如キモ、實ハ戰時中及ビ終戰直  
後ノ非常ナ混亂期ナドニ行ハレマシタ  
所ノ色々ノ制度又ハ政府ノ約束、之ヲ  
最近ニ至リマシテ、此ノ内閣ニナリマシ  
シタコトヲ破ルト云フコトハ決シテ好  
テ色々變更ヲ致シテ居リマス、是ハ過  
マシイコトデハアリマセヌガ、實際ニ

於テハ已ムヲ得ナイ、特別ノ事情ノ下ニ起ツタコトデアルカラ、之ヲ現在ニ居シマシタコトハ、是ハ政府ノ責任トシテ何處マデモ守リマス、才ヲ更ニ變更スルト云フヤウナコトハ斷ジテガザイマセヌ、是ダケハ茲ニ申レバシテ少シモ差支ヘナイト存ジマス、ソレダケ御答ヘシテ置キマス  
○石原(園)委員 御言葉モアリマスルガ、既ニ報奨金ノ一部ガ關係ノ方面ナリ支出サレテ、ソレガ預金ニナツテ居ル、預金トナツテ居ルモノハモウ個人ノ完全ナ所有デアル、サウ云フモノノモ取ル、ソレカラ鹽ノ如キ政府ガ方々、勵シテ出スト云フコトヲ確約シタ、寧ロ強要シテ生産設備ヲサセタ方面へ難定ノ補助ヲヤラナイ、斯ウ云フヤウナカトハ國家ガ國民ヲ偽ルコトデアツカテ、斯ウ云フコトヲヤラナケレバナラヌガ實行ガ出來ナイト云フノナラバ、ソレニ對シテ納得サスベキ手段方法ガナケレバナラヌノデアリマシテ、唯日本ニ得ナイ、已ムヲ得ナイト申シマスケレドモ、ソレダケデハ利害關係者ハ納得ガ出來ナイト、收マリガ付カナイト云フ實情ガ茲ニアルノデアリマシテ、云々私ハ是等ノ問題ハ、他ノ方法デ、國民一般カラ更ニ重稅ヲ取ツテモ國民ヲ偽改メテ戴キタイト云フ強イ希望ヲ持ツナイ手段方法ニ依ルノガ本當ノ政治ノ、所謂善政デハナイカト思フノデアリマス、今カラデモ改メラレルモノハ

テ居ル次第デアリマス、是ガ此ノ通りニ實行シナケレバナラヌノナラバ、何カソレニ代ル方法ニ付キマシテノ御考ヘガナイデアリマセウカ、此ノ點ヲモウ一應御伺ヒヨ致シタイ

○石橋國務大臣 今回ノ諸法案ヲ作成シ御審議ヲ願フマデニハ無論色々ノ案ヲ検討致シタノデアリマスガ、何レニ致シマシテモ、利害得失ガ相錯綜シテ居リマシテ、ドノ案ヲ取りマシテモ總テ完全デアリ、總チノ人ニ公正デアルト云フ譯ニハ參リマセヌデシタ、ト云フノガ、要スルニ日本ノ狀況ガ昨年八月、サモナケレバ聯合軍ノ上陸ヲ受ケテ、我々ハ竹槍ヲ取ツテ國民悉ク戰死スルト云フ位マデニ行ク狀況デアツタモノガ、辛ウジテ陛下ノ恩有

ニ結局基イテ居ルノダト私ハ思ヒマス、デアリマスカラ過去ニ於ケル戰爭中或ハ終戰直後ニ於ケル種々ナル當時ノ政府ノデ終戰ニナツタ、斯ワ云フ事實ニ約束ト云フモノガ實ハ守レナイヤウナ

國情ニアル、其ノ國情カラシテ自ラ來ル譯デアリマシテ、隨チ種々ナル方策ヲ執リマシテモ、ドレニモ是ニモ取點ガ多イ、ソレデ今回ノ法案ハ種々ナル考ヘノ中最モ適切デアルト云フモノヲ選シテ、尙且ツ此ノ狀態デアル、斯様ナ次第デアリマスノデ、其ノ點ドウゾ御諒承ヲ願ヒタイ、是ハ決シテ或ル者カラ強ヒラレタト云フ意味デハゴザイマセヌ、無論聯合國ノ占領治下ニアルノデアリマスカラ、其ノ關係上聯合國ノ司令部トモ十分ノ打合ハセラ致シ、テ聯合國カラ強ヒラレタモノデハナイノデ、是ハドウシテモコ、ニ落付クコ

任ヲ以テ考へテヤツタコトデアリマス、隨テヨニ、ニ出サレテ居ルモノニ對シテハ政府ガ飽クマデモ責任ヲ持ツテ實行シテ行クト云フ決意ヲ持ツテ居ル次第デアリマス  
○石原(國)委員 各案ノ綜合シタ此ノ案全體ヲ實ハ讀ム暇モナイノデアリマシテ、研究スル暇ハ無論ナインデアリマス、政府ニ於テハ財難税等ニ依ツテ收入ヲ圖ツテ、政府ノ財政ヲ安定スルコトニハ十分重キヲ置イテ居ルヤウデアリマスルガ、引續キ來タルベキ平和産業ノ生産増強並ニ國民ニ對スル生産意欲ヲ象徴スベキ所ノ勞働階級ニ對スル對策デアルトカ云フモノ殆ド私ハ認メニクイノデアリマスルガ、國民カラ取ルダケハ取ルガ、後ノ生産並ニ生産意欲ト云フモノニハ——無論御考慮ヲ拂ハレテ居ルノデアリマセウケレドモ、私共ノ見ル所デハソレガ分ラナイモノデアリマス、其ノ點ニ付テ一應御説明願ヒタイノデアリマス  
○石橋國務大臣 産業政策等ニ付キマシテハ私ノ主管デハアリマセヌ、今回ノ法案ハ大藏省關係ノモノガ割合ニ多カ、或ハ財政ト云フヤワモノハ、斯様ナ法案トナツテ皆サンノ御審議ヲ受キリ付ク、併シ産業政策ノ方ハ法案ノ必要ナモノモアリマセウガ、必ズシモノノデアリマスカラ、隨テ斯様ナ法案ニナツテ議會ニ現ハレ、人ノ眼ニハツケナケレバ實行ノ出來ナイモノガ多イカ、或ハ財政ト云フヤワモノハ、斯法律ニ依ラズ實際ノ施設トシテ行ハレテ參リマスノテ、自然議會ノ御協賛ヲ經ルコトノ數モ比較的少イ、斯様ナコトデ目立タナインオデハナイカト私ハ考

ノテ居リマス、政府トシテハ是ハ全體  
ノ經濟政策ノ半面ニ過ギナインデアリ  
マシテ、他ノ大イナル半面トシテ産業  
政策ニ非常ナ努力ヲシ、著々其ノ方面  
ニモ手ヲ打ツテ居ル積リデアリマス、  
併シ其ノ方面ハ私ノ直接ノ主管デゴザ  
イマセヌカラ、唯私ノ全體ノ感想トシ  
テ今ノ御質問ニ對シテ其ノコトダケヲ  
御答へ致シマス

○膳國務大臣 産業關係ノ方面ニ付キ  
又勞務對策、勞働意欲ノ向上等ニ付マキ  
シテ、實ハ此ノ數日間御質問ニ對シテ  
縷々御答へ申上ゲタノアリマスガ、  
各方面ニ對シマシテモ政府ハ決シテ意  
シテ居ル譯デハナク、ヤツテ居リマ  
ス、ソレヲ又一々繰返シマスト數時間ヲ  
要シマスノデ、繰返スコトハ御許シヲ  
願ヒタイト思ヒマスガ、只今大藏大臣  
ノ言ハレタヤウニ、法案ノ形ニ現ハレ  
テ居リマスモノハ、復興金融金庫デア  
リマストカ、設備營團ノ新シイ構想デ  
アルトカ云フヤウナモノガ一二三出テ  
居ルダケデアリマスガ、實際問題ト致  
シマシテハ、政府部内ヲ學グマシテ、  
今後ノ産業ノ振興再建ト云フコトニ付  
キマシテ努力シテ居ルノダト云フコト  
ハ御説承願ヒタウゴザイマス

○石原(圓)委員 私ハ斯カル案ガ成立  
スル時ニハ、ソレト同時ニ國民ニ絶對  
安心感、安全感ヲ與ヘル方策ガ最モ必  
要デアルト思フノデアリマシテ、ソレ  
ハ何デアルカト申シマスト、米主食三  
合ヲ配給スルト云フ問題デアルト思フ  
ノデアリマス、其ノコトガ此ノ案ノ成  
立ト同時ニ發表サレルコトヲ切望シテ  
ラカ増配スルト云フコトヲ申サレタノデ  
アリマスルガ、此ノ幾つかハ私ハ絶對

三合ヲ希望スルモノデアリマス、又國家ノ動向ヨリ見テ主食ヲ殖ヤシ、生産意欲、勤勞意欲ヲ十分強調シナケレバ、ナラヌ時デアリマスカラ、十一月一日ニハ絶對三合配給ノ發表ガ望マシイノデアリマス、ソレニ付キマシテ此ノ案ノ成立スルマニニ、カナリ深刻ナ進駐軍トノ御折衝ガアツタ思フノデアリマス、コチラモ忍バカラザル所ヲ忍バシテソモ多々アルダラウト思フノデアリマス、サウ云云ノ機會ヲ捉ヘマシテ、此フ三合配給ニスルコトノ同意ヲ得テ、不足ダケヲ先ツ差當リ輸入ニ仰グト云フコトニ對シテ、御折衝ガアツタセウカ、ナカツタセウカ、其ノ準ノ經緯ヲ御聽カシ願ヒタイト思フノアリマス、米ハ既ニ豐作ヲ傳ヘラレ、諸モ豐作ヲ傳ヘラレ、私ノ見ル所デハ餘リ多クノ外米等ノ援助ヲ仰ガナクテモ三合配給ハ出來ルト私ハ斷然確信シテ居ルノデアリマス、ソレヲ實行スルコトハ政府ノ勇氣ニアルノデアツテ、政府ガヤラウト思ヘバ必ず配給ハ出來ルト思フノデアリマス、萬一ノ備ヘトシテ、此ノ際外米ノ援助ヲ仰グト云フコトノ折衝ガアツタカナカツタカ、ナケレバ今後早急ニ御交渉ヲサレルト云フコトガ今後ノ生産ニ重テ、生意意欲ヲ復活スル、蘇生ノ思ヒマス、萬一ノサレルト云フコトガ今後ノ生産ニ重テ、大ナル關係ガアルト思ヒマスノデ、應御所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

リマスカラ、如何ナル交渉ニ於キマテモ昔ノ外交取引ノ如キモノハ今日ゴザイマセヌ、即チ或ルコトヲ聯合國側ニ利益ヲ與ヘルカラ、其ノ交換ニツチモセスウシテ吳レト云フヤウナ交ノ餘地ハゴザイマセヌ、是ハ聯合國占領目的ガ自分ノ爲ニヤツテ居ルノハナク、自分ハ非常ニ犠牲ヲ拂ツテ本ノ爲ニヤツテ居ルノダ、斯ウ云フトヲ先づ我々ハ理解シテ掛ラナケレナラヌト恩ヒマス、併シナガラ日本状況カラ致シマスト、日本ノ利益ノニ色々々ノコトヲ考ヘテ斯ウ云フ法案ヤルノデアリマスガ、ソレニシテモ司令部ノ諒解ヲ求メテ居リマシテ、ニアレバ、我々トシテハ躊躇ナク聯合ハ此ノ法案ヲ作ルマデノ間ニモ屢々ク依頼ヲ致シタ次第アリマス、併其ノ結果ガ御承知ノヤウニ相當多量食糧ヲ放出セラレルコトニナツタ譯アリマス

ソレカラ三合配給ノ問題ハ、是ハガ、私ノ知ツテ居ル限り申上ゲテ政トシテノ御答ヘトシタイト思フノデガ、是モ全ク聯合國側ノ援助ヲ受ケ、ニ日本ノ食糧問題ガ今後解決出来ル云フコトガ確實アリマスレバ、是無論聯合國モ喜ンデ三合デモ何合デ之ニ同意スルコトハ明カダと思フノースガ、遺憾ナガラ色々ノ觀測ハゴザニマスガ、未ダ聯合國側ノ援助ヲ全然ケヌデモ宜イト云フコトハ言ヒ切レ、イ状況ニアルト當局ハ見テ居リマス、而シテ又斯ウ云フコトダケハツキ申シテモ宜イト思フノデスガ、日本

進駐シテ居ラレル司令部ハ、日本ノ事  
情ガ能ク分ツテ色々ノ食糧ニ付テモ實  
際感謝スベキ程心配ラシテ居テ與レル  
ノデスガ、食糧ノ問題ハ司令部ダケノ  
自由ニナラナイ問題アリマシテ、  
「アメリカ」本國ハ言マデモナク、彼  
處ニアリマス聯合國側ノ全體ノ食糧政  
策ヲ決定スル所デ以テ決定スルノデア  
リマシテ、日本ニ居ル司令部セ亦本國  
若クハ各聯合國ノ意向ニ對シテ色々考  
慮ヲサレナケレバナラナイ、斯ウ云フ  
苦心ガ存スルノデアリマス、隨テ日本  
ダケデ考ヘルト、御言葉ノヤシニ三合  
配給デ何トカヤルト云フコトガ政策的  
ニハ非常ニ好イカトモ思フノデアリマ  
スガ、只今ノ所デハ左様ナ譯ニ參リマ  
セヌ、隨テ目標トシテハ出來ルダケ多  
數ノ配給ラスル、殊ニ同ジ三合トカ二  
合幾ラトカ申シマシテモ、其ノ中ニ未  
利用資源マデ入レテノ二合一勺ハ未利用  
ラナイ三合ニスルカデハ隨分違フノデ  
アリマス、今マデノ二合一勺ハ未利用  
資源マデ入レテノ二合一勺チアリマ  
ス、デアリマスカラ今後幾ラニナルカ  
未ダ申上ゲ兼ネマスケレドモ、例ヘバ  
世間デ云フヤウニ二合五勺ニナツテ  
モ其ノ二合五勺ノ實質ニモ依ルノデア  
リマス、ソレ等ノ點ハ政府ニ於テ八十  
分考慮シテ出來ルダケノコトヲ致シタ  
イト考ヘテ居ル次第アリマスカラ御  
諒承願ヒタイト思ヒマス

ダケ殘餘ノ質問ハ簡單ニ御願ヒ致シ  
○石原(國)委員 進駐軍ノ日本ニ對ス  
ル物價政策ハ所謂低物價統制ニ依ツテ  
物價ヲ引下ガルト云フ方針ノヤウニ考  
ヘマスルガ、サウ解釋シテ宜シイノデ  
セウカ、ソレトソレニ關聯シテ貿易廳  
ガ莫大ナル缺損ガ生ジタ場合ニハ是ハ  
何レノ負擔ニナルノデセウカ、此ノ點  
ヲ御伺ヒ致シマス

○石橋國務大臣 私ノ知ツテ居ル限り  
ニ於キマシテハ、聯合國ノ物價政策ハ  
決シテ左様ニ固マツタモノデナイト  
承知シテ居リマス、統制デアルトカ、  
或ハ低物價ダトカサウ云フコトデハナ  
ク、モット彈力性ノアルモノト考ヘテ  
居リマス、ソレカラ貿易廳ノ問題デア  
リマスガ、是ハ大インアル損失ガ生ズル  
コトハナインアリマス、是ハ御承知  
ノ計算ハ「ドル」デ建テル、圓ノ計算ハ  
圓ニ建テル、斯ウ云フコトニナツテ居  
リマス、ソコデソレガ今「スタート」シ  
ニ又司令部が入ツテ居リマス、「ドル」  
タ譯アリマスガ、是ハ其ノ勘定ガ  
「バランス」スルヤウニ今後處理シテ行  
ク積リデアリ、又サウナルト考ヘテ居  
リマスガ、全體トシテハ「バランス」ス  
ルヤウニ致シテ行クモノデアリマス  
○石原(國)委員 低物價政策ノミヂナ  
イト云フコトヲ承ツテ安心スルノデア  
リマスガ、若シ「アメリカ」ノ低物價政  
策ニ盲從スルト云フヤウナコトガアツ  
タナラバ、輸出對象物、所謂今後日本

ヨリ輸出スペキモノノ單價ニ悉ク影響  
スル、其ノ損害ハ夥シイト思フノデア  
リマシテ、其ノ點ハドウカ今後ノ適當  
ナル對策ヲ希望スル次第アリマス、  
尙ホ通貨ノ信用ノ維持ニ付テ大藏大臣  
ハ如何ナル御考ヘテ持ツテ居ラレルノ  
デセウカ

○石橋國務大臣 屢々申上ダマスヤウ  
ニ、幸ヒニ本年三月頃カラノ物價ハ色  
ノ批判モアリマスケレドモ、全體ト  
シテハ安定シテ居ルヤウニ私ハ見テ居  
リマス、隨て通貨ニ對スル信用ハアリ  
マス、ソレハモウ一つハ通貨ガ非常ニ  
澤山出テ居リマスガ、ソレハ其ノ中ノ  
非常ニ多クノ部分ガ退藏サレテ居ル、  
通貨デ持ツテ居レバ宜シイト云フ  
考ヘテ國民ガマダ持ツテ居ル、  
唯々ナゼアンナニ通貨ガ出ルカ  
ト云ヘバ、ソレハ預金ラシテハ危ナ  
イ、斯ウ云フコトノ爲ニ預金ガサレナ  
ル、又ソレヲ通シテ輸入スル、其ノ間  
ニ幸ヒナコトデアリマスガ、今日ノ通  
貨ハ國民ノ間ニ十分信用ガアリマス、  
隨テ之ヲ維持シテ行クト云フコトハ實  
ハ容易デアルト考ヘテ居ル譯アリマ  
シテ、此處デ御審議願ツテ居ルヤウナ  
諸案ヲ通シテ整理スルモノハ整理ス  
ル、金融機關モ整理スル、サウシテ今  
後ハ預金ラシテモソレガ再び封鎖サレ  
ルト云フヤウナ懸念ハナイト云フコト  
ヲ實際ノ上ニ示セバ通貨價值ノ維持ハ  
十分出來ル、斯様ニ考ヘテ居リマス  
○石原(國)委員 膳國務大臣ニ御尋不  
可マシテ、經濟安定本部ニ於日本  
ノ國民ノ期待ハ非常ニ大キカツタノデ  
アリマシテ、經濟安定本部が成立前後  
ノ經濟ハ全部敏速ニ的確ニドンノ實

行サレテ行クモノト期待シテ居ツタノ  
スル、其ノ次デナケレバ魚ノ問題が決メ  
ラレナイ、野菜ノ問題ガ決メラレナ  
イ、日用雜貨ノ問題ガ決メラレナイ、  
ヤツテ貲ハナケレバイケナイヤウナ無  
能ナ大臣ノミニアリ、サウ云フヤウナ  
考ヘ方ヤ意見セアツタノデアリマシ  
テ、日本ノ國政ヲヤツテ行クノニ大臣  
以上ノモノガアル、大臣ガヤレナイカ  
ラ、其ノ上ニ安定本部ト云フモノガ出

來テ、膳國務相ハ非常ニ偉人アリマ  
ス、殊ニ又經濟方面ノ事柄ハ總テトシ  
トノ拍手ニ國民ガ期待シテ居ル以上ニ  
ヤツテ行ケルヤウニ考ヘテ居ツタノデ  
アリマス、所ガ實際今日ニナツテ見マ  
スルト少シモ振ハナイ、斯ウ云ソ喰ガ  
アルノデアリマシテ、例ヘバ物價ノ問  
題デアリマシテモ、米ノ問題デ行詰ツ  
タヤウナ、行詰ラヌヤウナ、ドウナル  
ノカ分ラヌヤウナ狀態デアツチ、我々  
早場米等ノ各縣ヘ行クテ詰ラ聞イテ見  
マスト、米ノ値段ヲ決メズニ、米ダケ  
寄越セト云フコトハドウ云フ譯カ、ド  
ウシテ決メラレタノカト云フコトデ、  
其ノ方ノ聲ガ喧シイノデ、進行ガ停頓  
シタト云フヤウナ譯アリマス、サウ  
云フ工合ニ物價ダケデモ、一ツノ物價ヲ  
カ一昨日カ物價廳ニ次長サンニ直接魚  
シタノデアリマスガ、ドウモオ米ノコ  
トガ片付カナイカラ次ニ移レナイト云  
フコトヲ次長自ラガ仰シヤルノデアリ  
マス、是ハ何タルコトカト私共ハ失望  
シタノデアリマスガ、ドウモオ米ノコ  
トは輸入超過ニナル、或ル年  
度ニハ幾ラカ輸入超過ニナル、或ル年  
度ニハ輸出超過ニナルト云フコトモア  
リマスガ、全體トシテハ「バランス」ス  
ルヤウニ致シテ行クモノデアリマス  
○石原(國)委員 膳國務大臣ニ御尋不  
可マシテ、經濟安定本部が成立前後  
ノ國民ノ期待ハ非常ニ大キカツタノデ  
アリマシテ、經濟安定本部ニ於日本  
ノ經濟ハ全部敏速ニ的確ニドンノ實

行サレテ行クモノト期待シテ居ツタノ  
スル、其ノ次デナケレバ魚ノ問題が決メ  
ラレナイ、野菜ノ問題ガ決メラレナ  
イ、日用雜貨ノ問題ガ決メラレナイ、  
ヤツテ貯ハナケレバイケナイヤウナ無  
能ナ大臣ノミニアリ、サウ云フヤウナ  
考ヘ方ヤ意見セアツタノデアリマシ  
テ、日本ノ國政ヲヤツテ行クノニ大臣  
以上ノモノガアル、大臣ガヤレナイカ  
ラ、其ノ上ニ安定本部ト云フモノガ出

來テ、膳國務相ハ非常ニ偉人アリマ  
ス、殊ニ又經濟方面ノ事柄ハ總テトシ  
トノ拍手ニ國民ガ期待シテ居ル以上ニ  
ヤツテ行ケルヤウニ考ヘテ居ツタノデ  
アリマス、所ガ實際今日ニナツテ見マ  
スルト少シモ振ハナイ、斯ウ云ソ喰ガ  
アルノデアリマシテ、例ヘバ物價ノ問  
題デアリマシテモ、米ノ問題デ行詰ツ  
タヤウナ、行詰ラヌヤウナ、ドウナル  
ノカ分ラヌヤウナ狀態デアツチ、我々  
早場米等ノ各縣ヘ行クテ詰ラ聞イテ見  
マスト、米ノ値段ヲ決メズニ、米ダケ  
寄越セト云フコトハドウ云フ譯カ、ド  
ウシテ決メラレタノカト云フコトデ、  
其ノ方ノ聲ガ喧シイノデ、進行ガ停頓  
シタト云フヤウナ譯アリマス、サウ  
云フ工合ニ物價ダケデモ、一ツノ物價ヲ  
カ一昨日カ物價廳ニ次長サンニ直接魚  
シタノデアリマスガ、ドウモオ米ノコ  
トは輸入超過ニナル、或ル年  
度ニハ幾ラカ輸入超過ニナル、或ル年  
度ニハ輸出超過ニナルト云フコトモア  
リマスガ、全體トシテハ「バランス」ス  
ルヤウニ致シテ行クモノデアリマス  
○石原(國)委員 低物價政策ノミヂナ  
イト云フコトヲ承ツテ安心スルノデア  
リマスガ、若シ「アメリカ」ノ低物價政  
策ニ盲從スルト云フヤウナコトガアツ  
タナラバ、輸出對象物、所謂今後日本

ヨリ輸出スペキモノノ單價ニ悉ク影響  
スル、其ノ損害ハ夥シイト思フノデア  
リマシテ、其ノ點ハドウカ今後ノ適當  
ナル對策ヲ希望スル次第アリマス、  
尙ホ通貨ノ信用ノ維持ニ付テ大藏大臣  
ハ如何ナル御考ヘテ持ツテ居ラレルノ  
デセウカ

○石橋國務大臣 屢々申上ダマスヤウ  
ニ、幸ヒニ本年三月頃カラノ物價ハ色  
ノ批判モアリマスケレドモ、全體ト  
シテハ安定シテ居ルヤウニ私ハ見テ居  
リマス、隨て通貨ニ對スル信用ハアリ  
マス、ソレハモウ一つハ通貨ガ非常ニ  
澤山出テ居リマスガ、ソレハ其ノ中ノ  
非常ニ多クノ部分ガ退藏サレテ居ル、  
通貨デ持ツテ居レバ宜シイト云フ  
考ヘテ國民ガマダ持ツテ居ル、  
唯々ナゼアンナニ通貨ガ出ルカ  
ト云ヘバ、ソレハ預金ラシテハ危ナ  
イ、斯ウ云フコトノ爲ニ預金ガサレナ  
ル、又ソレヲ通シテ輸入スル、其ノ間  
ニ幸ヒナコトデアリマスガ、今日ノ通  
貨ハ國民ノ間ニ十分信用ガアリマス、  
隨テ之ヲ維持シテ行クト云フコトハ實  
ハ容易デアルト考ヘテ居ル譯アリマ  
シテ、此處デ御審議願ツテ居ルヤウナ  
諸案ヲ通シテ整理スルモノハ整理ス  
ル、金融機關モ整理スル、サウシテ今  
後ハ預金ラシテモソレガ再び封鎖サレ  
ルト云フヤウナ懸念ハナイト云フコト  
ヲ實際ノ上ニ示セバ通貨價值ノ維持ハ  
十分出來ル、斯様ニ考ヘテ居リマス  
○石原(國)委員 膳國務大臣ニ御尋不  
可マシテ、經濟安定本部ニ於日本  
ノ國民ノ期待ハ非常ニ大キカツタノデ  
アリマシテ、經濟安定本部が成立前後  
ノ經濟ハ全部敏速ニ的確ニドンノ實

行サレテ行クモノト期待シテ居ツタノ  
スル、其ノ次デナケレバ魚ノ問題が決メ  
ラレナイ、野菜ノ問題ガ決メラレナ  
イ、日用雜貨ノ問題ガ決メラレナイ、  
ヤツテ貯ハナケレバイケナイヤウナ無  
能ナ大臣ノミニアリ、サウ云フヤウナ  
考ヘ方ヤ意見セアツタノデアリマシ  
テ、日本ノ國政ヲヤツテ行クノニ大臣  
以上ノモノガアル、大臣ガヤレナイカ  
ラ、其ノ上ニ安定本部ト云フモノガ出

來テ、膳國務相ハ非常ニ偉人アリマ  
ス、殊ニ又經濟方面ノ事柄ハ總テトシ  
トノ拍手ニ國民ガ期待シテ居ル以上ニ  
ヤツテ行ケルヤウニ考ヘテ居ツタノデ  
アリマス、所ガ實際今日ニナツテ見マ  
スルト少シモ振ハナイ、斯ウ云ソ喰ガ  
アルノデアリマシテ、例ヘバ物價ノ問  
題デアリマシテモ、米ノ問題デ行詰ツ  
タヤウナ、行詰ラヌヤウナ、ドウナル  
ノカ分ラヌヤウナ狀態デアツチ、我々  
早場米等ノ各縣ヘ行クテ詰ラ聞イテ見  
マスト、米ノ値段ヲ決メズニ、米ダケ  
寄越セト云フコトハドウ云フ譯カ、ド  
ウシテ決メラレタノカト云フコトデ、  
其ノ方ノ聲ガ喧シイノデ、進行ガ停頓  
シタト云フヤウナ譯アリマス、サウ  
云フ工合ニ物價ダケデモ、一ツノ物價ヲ  
カ一昨日カ物價廳ニ次長サンニ直接魚  
シタノデアリマスガ、ドウモオ米ノコ  
トは輸入超過ニナル、或ル年  
度ニハ幾ラカ輸入超過ニナル、或ル年  
度ニハ輸出超過ニナルト云フコトモア  
リマスガ、全體トシテハ「バランス」ス  
ルヤウニ致シテ行クモノデアリマス  
○石原(國)委員 低物價政策ノミヂナ  
イト云フコトヲ承ツテ安心スルノデア  
リマスガ、若シ「アメリカ」ノ低物價政  
策ニ盲從スルト云フヤウナコトガアツ  
タナラバ、輸出對象物、所謂今後日本

ヨリ輸出スペキモノノ單價ニ悉ク影響  
スル、其ノ損害ハ夥シイト思フノデア  
リマシテ、其ノ點ハドウカ今後ノ適當  
ナル對策ヲ希望スル次第アリマス、  
尙ホ通貨ノ信用ノ維持ニ付テ大藏大臣  
ハ如何ナル御考ヘテ持ツテ居ラレルノ  
デセウカ

○膳國務大臣 斯ウ云フ日本ノ三千  
年ガ存立期間ノヤウニ聞イテ居リマス  
ガ、私ハ何モ出来ナイ不安定機關ニナ  
ルダラウト思フノデアリマス、之ニ對  
スル國務大臣ノ所見ヲ伺ヒタイノデア  
リマス

中尉、下士官、兵、是モ決シテ自ラ戦争ガ

シタイカラシタ人々ナインデアリマ

シテ、已ムヲ得ズ國家ノ方針ニ從ウ

テ、今日デハ追放者同様ニナツテ、全

部ノ收入ヲ失ツテ呻吟シテ居ル人々ガ多

イト思フノデアリマス、ソレトソレ相

當ノ文官トノ差額ガ餘リニモ懸隔ガア

ルト思フノデアリマシテ、此ノ點ハド

ウ云フ御考ヘテアリマセウカ、一應承

ツテ置キタイノデアリマス

○石橋國務大臣 只今數字ヲ持チマセ

ヌガ、御尋ネノヤウナ左様ナ差額ハア

ル等ハナイト思ヒマス、且又現在ハ軍

人ノ恩給ハ全部停止サレテシマヒマシ

タノデ、是ハ他ニ何等カノ方法ヲ講ジ

ナケレバナラスト云フコトデ、今厚生省

等デ苦心ヲシテ居ル譯デアリマス、恩

給ニ付テ、ソレハ曾テノ數字デアリマ

スガ、隨テ現在ハ左様ナ差額ト云フモ

コトヲ希望致シマス、尙ホ軍人ニ對ス

デ、ナイ譯デアリマス

○石原(國)委員 是ハドウカスカル間

ニ均衡ヲ保ツヤウナ處置ヲ執ツテ戴ク

ニ希望ヲ申上ゲテ置キマス、私ノ質問

ハ是デ一應打切りマス

○本多委員長 此ノ際昨日併託セラレ

マシタ三法案ニ付テ分離シテ特ニ議事

ヲ進メルヤウニト云フ政府カラノ希望

テ、其ノ進行方法ニ付テ相談ヲ致シタ

イト思ヒマス、暫時休憩致シマス

午前十一時四十分休憩

午後零時十三分開議

○本多委員長 休憩前ニ引續イテ會議

中尉、下士官、兵、是モ決シテ自ラ戦争ガ

シタイカラシタ人々ナインデアリマ

シテ、已ムヲ得ズ國家ノ方針ニ從ウ

テ、今日デハ追放者同様ニナツテ、全

部ノ收入ヲ失ツテ呻吟シテ居ル人々ガ多

イト思フノデアリマス、ソレトソレ相

當ノ文官トノ差額ガ餘リニモ懸隔ガア

ルト思フノデアリマシテ、此ノ點ハド

ウ云フ御考ヘテアリマセウカ、一應承

ツテ置キタイノデアリマス

○川島金次君 只今數字ヲ持チマセ

ヌガ、御尋ネノヤウナ左様ナ差額ハア

ル等ハナイト思ヒマス、且又現在ハ軍

人ノ恩給ハ全部停止サレテシマヒマシ

タノデ、是ハ他ニ何等カノ方法ヲ講ジ

ナケレバナラスト云フコトデ、今厚生省

等デ苦心ヲシテ居ル譯デアリマス、恩

給ニ付テ、ソレハ曾テノ數字デアリマ

スガ、隨テ現在ハ左様ナ差額ト云フモ

ノモ、全部ナクナツテシマヒマシタノ

講ジツ、アラウト思フノデアリマス

ガ、未ダニソレガ徹底シテ居ラナイ、

其ノ内容ト申シマスノハ、農地調整法

ノ改正ヲ繞リマシテ全國農村ニ於ケル

所ノ地主ノ不當ナル耕作權ノ取上ゲテ

アリマス、此ノ耕作地ノ取上ゲノ問題

ニ付キマシテハ、農林省ガ本春以來

屢々通牒等ヲ以テ各府縣ニ示達シテ居

トルコトハ私モ承知シテ居ルノデアリマ

スガ、殊ニ本春當時ニ於キマシテハ五

町歩ノ地主ノ保有面積ガアルト云フコ

トヲ繞リマシテ、御承知ノ如ク五町歩

程度ノ地主ガ頻リト小農方面ニ對スル

所謂小作地ノ取上ゲヲ、威喝ヲ以テ、

農地委員會或ハ府縣地方事務所若シ

クハ農務課等ニ陳情致シマシテハ、

化シテ居リマセス、其ノ取上ゲノ受ケ

マシタ所ノ小作人ハ或ハ農業會、或ハ

農地委員會或ハ府縣地方事務所若シ

タル處置ニ出ルト云フ御考ヘガアルノ

カ、ソレニ付キマシテ此ノ席カラ全國

ノ此ノ泣ケル弱イ立場ニアリマス小作

人ニ對シ或ハ不當ナル地主ニ對シテ斷

柄ニ付キマシテ農林當局ハ果シテ斷乎

タル處置ニ出ルト云フ御考ヘガアルノ

カ、ソレニ付キマシテ此ノ席カラ全國

ノ此ノ泣ケル弱イ立場ニアリマス小作

人ニ對シ或ハ不當ナル地主ニ對シテ斷

柄ニ付キマシテ農林當局ハ果シテ断乎

タル處置ニ出ルト云フ御考ヘガアルノ

カ、ソレニ付キマシテ此ノ席カラ全國

ノ此ノ泣ケル弱イ立場ニアリマス小作

人ニ對シ或ハ不當ナル地主ニ對シテ断

柄ニ付キマシテ農林當局ハ果シテ断乎

タル處置ニ出ルト云フ御考ヘガアルノ

タル處置ニ出ルト云フ御考ヘガアルノ

時ニハ、其ノ轉賣シタ所ノ價格ノ如何ニ拘ラズ、政府ノ買上價格デ其ノ土地ヲ買上ゲルト云フコトニナル、詰リ言換ヘレバ、不當ニ土地ヲ取上ゲテ、ソレヲ闇價格デ轉賣シタ結果ニ於ケル所ノ損失ハ地主ガ之ヲ負擔スルト云フコトニ當然ナラカレバナラヌノアリマスガ、サウ云フ事柄ガナインダト言ツテ吹聽シテ居ル農家ノ人達モアリマス、サウ云フコトハ出來ナイノダト云フコトヲ、盛ニ言ツテ土地ヲ取上ゲテ居ル者モアリマス、ソレニ對シテハ當然政府ノ公定價格ノ買上ノ地代ダケヲ其ノ地主ニ拂フノデアツチ、闇價格デ轉賣シタ地主ハ、其ノ闇價格ニ依ル不當ナ利得ダケハ必然的ニ元ノ買受ケタ所ノ地主ノ方ニ返スベキ義務ガ生ジナルノダト私ハ思フノデアリマスガ、其ノ關係ハドウデアリマスカ

御言質ヲ得テ置キタイ、斯ウ考ヘタゞ  
ス、私ハ昨日モ此ノ席上ニ於キマシタ  
テ、當局デ内定致シマシタ運賃ノ値上  
問題ガ、當初當局デハ十月一日ヲ以テ  
實施スルト云フ案デ進シダニ拘ハラ  
ズ、遂ニ今以テイツ其ノ値上ガ實施サ  
レルカ分ラナイト云フヤウナ狀態ニ今  
日ナツテ參リマシタ、恐ラク私ノ想像  
デアリマスガ、假ニアノ貨物運賃ノ三  
十割、旅客運賃ノ二・五割ノ値上ノ案  
ガアリマスガ、アレガ最終的ニ決定致  
シマシテモ、相當時期ガ延長サレ、其  
ノ上ニ値上ノ率ガ低クナツテ現ハレテ  
來ルノデハナイカ、ソレハ國民大衆ノ  
立場カラ言ヘバ固ヨリ我々トシテハ喜  
ブベキ事柄デアリマスガ、一方ニ於テ  
此ノ事ガ當局ノ決定シタ通リニ實現シ  
ナイ場合ニハ、運輸省ノ收入ノ大激減  
ヲ來スコトニナル譯デアリマス、サラ  
ヌダニ運輸省自體ニ於テハ莫大ナル赤  
字ヲ背負ヒ込ンデ居ル、而モ其ノ赤字  
ノ補填ノ爲ニ今度ノ運賃値上案ヲ決定  
シタノダガ、ソレガ旨行カナイト云フ  
フ結果ニナリマスナラバ、莫大ナ赤字  
ノ上ニ更ニ大キナ赤字ヲ加ヘルト云フ  
實際ノ状態ニナルノデハナイカト云フ  
ヤウニ私共ハ考ヘテ居ルノデアリマ  
ス、ソコデ偶ミ前回ノ國鐵ノ「ゼヌス  
ト」問題ヲ中心トシテ、其ノ當時極メテ  
著實ナル立場ニ立ツテ居リマシタ國鐵  
從業員ノ一部方面カラ、運輸省ガ運賃  
ノ値上ノ實現ガ出來ナカツタリ、或ハ  
延長セレタリ、或ハ率ニ低下ヲ餘儀ナ  
カサレルヤウナコトニナレバ、必然的

ニ赤字ガ増大サレル、増大サレルト云  
フコトニナレバ、當局ガ最初ニ「ゼネ  
スト」問題ノ當初ニ於テ强硬ナ態度ニ  
出テ居リマシタ、所謂經營ノ合理化ト  
稱スル所ノ從業員ノ大量減員ガ、又モ  
ヤ蒸返サレテ强硬ニ現ハレテ來ルノデ  
ハナイカト云フ心配フ、早クモ各方面  
デシテ居ル從業員ガ居ルノニアリマ  
ス、私共ハ最初カラ此ノ大量減員ニ對  
シマシテハ反対的ナ立場ヲ執ツテ參ツ  
タノニアリマスガ、此ノ心配ニ對シマ  
シテ運輸大臣ハアノ國鐵「ゼネスト」ノ  
妥結ノ當時ニ聲明サレマシタ如ク、經  
營ノ合理化ハ如何ナル事情ガアラウト  
モ、所謂從業員ノ大量減員ヲ前提トス  
ルノデハナイト云フ考ヘ方ヲ、今後モ  
御堅持サレテ臨ミマスカドウカ、此ノ  
際此ノ一點ヲ御伺ヒシテ置キタイト  
思フノニアリマス

○川島委員 ソレデハ最後ニモウ一  
點御伺ヒシマスガ、鐵道運賃ノ値上ノ間  
題ニ對スル御見透シガアリマシタナラ  
バ、御教ヘヲ願ヒタイ

○平塚國務大臣 一寸モウ一遍仰シヤ  
ソテ戴キタイノデスガ…

○川島委員 貨物運賃ノ三十割、旅客  
運賃ノ二割五分ノ値上案ノ實施ニ付テ  
見透シガアリマシタナラバ、御明示ヲ  
願ヒタイ

○平塚國務大臣 是ハ最初値上ヲスル  
時ニハ關係方面トノ諒解ガ大體付イテ  
居ツタノデアリマスガ、其ノ後經濟安  
定本部ガ發足スルコトニナリマシタノ  
デ、是ハ一應經濟問題デアルノダカラ、  
經濟安定本部ガ取扱フト云フコトニナ  
ツタ爲ニ、私ノ方ノ計畫通りニ參ラ  
カツタノデアリマシテ、現在ノ交渉ハ  
先般鐵道會議デ決定ラ見、又閣議デア  
定ヲ見タ貨物三十割、旅客二割五分ト  
ゲルト云フコトニ何ラノ變更モ加ツツ  
居リマセヌ

○川島委員 サウデハナク、時期ニ付  
テノ見透シガアルカト云フコトデアリ  
マス

○平塚國務大臣 是ハ今交渉中デアリ  
マシテ、而モ其ノ交渉ハ一日ヲ争ツテ  
居ルノデアリマスカラ、決定致シマシ  
タラ直ニニ發表シテ、是ハ一箇月前ニ  
公告スルト云フコトニナツテ居リマス  
カラ、今日決マレバ今日カラ一箇月後  
ニ行フト云フコトニ相成ルノデアリ  
マス

○平塚國務大臣 食達ヒノ起キテ居ル  
告ガナイノデアリマシテ、私共ノ方ハ  
ヤハリ事務のニハ關係方面ト交渉シテ  
居リマスケレドモ、一應經濟ニ關係ア  
ルモノハ經濟安定本部ガ取扱フコトニ  
ナツテ居ルノデアリマスカラ、私共ト  
經濟安定本部長ト話合ラシテ交渉シテ  
居ルノデアリマシテ、食達ヒハゴザイ  
マセヌ

○川島委員 モウ一言御尋ネシマス  
ガ、運賃ノ値上ノ案ニ對シマシテ變更  
ガ、アルヤウナ心配ガ運輸大臣ノ立場  
カラ申セバアルノデスカ、ソレトモアノ  
原案ガ近ク實施サレル段取ニ入ルト云  
フ確信ヲ持タレテ居リマスカ、其ノ點  
ヲ重ネテ御尋ネシタイト思ヒマス

○平塚國務大臣 先程申上ゲマシタヤ  
ウニ、私ノ方ハアレヲ變更スル意意思  
アリマセヌ、併シナガラ變更セザルヲ  
得ナクナツタ場合ニハ、是ハ其ノ時ニ  
考ヘナケレバナラヌト思ツテ居リマス  
現在デハ變更スル意思ヲ持ツテ居リマ  
セヌ



端グ所ノ油繩縣民ノ生活並ニ同縣ノ復興ト云フコトニ鑑ミマシテ、我々同胞ニ對シテ取扱ヲ異ニスルト云ノハ洵ニ遺憾ニ思ハレルノデアリマスガ、此ノ點政府ノ御所見ヲ御伺ヒスルト共ニ、特ニ此ノ點ハ厚案ヲ修正シテ戴ク所ノ渾アル御取計ヒヨサレルコトガ出来ナイカドウカ、政府ノ御所見ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス。

○池田(勇)政府委員 本法案ノ第十條第十二項ニ在外財産ニ付キマシテハ、控除ノ規定ヲ適用シナイト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマスルガ、御話ノ如キ點モ考ヘラマスノデ、南洋群島沖繩縣ニ於キマスル戰爭保險金ニ付キマシテハ、一萬圓ノ控除ヲ特ニ認メタ次第デゴザイマシテ、此ノ程度デ宜イノデハナイカト考ヘテ居リマス。

○秋田委員 是レ以上押問答ヲ致シテモ、議事進行ノ關係ガアリマスルカラ、討論ノ際ニ譲りタイト思ヒマスノデ、次ニ進ミマス、昨日喜多委員カラデアリマシタカ、中小工業者ノ保護ガ今日ノ日本ノ經濟復興再建ノ爲ニ重大デアルガ、財產稅ノ徵收ニ當ツテドウ云フ風ニ此ノ點ヲ考ヘルカト云フ質問ニ對シマシテ、大藏大臣カラ、個人ノ中小工業者ガ財產稅ヲ納メル場合ニハ金融ノ便ヲ特ニ考ヘルヤシニスルトシタ措置ト思ツテ喜ンデ、感謝シテ伺ツテ居リマシタガ、此ノ前ドナタカ別ノ委員ノ御質問ニ對シテモ、主稅局長方ラ金融ノ便ヲ考ヘルト云フヤウナ御答ヘモアリマシタガ、斯ワナリマスト是等ノ關係ノ融資資金ト云フモノガ相當逼迫シハシナイカ、現在ニ於テモ非常ニ融資ノ逼迫ニ悩マサレテ、預金吸収、貯蓄増強ノ爲ニ當局ガ頭痛鉢巻ニナツ

テ居ル際ハ、實際ニ融資ヲスル餘力ガ金  
融界ニ残サレテ居ルガドウカ、何カ特  
別ノ途ヲ考ヘテ居ラレルデアラウカ、  
融資ノ實行ガ可能デアラウカト云フ點  
ヲ一ツ御伺ヒ致シタイト思ヒマス  
○石橋國務大臣　是ハ財產税ヲ、税ヲ  
納メル爲ニ融資ヲスルト云フコトガ非  
常ニ變態的ナ取扱ヒ方ナアリマシテ、  
至ルカト云フコトハ、實ハマダ研究シ  
テ居ラナイノデアリマス、ケレドモ今  
申シマスヤウニ、限リナク融資ヲスル  
ト云フコトハ、色々ノ點カラ見ナ弊害  
ナケレバナラズ、斯ウ考ヘテ居リマ  
ス、デスカラ或ル程度ノコトナラバ、  
特別ノ機關ヲ設ケズトモヤレルノデヤ  
ナイカ、尙ホ物納等デ入りマス物、ソ  
レカラ在來カラノ國有財產モサウデア  
リマスガ、之ニ付テハ別個ニ處理ノ方  
策ヲ立テタイト思ツテ居リマスカラ、  
サウ云フヤウナ機關カラモ、不動産ニ  
對シテハ何等カノ處置ガ執ラレルノチ  
ヤナイカト、斯様ニ考ヘテ居ル次第デ  
アリマス

○本多委員長　秋田君、モウ少シ高聲  
ニ願ヒマス

○秋田委員　財產稅法第五十六條ニ依  
リマスルト、物納ヲ已ムナクシナケレ  
バナラナイト云フ時ニハ、特ニ中請ヲ  
スルヤウニナツテ居リ、サウシテ又之  
ニ關スル詳細ノコトハ命令デ決メラレ  
ルヤウニナツテ居リマスルガ、新聞偏  
在ノ今日、商人ノ階級ヲ除イテハ、大  
部分ノ方ハ、現金トカ現金ニ代リ得ベ  
キ預金ノ所有高ト云フモノハ極ク僅カ  
デアラウト思フノデアリマス、ソコデ  
財產稅ヲ納メル場合ニ、少クトモ預金

ハ此ノ額マデハ殘シテ置イテヤツト官  
シイト云フヤウナ額ヲ明示シテ置クノ  
ガ親切ヂヤナイカト思ヒマス、現金、預  
貯金、其ノ他ノ動産、不動産ノ割合ニ置シ  
テ、物納ノ許サレル範圍ハ此ノ程度度  
アルト云フヤウナ比率、サウ云フモセ  
ヲ寧ロ此ノ財産税法ノ中ニ成文化シテ  
置ク方ガ宜クハナイカト思フノデアリ  
マスガ、斯ウ云フ點ニ付アハ大體ドウ  
云フ風ニ取扱フト云フコトヲ大臣ハ御  
考ヘニナツテ居ルカドウカ、御考ヘニ  
法ノ中ニソレヲ成文化スルト云フ御資  
思ハナイダラウカ、此ノ點ヲ御伺ヒセ  
シマス

幾ラノ現金、幾ラノ物納ト、斯ウニ  
フ風ニ決メテ行ツタ方ガ適當ダト考  
テ居リマス  
○秋田委員 其ノ點了承致シマシタ  
次ニ今回ノ財産税法ニ依リマシテ、  
物納ガアリマシタ時ニハ、政府ハ之ヲ  
公賣ニ付シテ現金ニ換ヘラレル譯テア  
リマスガ、此ノ際税金ニ比較シマシテ  
ノ損得ハ何レモ政府ノ損得ニナルト云  
フ旨ノ御答辯ハ、大藏大臣カラ過日  
算ノ質疑ニ際本會議議席上ニ於テモ御  
答辯ガアツタ記憶致シテ居ルノデア  
リマスガ、國稅徵收法中ノ規定ノ建  
ト申シマスカ、其ノ精神カラ考ヘテマヌ  
マスト、公賣ニ依ツテ換價サレタ  
ハ恐ラク、政府ノ方デハドウ云フ風ニ  
御考ヘニナツテ居ルカ知リマセヌガ、  
ノガ至當デヤナイカト考ヘラレマヌ  
ガ、如何デアリマセウカ、之ニ對シテ  
納ガ建前デアルカラ國稅徵收法ニ依シ  
テ公賣ニ付シテ、換價シタ場合ニ、撥  
金超過額ハ返スト云フコトニナルガ、  
本財產稅法案デハ、初メカラ物納ノ規  
合ヲ認メテ居ルノダカラシテ、ソレデ  
モウ納稅者ノ義務ハ完了シテ居ル  
ダ、ソユデソレ以後ノ責任ハ全部政  
ニアルノダ、法理上カラ云ソテモ是モ  
何等差支ヘガナイ、稅金超過額ハ返ス  
必要ガナイ、斯ウ云フ御意見カモ知  
ナイノデアリマスガ、私ハ尙ホ細カニ  
其ノ根本ニ遡ソテ見マスト、誰モ惑惑  
ク大體ノ場合物納ハシタクナイ、金ヰ  
ヘアレバ金デ稅金ヲ納メタノノダガ、  
已ムナク物デ納メルノダト云フコトニ  
ナリハシナイカ、殊ニ財產稅ナドヲ販  
ル場合ニハ、學者ノ意見デモ、成ベタ  
經濟界ノ狀態ノ安定シタ時ト云フノガ

定論ダト思フノデアリマスガ、特ニ  
「インフレ」昂進ノ豫想セラレル此ノ狀  
況下ニ於テ取ラレルノデアリマス、而  
モ其ノ課税ト云フモノハ相當「ドラス  
ティック」ナモノデアル、斯ワ云フコ  
トヲ考ヘ併セテ見マスト、成程理窟ハ  
立ツカモ知レマセヌ、又國務ハソレガ  
爲ニ非常ニ煩瑣ニナルカモ知レマセヌ  
ケレドモ、此ノ際ハサウ云フ「インフ  
レ」ニ依ツテ國家ガ捐ヲサレル場合ハ  
鬼モ角トシテ、得ヲスルト云フコトモ  
洵ニ面白クナイノデアル、ト考ヘラレマ  
ス、國民ノ納得ノ行カナイ點モ起ツテ  
來ハシナイカト思ハレマスノデ、超過  
額ハ返スト云フ風ニ御考ヘ直シヲ戴ク  
コトハ出來ナイデセウカドウカ、政府  
ノ御所見ヲ御尋不致シマス

引出シヲ許サナイト云フ旨ノ御答辯ガ現化ヲ恐レルカラデノコトデハナイカト思ノノデゴザイマスケレドモ、他方ニ於テ成ベク流通シテ居ル新聞ヲ吸收シタイト云フ御意圖ニ出ヅルモノデハナイカト想像致スノデアリマスケレドモ、モ、併シ片方ニヤハリソレ許シテ置キマスト、物納ニ依ル色々ナ煩瑣ナ手數ガ省ケハシナイカト云フ美點モ考ヘラレル譯デアリマス、結局現状ノ儘デハモレ現金化サレモノアルト云フコトモ考ヘ併セテ見マスト、此ノ「インフレ」昂進ノ虞ノアル現状ニ於テ、成ベク早ク財産税ヲ徵收シテシマフト云フ趣旨カラ考ヘ併セテ見マシテモ、第一封鎖預金カラ他人ノ財産税ヲ拂ハシテヤツテモ宜シヤナイカト思ハレルノデアリマスガ、此ノ點御再考ノ餘地ナナイカ、是ハ大藏大臣ニ御考ヘラ御尋ネシタイト思ヒマス  
ソレカラモウ一ツ之ニ關聯シマシテ、今度ハ他人ノ第一封鎖預金デナシニ、他人ガ一ツ不動産ヲ財産税ノ代りニ物納スルト云フ場合セ實際上ノ必要上起キハシナイカト思ヒマスガ、是ハ御認メニナリマスカドウカ、併セテ御考ヘラ御尋ネシタインデアリマス  
○石橋國務大臣 他人カラ借金ヲシテ財産税ヲ拂フコトハ差支ナ譯デアリマスカラ、其ノ借リ金ガ自由預金ラ無論是ハ問題アリマセス、第一封鎖デモ宜イ譯カト思ヒマスガ、實際問題トシテ第一封鎖ハ餘りナイ筈ニナツテ居リマスカラ、マア實際問題トシテドソナリマスカ、尙ホ一ツ其ノ點ハ考究シテ見マスソレカラ他人ノ不動産ヲ納稅スルト云フコトハ、サツ云フ場合ガ或ハ弊

害ガナクサウ云フコトニヤレル場合モ  
アルカモ知レマセヌガ、結局物納ヲ殖  
ヤスト云フコトニ相成ル懸念ガ甚ダ  
イノデアリマス、其ノ點ハ如何カト思  
ヒマス、左様ナ場合ヲ今ノ所テ實ハ想  
像ヲシテ居ラナイノデアリマス、尙ホ  
御詫ノ如キ點、即チドウシテ納稅者ニ  
出來ルダケ苦痛ヲ與ヘズ納稅サセ得ル  
カ、ソレカラ又財產稅ノ目的モ達シ得  
ルカト云フコトハ、技術的ニ尙ホ相當  
研究致スベキモノデアリマスカラ、十  
分研究致シマシテ善處シタイト考ヘ  
マス

ガ、結局財産税ノ徵收ニ依ツテ國家ニ  
入ツタ金ノ支出ハ、今日ノ經濟界ノ現  
狀ニ於キマシテハ結局闇商ナ一部ノ  
有力ナル生産業者ノ手ニ偏在スルコト  
ニナリハシナイカ、少シ時間ガ經ツテ  
見レバ富ノ再分配ノ實效ヲ收メ得ナ  
コトニナリハシナイカ、此ノ點大藏大臣  
ハドウ云フ風ニ御考ヘニナツテ居ル  
カト云フコトヲ御尋ネスルト同時ニ、  
此ノ新圓所有者ニハ、今日ノ情勢デハ  
社會正義ノ觀點カラ考ヘテハ好マシク  
ナイ人ガ多イノデアツテ、是等ノ人々  
ガ財產稅ノ物納物件乃至ハ財產稅納入  
ノ爲ノ處分物件ヲ結局ニ於テ多ク偏在  
シテ持ツト云フ結果ガ豫想サレル、是  
ハ私ハ好マシクナイト思フ、日本ノ  
體財產乃至ハ無體財產權、即チ擬制的  
デナイ所ノ眞正ナル資本ト云フモノガ  
偏在シテ一部ノ人々ノ手ニ掌握セラレ  
ルト云フコトガ、社會的ニ、政治的ニ、  
又或ル場合ニハ國際的ニ甚ダ好マシク  
テヌ、又憂慮スベキ事態ヲ惹起シハシ  
ナイカ、氣力付イタ時ニハアツト驚イ  
テ見テモ最早取返シガ付カナイト云フ  
コトニナリハシナイカ、此ノ邊當局ハ  
十分留意セラレナケレバナラナイト田  
ヒマスガ、政府ハ此ノ事態ヲ、サシシテ  
起ラナイト考ヘテ居ラル、カドウカ、  
又此ノ邊ニ付テ何カ格別ノ御用意ト御  
考ヘガアルカナイカ、アツテ然ルベシ  
ト思フノデアリマスガ、御所見ノ程ヲ  
御伺ヒ致シタイト思ヒマス

機關ヲ設ケマシテ、其ノ收納シタ物件  
ガ適當ナ價格デ、而モ日本ノ全體ノ經  
濟ノ爲ニ寄與スルガ如キ方法デ處分ヲ  
致シタイト考ヘテ居リマス、隨て是ハ  
或ル程度處分ニハ時間ガ掛ルカモ知レ  
マセヌ、サヘ云フ風ニ考ヘテ居リマス  
隨テ御心配ガアルヤウナ、餘り好マシ  
カラザル部面ニソレ等ノ資產ガ入ツテ  
行クト云フコトハ、廻リ廻クテ入ツテ  
行クト云フコトハ是ハ防ギ得ナイカ  
知レマセヌガ、政府カラ直接左様ナ處  
分ノ方法ハ致サヌ積リデアリマス、此  
ニ有價證券ノ如キハ、一人デ以テ或ツ  
會社ノ株ヲ澤山持ツト云フコトハ、聯  
合國ノ方針ニ於テモ禁ゼラレテ居ル、  
デアリマスカラ、例ヘバ從業者ニ若ク  
出來ルナラバ之ヲ適當ニ處分スルト  
フヤウナ方法デヤツテ行キタイト考  
テ居リマス、ソレカラ所謂新圓ト云フ  
モノガ或ル部分ノ人達ニ大分澤山入ツ  
テ居ルト云フコトハ、是ハ事實デアリマ  
スガ、私ハ之ヲサウ過大ニ見ルコ  
ハドウカト考ヘテ居リマス、殊ニ日本  
ニ國籍ヲ持タナイヤウナ向キニ或ル程  
度サウ云フ新圓ト云フモノガ入ツテ來  
ルコトハ事實ノヤウデアリマスルガ、  
是等ノ人ガ果シテ之ヲドウ利用スルキ  
ト云フコトヲ見マシテモ、サシテサウ  
心配ラスル程ノコトガナインヂヤナム  
カ、色々注意ハ致シテ居リマシ、然  
ニ政府ニ入りマシタ資産ヲ處分スルト  
云フヤウナ場合ニハ、十分其ノ點ヲ考慮  
シテ、又財閥ノ株デアリマストカ、其  
ノ他ノ閉鎖機關ノ株ヲ處分スルト云  
場合モ同様デアリマシテ、注意ハ當ニ  
致シテ居ル次第アリマス

ノ手ニ入ル場合ハ、是ハ已ムヲ得ナイ  
デハナカト云フヤウナ御考ヘモ持タ  
レテ居ルヤウデアリマスガ、隨テサウ  
云フ點カラ考へマシテモ、モット根本  
的理由カラ考へマシテモ、言ヘルノデ  
アリマスガ、今日新圓ヲ何トカシ  
テ貰ヒタイト云フコトハ、社會  
正義ノ觀念ニ基ク一般大眾ノ聲  
ニモナツテ居ルト云フコトハ、大藏大  
臣モ御承知ダラウト思ヒマスシ、色々  
ノ點カラモ考へ併セテ見テ、金融ノ面  
カラ新圓ニ對シテ手ヲ著ケルコトハ面  
白クナイト云フ滅相ノ御考ヘハ一應ソ  
レトシテ諒トサレルノデアリマスガ、  
私ハ根本的ニハヤハリモウ一ツ奥深ク  
考ヘテ見テ、今申上ゲマシタ國民ノ輿  
論ニ聽クコトガ政治ヘノ信賴ヲ回復ス  
ル根本デアツテ、ソレガ通貨ノ安定ヲ  
回復スル所ノ根本的ナ基礎條件ニナリ  
ハシナイカト云フコトヲ考ヘテ居ルモ  
ノデアリマスガ、此ノ點ニ關シテハ度  
度大藏大臣カラ言明ガアツタノデ、敢  
テ御考ヘテ御伺ヒシヨウトモ思ヒマセ  
ヌシ、又私ハ茲ニ提案サレテ居リマス  
ト云フコトハ明瞭デアルト考ヘテ居リ  
マスカラ、政府ガ實益ハナイト申サレ  
マスケレドモ、個人、法人ヲ通ジマシ  
テ戰利得稅ヲ全面的ニ沒收シタガ宜  
シ、又戰時公債ニシテモ何等カノ措  
置ヲ講ズベキデハナイカ、必ズ其ノ必  
要ニ迫ラレル時期ガアルト私ハ感ジテ  
居ルモノデアリマス、而シテ道徳的見  
地カラ申シマシテ、又經濟的ナ實際的  
ナ理由カラモ私ハ主張シタインデアリ  
マスガ、是等ノ諸點ニ付キマシテモ政

府ノ御見解ハ最早明瞭デアリマシテ、結局見解ノ相違ト云フコトニ歸著スルコトニモナルト思ハレマスルカラ、議事進行上ノコトモ考慮致シマシテ、此ノ點ニ對スル討議ヲ避ケタイト思ヒマスガ、唯一ツ、結局國內的ニハドウシテモ宜シイガ、海外的ノ場合ヲ考ヘタ時ニ此ノ點ヲ一ツ、御承知ノコトデハアリマスケレドモ、特ニ御考慮ヲ願ヒタイコトヲ私ハ強調ヲ致シテ置キタイト思フノデアリマス、「インフレ」防止、經濟再建ノ爲ニハ、通貨面バカリトイデクリ廻シシテ見テモドウニモナラナイノデアリマシテ、生産増強ノ面ヨリ以上重點ヲ置イテ考慮シナケレバナラナイト云フノハ、是ハ言フマデモゴザイマセヌ、ソコデ生産増強ノ面ニ思ヒヲ致シマス時ニ、色々途中ノ議論ノ過程ハ之ヲ省略致シマシテ、ドドノ詰リ、昨日小坂委員カラモ申サレマシタ通り、擴大再生產ノ爲ノ生産財貨ノ生産ニ重點ヲ置カレナケレバナラナイ、是ガ爲ニハ何ト申シマシテモ重要原料ニ付キマシテ聯合國ノ好意ト援助トニ依リマシテ、一日モ早ク國際經濟ニ參加ヲ許サレ、其ノ輸入ニ俟タナケレバナラナイノデアリマシテ、此ノ點ヲ度外視致シマシテハ、日本ノ經濟ヲ再建整備スルコトハ遺憾ナガラ覺束ナイト考ヘラレマス、此ノ點ハ識者モ意見ヲ同ジウセラル、所デアラウト考ヘルノデアリマスガ、ソコデ今日ノ我ガ國ノ企業並ニ金融機關ノ整備ト云フコトニ對シマシテハ、此ノ線ニ沿ヒマシテ、日本ガ遠カラズ國際經濟ノ本格的ニシテ且ツ自由ナル參加ヲ許サレタ時ニハ、外國商品ニ對抗シテ日本商品ガ太刀打ガ出來得ルヤウニ、日本ノ企

ト思フノデアリマス、藏相ハ先日來企業ノ固定資産ノ評價が問題ニナツテ來ル譯デアリマスガ、是ガ相當嚴重デナケレバナラナイト思フノデアリマス、藏相ハ先日來企業ノ固定資産ノ評價ハ勿論闇價格デハイケナイケレドモ、帳簿價格デモ無理デハナニカ、他ノ物價モ相當昂上ツテ居ルカラ、ソレトノ均衡モ相當考慮シテヤル必要ガアルダラウ、勿論海外ノ物價トノ關係モ考慮シテ適當ナ所ヘ考へタイト思フド云フコトロデハ仰シリハシナイカト云フ疑惑モ解ケナインデアリマス、結局軍需補償打切りノ打擊ヲ價格ノ値上リニ依ツテ「カバー」セシメル意向ガ濃厚デハナニカト云フヤウナ印象ガ強トイト思ハレマスガ、國際貿易開始ノ日本ノ經濟ヲ再建企業ヲ整備シ、金融機關ヲ整備シテ置居ルト云フコトニ關スル藏相ノ力強イ御考ヘ、御話ヲ此ノ際御聽キ致シテ置キタイト思ヒマス

ト考ヘテ、及バズナガラ其ノ方向ニ向  
ツテ努力シテ居ル積リデアリマス  
ソレカラ第二段ノ評價問題デアリマス  
スガ、御質問ノ中ニ甘クナリハシナナイ  
カト云フ心配ヲサレテ居リ、或ル一部  
ノ人ガサウ云フ心配ヲサレテ居ルコトモ  
モ知ツテ居リマスケレドモ、寧ロ私ハ  
逆ニ辛クナリ過ギハシナイカト云フ  
心配ヲシテ居ルノデアリマス、結局是  
ハ此ノ間カラ申シマシタヤウニ辛イノモ  
モ甘イノモ實ハイケナインオデアリマシ  
テ、飽クマデ日本經濟再建ト云フコト  
ヲ眼目ニ置キマシテ其ノ上ニ公正ナ評  
價ヲスル、斯様ナコトデ行キタイト用  
ヒマス

ダ十分デナカツタコトハ恐縮デアリマス  
スガ、是ハ今議會ニ於テ屢々他ノ委員  
會デモ申上ゲマシタヤウニ、目下其ノ  
充實改善ヲ期シテ居リマシテ、既ニ各  
縣廳ノアリマス所ニ相當ノ機關ヲ設ケ  
ルト云フヤウナコトモヤツテ居リマス  
ス、財產稅徵收ニ當リマシテハ萬遺憾  
者通告制度等モアリマスシ、色々サク  
ナキヲ期シタイト考ヘテ居リマス、又  
其ノ誘惑等ノ問題ニ付キマシテモ、財  
產稅ハ申告稅デアリマス、又所謂第三  
末端ニマデ申シマシテ萬全ヲ期シタイ  
ト思ツテ居リマス

ヲ戴キマシテ省略致シタイト思ヒマス  
先ツ公平ノ問題ニ付テ御尋ネ致シタ  
イト思ヒマスノハ補償打切りニ依リマ  
ス損失ノ負擔ヲ「ブール」計算ニ於テ共  
同ノ負擔ニスル、特ニ企業間、更ニ問  
題ニナリマスノハ金融機關ノ損失補償  
ノ問題デアリマスガ、是ハ多數ノ預金  
者ヲ持ツテ居リマス、庶民階級ノ間ノ  
公平ニ影響スル所ガ大キイノデ、當然  
「ブール」計算ニ依ル損失負擔ト云フコ  
トガ考ヘラルベキデアルト思ヒマス  
ガ、是ハ前ドナタカ委員ノ質問ニ對シ  
マシテ藏相ハ結論ダケ申サレテ其ノ途  
中ニデツツノコトガ考ヘラレタガ、個別  
負擔ニシタト云フ御話デアリマシタ  
ガ、私ガコ、デ改メテ御尋ネ致シタイ  
ノハ其ノ御答辯ニナリマシタ御結論ニ  
至ル理由ニ付テ御尋不致シテ置キタイ  
ト思ヒマス、何ガ故ニ「ブール」計算ヲ  
避ケラレタノカ、其ノ理由ヲ簡潔ニ御  
尋ネ致シタイト思ヒマス

銀行ノ方ハ第二封鎖ガ少イ、殊ニヒド百何十億ノ總額ノ預金ガアルノデアリマスガ、其ノ中ニ第二封鎖ニ入ルノハ六億圓程度、然ルニ補償打切りデ受ケル損害ハ大キイ、斯ウ云フヤウナコトニナリマス、之ニ反シテ大銀行アタリハ第二封鎖ガ多イモノデスカラ、大額預金者ノ負擔ニ依ツテ補償打切りノ結果未ヲ付ケルコトガ出来マス、サウデナイト細カイ預金者ニモ相當ニ迷惑ヲ及ボスコトニナリマス、斯ウ云フヤウナ利害兩面アリマシテ、ドツチトモ中々判斷シニクイ譯デアリマスガ、今私が最後ニ申上ダシタ理由ニ依リマシテ今日ノヤリ方ヲ實際上採用シテ居リマス

ニ付キマシテノ評價委員會、調査委員會等々、或ハ打切りニナリ、マシタ會社ノ再建ノ委員會等、多數委員會制度ガ公平ヲ期スル爲ノ機關トシテ設ケラレテ居リマス、隨テ評價ノ公平ヲ期スル一ツノ實效ヲ現ハスカ、現ハサナイカト云フコトハ、是等委員ノ選任、構成、運營如何ニ大キク懸シテ居ルト思ヒマス、實ハ今マデノ官僚ノ稅務機關デハ到底之ヲ正確ニ捕捉スルコトハ不可能デアルト私ハ考ヘマス、例ヘバ現在ノヤウナ非常ニ「ダイナミック」ノ經濟狀態ノ場合ニ於チ、而モ此ノ度ハ財產稅ノ如キハ十萬圓以上ノ國民全部デアリマスノデ、全國ニ及ブ譯ニアリマスガ、ソレヲ稅務機關ダケデ捕捉スルト云フコトハ殆ド不可能デアリマス、從來ノ所得稅ヲ一ツ取ツテ見マシテモ、今年度ノ所得稅ノ如キハ所得稅調查委員會ノ參加ヲ求メマシテモ、非常ニ各地ニ問題ガアツタ程ニアリマス、課稅ニ對シテ納得ヲセシムルモノハ、一二公平ヲ期スルコトデアルト思ヒマスガ、サウ云フ意味デ此ノ各種委員會ノ選任方法並ニ構成、運營ト云フモノガ此ノ成否ヲ決シマス、一ツノ要點デハナイカト思ヒマス、之ヲ今申シマシタ從來ノ所得稅調查委員會ニ例ヲ取ツテ見マシテモ、名目トシテハアリマシタガ、是ハ稅務機關ノ官僚的ナ心得違ヒト、他方所得稅調查委員トナツテ居リマス、ソコデ此ノ各種委員會ノ民主化ト云フコトガ今度ノ法案ノ中ニ於テ徹底ニ企畫サレ、謳ハレナケレバナラナイト存ジマス、ソレガ此ノ度ハ却テ官

○池田(勇)政府委員 評價ノ問題ニ付  
キマシテ企業再建ノ場合ハ私カラ御回答シマセヌ、調査委員會ノ制度ニ依リマス財產稅ノ賦課ニ對シマスル公平問題デゴザイマスガ、從來ノ所得調査委員會ニ於キマシテハ、御話ノヤウナ點モ遺憾ナガラナイコトハゴザイマセヌ、今回ハ從來ノ所得調査委員會ノ制度ヲ改メマシテ、調査委員會ニ諮詢シテ稅務署長ガ決定スルト云フ立場ヲ根本的ニ變ヘマシタ、納稅者ガ自分ノ財產價格ヲ申告シテ、自分で計算シテ財產稅ヲ納メル、斯ウ云フ立場ナノデゴザイマス、隨ヒマシテ今租稅ノ民主化ナト云フ御話ガゴザイマシタガ、「アメリカ」、「イギリス」等ノ所謂民主主義國家ニ於キマシテハ、稅制ニ對シマシテ諮詢ノ委員會ガゴザイマセヌ、關係方面ニ財產稅調査委員會、所得稅調査委員會ハ無用ノ長物デアル、斯ウ云フ強意見ガアツタノデアリマスガ、我々致シマシテハヤハリ納稅者ガ本邦告ナズツテモ、稅務署ノ意見ト違フ時ニハ、稅務署長ガ決メルト云フ風ニシテ、寧ロ大勢致シマシテハ遂行シテ居ルヤウナ感ジヲ受ケルノデアリマスガ、ソレニ對シマスル御所見竝ニ私ガシ責任ノアル御答辯ヲ煩ハシタイト在ジマス。

宜イ、斯ワ云フ考ヘノ下ニ昔ノ制度ト  
ハ違ツタ意味ノ委員會ヲ設ケルコトニ  
致シマシテ、其ノ申告ガ不相當アツ  
タ場合、又申告ガナイ場合ニ限ツテノ  
ミ、サウ云フ委員會ヲ利用スルト云フ  
コトガ、前ヨリモ進ンダ民主的ナヤリ  
方ダト考ヘマシテ、サウ云フ方法ヲ採  
ラントシテ居ルノデザイマス  
○ 糟穢委員 民主的ノ方法ニ付キマシ  
テハ固ヨリ各國ニ依ツテ違ヒマス、私  
ハ一律ニ選舉ニ依ツテ委員會構成スル  
カラ民主的デアル、サウデナイモノモ  
ハ民主的デハナイト云フノデハナイン  
デアリマシテ、國民ノ訓練サレタル狀  
況ニ依ツテ違フト思ヒマス、恐ラク推  
測致シマスノニ、今局長カラ御話ぞ  
アリマシタ米英ニ於キマシテハ、納稅  
ニ對シマスル國民ノ義務ノ自覺ト云フ  
モノガ、日本ヨリハ高クハナイト云フ  
風ニ思フノデアリマス、或ハ又徵稅機  
關ノ制度組織、或ハ官僚ノ心得ガ日古  
ヨリ遙カニ民主的ニ出來テ居ルカラ  
ソ、官民協力ノ自覺ノ下ニ其ノ目的が  
達シ得ラレルノデアツテ、形ノ上ダケ  
デ之ヲ論ズルコトハ如何カト思ヒ  
ス、私ハ何モ觀念ダケデ言フノデハナ  
シニ、眼前ニモウ既ニ今年度ニ於キ  
スル所得稅ノ課稅ノ實情ニ即シマシテ  
其ノコトヲ強ク御反省フ願ヒタイト申  
シテ申上ゲテ居ルノデアリマス、例の  
バ茲ニ第三者ノ通報制ト云フモノガズ  
ザイマスガ、是ハ言フマデモナク、大  
人ノ申告制ニ對シマスル或ル程度ノ白  
信ノナサヲ現ハシテ居ルノデアリマス  
テ、同時ニ斯ワ云フ制度ヲ設ケマスコ  
リハ、從來ノ所得稅ノ調查委員會ノ實  
情ニ即シテ申シマスレバ、一ツノ稅稅  
署單位ニ委員會が設ケラレマシタ其  
ニ、其ノ町村單位ニ選出サレマシタ其

ノ村、其ノ町ノ人々ガ納得ノ行ク調査委員ガ各町村カラ而モ公選ニ依ツテ出テ居ルト云フコトガ必要デハナイカト思ヒマス、今仰セノアリマシタ通リニ虚偽ノ申告ヲシ、或ハシナカツタ者ガアツタ時ニハ、評價委員會ニ於テ識者ヲ集メテ云ヒマスガ、評價基準ヲ決定致シマスル委員會デアリマシタナラバ、是ハ識者デアルコトガ必要デアリマスガ、又ソレデ足リルト思ヒマスルケレドモ、各申告ノ正否ヲ査定致シマスル場合ニ於キマシテハ、如何ニ學識經驗ガアリマシテモ、東京ノ委員會ガ九州ノ或ル町村ノ資産家ノ實情ヲ調査スルコトハ不可能ダラウト思ヒマス、是ハ言フマデモナク、其ノ村、其ノ町ニ居リマスル納得ノ行ク調査委員ガ、町村別ニ稅務署単位ニ參加シテ居ルト云フコトガ最モ必要ナコトデアルト思ヒマスノデ、私ハ抑問答ハ致シマヌガ、今局長ノ御話ニナリマシタノト、私ノ言ハントスル所トハ、其ノ達セントスル目的ハ同ジデアリマスガ、稅務機關ト國民ノ現狀ニ對スル認識ガ達ヒ、方法ガ違ヒマスカラ、重ネテ其ノコトヲ主張致シテ先ニ進ミタイト存ジマス

○石橋國務大臣　此ノ財產稅ハ、左様  
ナ金錢等ニ關シマシテハ三月二日ニ調  
査ガシテアリマス、ソレニ依ツテ課稅  
スルノデアリマスカラ、現在各人ガド  
レダケノ金ヲ持ツテ居ルカト云フコト  
ハ問ハナイノデアリマス

○池田(男)政府委員　財產稅調查委員  
會ハ、御話ノ通りニ、全國ニ三百七十  
幾ツノ稅務署ガコザイマスガ、其ノ稅  
務署毎ニ置クコトニ相成ツテ居リマス  
ルノデ、地方ノ實情ガ十分分ルコトト  
考ヘテ居リマス

○穗積委員　其ノ委員會ノ委員ノ選出  
ハ町村別カラ出ルト云フヤウニナツテ  
居リマスカ

○池田(男)政府委員　各町村カラ一人  
づ、出テ戴ク程度ニハ相成ラナイト思  
ヒマス、何分ニモ納稅者ガ五十一萬人  
デコザイマシテ、所得稅等ノ十分ノ一  
程度ノ納稅人員ニナツテ居リマス、デ  
アリマスカラ、一人モナイ村モ相當ア  
ルト思ヒマスノデ、各村カラハ出テ戴  
ク譯ニハ參ラヌト思ツテ居リマスガ、  
只今各稅務署ニアリマス所得調查委員  
ノ數ヨリハ出來ルダケ多クシタイ、斯  
ウ云フ氣持ヲ持ツテ居リマス

○穗積委員　先程ノ新聞ノ問題ハ私一  
寸思ヒ達ヒヨシテ居リマシタ、ソレカ  
ラ戰災者、引揚者ノ問題デアリマ  
ソレト、極端ナ例ヲ申上ゲマスレバ、  
戰時利得者或ハ閭行爲ニ依リマス過當  
ナ新圓利得者トノ公平ノ問題デアリマ  
スガ、戰災者引揚者ノ控除額ガ、家庭  
内ニ於ケル日常用品或ハ什器ト云フ

○池田(勇)政府委員 戰災者ノ控除額ヲ御決定ニナツタ  
付キマシテハ色々ナ議論ガゴザイマス  
ス、又實際問題ト致シマシテ戰災ノ程  
度ニ餘程輕重ガゴザイマス、當初ハ大  
體一家族一萬圓ト云フ考ヘテ持ツテ居  
リマシタガ、其ノ後ノ物價事情等ヲ考  
ヘマシテ、一人五千圓、此ノ程度ナラ  
バ宜ノデハナカ、斯ウ云フ氣持ヲ  
持ツテ居リマス

○總務委員 財產稅法案ノ附則ノ所デ  
ゴザイマスガ、是ハ山林、立木ノコト  
ヲ特ニコ、デ規定シテ居ラレルヤウド  
アリマスガ、之ヲ譲渡シ或ハ之ヲ物納  
ニ充テダ場合ノ控除額デゴザイマス、  
申換ヘマスナラバ、立木、山林ニ依リ  
マス納稅者ノ所得稅ノ問題ダト思ヒマ  
スガ、是ハ所得稅ノ全額免除ニハナツ  
テ居ナイヤウニ思ヒマス、例へば百萬  
圓ノ現金ヲ持ツタ資產家ト百萬圓ノ山  
林ヲ持ツタ資產家ノ納稅義務者ヲ考ヘ  
マシタ場合ニ、此ノ計算デヤリマスト  
山林所有者ノ方ガ不利ニナツテ居ルヤ  
ツニ思ハレマスガ、其ノ點ハドウ云フ  
コトデゴザイマセウカ、一寸御伺ヒ致  
シテ置キタイト思ヒマス

○ 積委員 次ニ今度ノ處理ノ問題デ  
アリマスガ、處理ノ問題ニ付キマシテ  
ハ、失業問題、生産復興問題、「イン  
フレ」ノ問題等ガアルト思ヒマスガ、  
失業乃至ハ生産ノ問題ニ對シマシテハ  
省略致シマシテ、一ツ御尋ネ致シテ置  
キタイト思ヒマスノハ、物納ニ依リマ  
ス場合ニ、例ヘバ今ノ山林ノ例ヲ取りマ  
スト、山林所有者ガ財產税ヲ納メマス  
場合ニ、之ヲ賣却致シマシテ賣却代金  
デ納メル場合ト物納デ納メル場合ト出  
來ル譯ダト思ヒマス、所ガ山林等ニ  
付キマシテハ、先程御話ノアリマシタ  
通リニ、之ヲ買ヒ向フ者ハ極ク特定ノ  
者シカ考ヘラレナイ、特二十萬圓以上  
ノ資產ヲ持ツ者ハ國中全部ガ納稅義務  
者トナリマシテ賣リニ出ル譯デアリマ  
ス、サウ云フ場合ニ是ハ特に管理能力  
ノナイ者ニ移轉スルコトガ考ヘラレル  
ノデアリマス、戰時中ニ濫伐致シマシ  
タ爲ニ、今日ノ治水或ハ灌漑其ノ他電  
力等ニ付キマシテ非常ニ山林濫伐ニ依  
ル惡結果ガ得出居ルヤウニ思ヒマス  
ガ、之ヲ、納稅義務者ノ勝手ナ賣賣ニ  
セサナイデ、寧口或ル程度ノ國家代管  
理スル方同ニ向フベキデハナイカト思  
ハレル點ガ一端デゴザイマス、ソレカ  
ラ、同時ニ、物納ニ依リマシタ是等  
ノ山林、工場等生産的物件等ノ相當  
技術的而モ善意ノ管理ヲ要シマスル

物件ノ管理ニ付テ、先程モ一寸御觸  
レニナツタヤウデアリマスガ、ドウシ  
云フ態勢、ドウ云フ運營ノ方針ヲ御立  
ト云フコトガ考ヘラレル譯アリマス  
ガ、其ノ管理方法如何ニ依リマシ  
テハ、是ハ後ノ日本經濟へノ影  
響ト云フモノガ非常ニ大キイヤ  
ウニ思ヒマスノデ、此ノ點モ、ドウシ  
フ機構デ、ドウ云フ方法デ、是等ノ財  
産ヲ御管理ニナル積リデアルカ、其ノ  
點ヲモウ少シ明カニシテ戴キタイト思  
ヒマス

○石橋國務大臣 山林ノ場合ハ、是ハ  
今ノ御話ノ中ニモアリマシタヤウニ  
中々簡單ナ財産デナイト思ヒマス、將  
來ノ日本ニ對シテ非常ナ重要な關係ヲ  
持チマスカラ、且又山林關係ノ方々々カ  
ラノ陳情ナドモアリマシテ、其ノ中ニハ  
御尤モナ點モアリマスノデ、是ハ、山林  
ニ依ツテ納稅サレル場合、又山林ガル  
納ニナツテ其ノ後如何ナル管理ヲスル  
カ、ドウ云フ處分ヲスルカト云フコトニ  
付テハ、尙ホ十分研究シテ適當ニヤリ  
タイト思ヒマス、ソレカラ、一般的ニ  
申シマスト、其ノ他ノ有價證券デアリ  
マストカ、或ハ處分シテ宜イ財產ニ付  
キマシテハ、單ニ政府ノ役人ガヤル  
云フコトバカリデナク、日本ニモ信託  
會社其ノ他ノ色々ナ財產管理及ビ財產  
處分ニ付テノ訓練ヲ經タ人達ガ相當等  
ウシテ此ノ處分或ハ管理ヲヤツテ行  
ク、斯様ナ考ヘデアリマス

○石橋國務大臣 實ハマダ具體的ニハ  
決マツテ居リマセヌ、目下ソレ等ノ專  
門家ナドトドウ云フ方法デヤツタラ宜  
カ、又ソレヲ政府機構トドウ云フ風  
ニ結ビ付ケタラ宜イカト云フコトヲ研  
究シテ居ル段階デアリマス  
○穠積委員 ソレニ付キマシテモ先程  
御尋不致シマシタ不動産ニ付テ、サウ  
云フヤウナ善意ノ管理ヲ要シ、特ニ今  
後ノ日本經濟ニ重要ナ關係ヲ持チマシ  
タ物件デアリマスガ、サウ云フヤウナ  
モノガ單ナル新圓所得者ガ財産ヲ保持  
スル物ニ、或ハ管理能力ノナイ者ガ之  
ニ束縛ギテスルト云フ形デ、不動産物  
件ノ管理ニ當ル場合ガ相當アルト考ヘ  
ラレルト思ヒマス、又納稅者ノ方モ若  
シコ、ニ闇賣ト云フコトガアルト致シ  
マスナラバ、ソレヲ賣リマシテ、評  
價價格ヨリハ遙カニ高イ價格デ賣ルコ  
トニ有利サヲ感ジテ、サウ云フ重要ナ  
モノガ國家目的ニ副ハナイ人々手ニ  
移ル場合ガアリマスカラ、サウ云マ場  
合ニ於キマシテハ之ヲ制限スル必要ガ  
アルト思フノデアリマスガ、其ノ點ニ  
付テノ御用意ヲ承ツテ置キタイト思ヒ  
マス

務署等ト相談ヲシマシテ納稅ノ方法ヲ  
決メル譯ニアリマス、其ノ場合ニ實際  
ノ處理ト致シマシテ、今御質問ニナリ  
マシタヤウナ心配ノ點ハ實際問題トシ  
テ處理ガ出來ルノデアリマス、斯様ニ  
考ヘテ居リマス

○總積委員 最後ニ御尋ネ致シテ置キ  
タイト恩ヒマス、是ハ財政全般ノ問題  
ニ付テデアリマスガ、此ノ度ノ財產稅  
ハ當初ハ額ニ於キマシテモ一千萬圓  
ヲ見込マレ、其ノ使途ニ付キマシテハ  
戰爭債券ノ償却ト云フコトニ主力ヲ置  
イタヤウニ思ハレマスガ、是ガ今度ハ  
變ツタ譯デ、隨テ此ノ度ノ稅收ハ全部  
一般會計ニ使ハレルコトニナルト想ヒ  
マス、而モ恐ラク納稅額ノ七〇%前後  
ト云フモノガ物納ニ依ル、サウンナリマ  
スト大藏證券ニ依リマシテ新聞ヲ發  
行スルト云フコトニナラウト思ヒマス  
ガ、サウンナツタ時ニ擬制資本ノ方ハ打  
切ルコトガ出來マスガ、豫算ノ面ニ於  
ケル擬制的ナ中心デアリマス戰債ハ飽  
クマデモ残リ、今年度ノ會計年度ニ於  
キマシテモ、追加豫算等恐ラクハ赤字  
公債ガ累積セザルヲ得ナイト云フコト  
ニナツチ、而モ本年度ノ此ノ度ノ財產  
稅ハ臨時財產稅ト云フコトデアリマス  
ノデ、是ガ恆久的ナ稅制ノ中ニ含マレ  
テ居ラヌヤツニ思ヒマス、サウンナリマ  
スト此ノ二ツノ課稅ヲ實行致シマシタ  
後ノ日本經濟ノ生產性ノ昂揚並ニ逆ノ  
面ノ「インフレ」ノ面デアリマスガ、ソ  
レハノ影響ハ、寧ロ逆行スル結果ニナリ  
ハシナイカ、單ニ財產稅ヲ富ノ再分配  
ト云フダケニ局部的ニ考ヘマスレバ、  
シテハ、一切ノ施策ノ全體ニ對スル影  
響ニ於テ考ヘナケレバチラスト恩ヒマ

スガ、サウシテ見マスト、此ノ使途ニ  
問題ハ大キナ一ツノ穴トシテ、後ニ財政ノ編成ノ上ニ残ルヤウニ思ハレ  
マシテ、或ル程度ノ方針ヲ立テ、置ニ付マシテ、一ツ來年度ノ豫算ノ編成ラ  
シテ、洩ニ無責任ナコトヲ、他カラ強制サレテ行ク結果ニナル謗リヲ免  
濟ノ將來特ニ來年度カラノ財源ト致シテ、而モ今申シマシタ通りニ、  
レザル戦債ハ残リ、今年度ノ豫算ニ於キマシテモ更ニ赤字公債ガ累積サレ、  
サウシテソレヲ或ル程度デ「カバー」  
ル財産税ガ、七〇%ト云フモノガ大體證券トシテ少クモ今年度新圓トシテ  
發行サレルト云フコトニナツテ參マリ、  
スト、益ミ「インフレ」ノ面ガ助長サ  
ル、サウナルト、來年度ノ日本ノ財政状  
算ハドウ云フモノヲ財源ニシテ生レル  
ノカ、全ク暗澹タル状況シカ豫想サ  
ナイヤウニ思ハレマス、而モ來年度ニ  
於キマシテハ、サウシテ考ヘマスル  
ト、一方ニ於テハ戦債ヲ切メトスル所  
債ノ處理ノ問題ト、一方ニ於テハ所得  
稅或ハ營業収益稅等ノ「インカム」  
之ヲ取立テテ行ク稅制ト云フモノヲ  
ケノ所得稅ヲ中心トスル稅源ヲ上ゲル  
ダケノ生産復興ト云フコトハ考ヘラ  
ソレモ來年度カラ歲出ノ面ハ極力節  
約致シマシテモ、尙且ツ之ヲ補フグ  
ヘテ行カナケレバナラスト思ヒマスガ、  
ナイ、サウナリマスルト、或ル程度ノ  
財源ト致シマシテハ、モウ大衆的ノ豫算  
通課稅シカ考ヘラレナイヤウニ思ハ  
マス、サウナリマスト、新タニ特ニ  
シノ財產稅問題ハ、本年度ノ豫算ノ所  
ヲ睨ミ合スダケデナシニ、モウ少し  
「ダイナミック」ニ眺メマシテ、日本本  
マシテ、或ル程度ノ方針ヲ立テ、置ニ付  
シト、洩ニ無責任ナコトヲ、他カラ強

ガアリマシテ、ソレニ付テノ財源ハ日本政府  
下色々考ヘテ居リマス、是ハ日本政府  
ダケデハイケナイ問題デアリマスガ、危険  
結局財政ノ上カラ日本ノ「インフレ」ヲ  
起スト云フコトハ聯合軍ノ占領目的ニ  
モ反スルノデアリマス、其ノ方面ニモ  
尙ホ話ヲスル餘地ガアル、斯様ニ考ヘ  
テ居ル次第アリマス、是ハ戦後ノ何  
處ノ財政デモサウデアリマスガ、危険  
點ハ結局賠償及ビソレト同種類ノ歳出  
ニアリ、其ノ問題ガ解決サレバ日本ノ  
財政ニ於テモ大體危險ハナイ、斯様  
ニ考ヘテ居リマス  
○彌縫委員 繼キマシテ一寸御尋本政  
スコトガアリマスガ、戦債ノ打切りリ  
付テハシナイト云フ方針デアル、是ハ  
承ツテ居ル譯デアリマスガ、我々ハ又  
問題ガ得出來ルコトハ必然ダト思ヒマ  
スガ、ソレハソレントシテ一方財産税ニ  
付キマシテ、今後モソト輕率ナモノヨ  
恒久化シテ行ク、臨時財産税デナシニ  
サウ云フコトニシテ行クカ御所見ヲ同  
ツテ置キマス  
○石橋國務大臣 恒久的ノモノニナリ  
マスト、是ハ財産税ト云フ言葉デヌ  
ガ、所謂「キャビタル・レビューン」ノ  
財產稅アリマスガ、是ハ恒久化シ  
ナイ、是ハ一度限りノモノニアリマ  
ス、恒久化スルナルト何等カノ形  
所得稅的ナモノニナル、假ニ財產ヲ一  
ツノ所得ノ課稅ノ標準ニスルト云フ  
トハ有リ得ルト思ヒマスガ、ヤハリ財  
得稅的ノモノニナリ得ルト思ヒマス  
○穂積委員 未ダ御尋不致シタ  
ヒマスガ、御答ヘノ如クデアレバアル  
程、來年以後ノ財政編成ガ益々問題  
テ残シテ居ル、割當ノ時間ガ來マシク  
カリ、新圓階級ノ捕捉ト共ニ、稅制ノ  
生產的合理的な改革ヲ今後ノ問題トシ  
テ

○本多委員長 鈴木明良君  
○鈴木(明)委員 最後ニ私ハ厚生大臣ニモ質問シタイト思ヒマスガ、御出席ヲ御願ヒ出来レバ結構アリマス、財産税ハ三月三日ヲ基準トシテ決定スルトシテモ、其ノ時ニ物ヲ澤山持ツテ居ツタノヲ、最近ニナツテ新圓ニ全部換ヘテ居ル、ソコデ大藏大臣ハ新圓ニ對シテハ手ヲ著ケナイトスレバ、新圓ニシタ是等ノ人ニ對シテハ申告制ヲ採用シテモ私ハ意味ガナイト思フ、是等ニ對シテハドンナ風ニ處置スル積リカ、御尋ネ致シタイト思ヒマス、又國民ニ貯蓄運動ヲ起シテ誰モ私ハ現在ノ状態デハ貯蓄スル人ハナイト思ヒマス、物ノ裏付ケノナイ新圓ノ放出ハドウ考ヘテモ「インフレ」ノ對象トナル、而モ悪性「インフレ」トナル虞ガ十分ニ私ハアルト思ヒマス、ソコデ貯蓄運動ガ假ニ成功シタトシテモ、其ノ金ハ眠ツテ居ル金ヲ金融機關ヲ通ジテ流通過程ニ抛リ込みコトニナル、ソレデハ「インレフ」ノ最大ノ原因トナルト思ヒマス、此ノ點大藏大臣ハドウ考ヘテ居ラレマスカ、尙ホ貯蓄ハ一般市中銀行ニハ金ハ現在ナイト思フ、其ノ救濟策ヲヤル考ヘテハナイノカ、御伺ヒ致シタイ

マスカ、ソレハヤハリモノノニ課ケル譯  
デアリマス、併シナガラ其ノ人ハ既ニ  
物ガナイ、物ニモ依ルノデアリマスガ、  
物ガナイ、例へバ田畠、山林ト云フモノ  
ガ假ニアツタシテ賣ツテシマツタ、  
ユチラハ、其ノ時ノ物ヲ調査シテ課ケ  
ル譯デアリマス、ダカラシテ納稅者ハ物  
ガナケレバ金デ拂フト云フコトニナル、  
ソレカラ第二點デアリマス、是ハ御意  
見デアリマスガ、屢々申上ダマスヤウ  
ニ、現在ニ於テハ幸ヒニシテ通價價值  
ハ此ノ春カラ稍ミ安定ラ致シテ居リマ  
ス、サウシテ通貨ト云フモノ持ツテ  
居レバ何カニナルト云フ信念デ退藏サ  
レテ居ルモノト思ビマスカラ、金融機  
關ニ金ヲ預ケテモ安心ダト云フコトデ  
アレバ私ハ預金ハ必ズ殖エルト考ヘテ  
居リマス現ニ日本銀行ガ新聞ニ對シテ  
懸念ハナイト云フコトヲ多少ナリ宣  
傳シテ吳レマシタ結果ナドヲ見マシテ  
モ、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

第三點ハ、實ハ一寸質問ガハツキリ  
マス  
○鈴木(明)委員 第一點モ私が御尋不  
可、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

居レバ何カニナルト云フ信念デ退藏サ  
レテ居ルモノト思ビマスカラ、金融機  
關ニ金ヲ預ケテモ安心ダト云フコトデ  
アレバ私ハ預金ハ必ズ殖エルト考ヘテ  
居リマス現ニ日本銀行ガ新聞ニ對シテ  
懸念ハナイト云フコトヲ多少ナリ宣  
傳シテ吳レマシタ結果ナドヲ見マシテ  
モ、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

○鈴木(明)委員 第二點モ私が御尋不  
可、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

居レバ何カニナルト云フ信念デ退藏サ  
レテ居ルモノト思ビマスカラ、金融機  
關ニ金ヲ預ケテモ安心ダト云フコトデ  
アレバ私ハ預金ハ必ズ殖エルト考ヘテ  
居リマス現ニ日本銀行ガ新聞ニ對シテ  
懸念ハナイト云フコトヲ多少ナリ宣  
傳シテ吳レマシタ結果ナドヲ見マシテ  
モ、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

○鈴木(明)委員 第二點モ私が御尋不  
可、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

居レバ何カニナルト云フ信念デ退藏サ  
レテ居ルモノト思ビマスカラ、金融機  
關ニ金ヲ預ケテモ安心ダト云フコトデ  
アレバ私ハ預金ハ必ズ殖エルト考ヘテ  
居リマス現ニ日本銀行ガ新聞ニ對シテ  
懸念ハナイト云フコトヲ多少ナリ宣  
傳シテ吳レマシタ結果ナドヲ見マシテ  
モ、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

○鈴木(明)委員 第二點モ私が御尋不  
可、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

居レバ何カニナルト云フ信念デ退藏サ  
レテ居ルモノト思ビマスカラ、金融機  
關ニ金ヲ預ケテモ安心ダト云フコトデ  
アレバ私ハ預金ハ必ズ殖エルト考ヘテ  
居リマス現ニ日本銀行ガ新聞ニ對シテ  
懸念ハナイト云フコトヲ多少ナリ宣  
傳シテ吳レマシタ結果ナドヲ見マシテ  
モ、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

○鈴木(明)委員 第二點モ私が御尋不  
可、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

居レバ何カニナルト云フ信念デ退藏サ  
レテ居ルモノト思ビマスカラ、金融機  
關ニ金ヲ預ケテモ安心ダト云フコトデ  
アレバ私ハ預金ハ必ズ殖エルト考ヘテ  
居リマス現ニ日本銀行ガ新聞ニ對シテ  
懸念ハナイト云フコトヲ多少ナリ宣  
傳シテ吳レマシタ結果ナドヲ見マシテ  
モ、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

○鈴木(明)委員 第二點モ私が御尋不  
可、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

居レバ何カニナルト云フ信念デ退藏サ  
レテ居ルモノト思ビマスカラ、金融機  
關ニ金ヲ預ケテモ安心ダト云フコトデ  
アレバ私ハ預金ハ必ズ殖エルト考ヘテ  
居リマス現ニ日本銀行ガ新聞ニ對シテ  
懸念ハナイト云フコトヲ多少ナリ宣  
傳シテ吳レマシタ結果ナドヲ見マシテ  
モ、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

○鈴木(明)委員 第二點モ私が御尋不  
可、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

居レバ何カニナルト云フ信念デ退藏サ  
レテ居ルモノト思ビマスカラ、金融機  
關ニ金ヲ預ケテモ安心ダト云フコトデ  
アレバ私ハ預金ハ必ズ殖エルト考ヘテ  
居リマス現ニ日本銀行ガ新聞ニ對シテ  
懸念ハナイト云フコトヲ多少ナリ宣  
傳シテ吳レマシタ結果ナドヲ見マシテ  
モ、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

○鈴木(明)委員 第二點モ私が御尋不  
可、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

居レバ何カニナルト云フ信念デ退藏サ  
レテ居ルモノト思ビマスカラ、金融機  
關ニ金ヲ預ケテモ安心ダト云フコトデ  
アレバ私ハ預金ハ必ズ殖エルト考ヘテ  
居リマス現ニ日本銀行ガ新聞ニ對シテ  
懸念ハナイト云フコトヲ多少ナリ宣  
傳シテ吳レマシタ結果ナドヲ見マシテ  
モ、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

○鈴木(明)委員 第二點モ私が御尋不  
可、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

居レバ何カニナルト云フ信念デ退藏サ  
レテ居ルモノト思ビマスカラ、金融機  
關ニ金ヲ預ケテモ安心ダト云フコトデ  
アレバ私ハ預金ハ必ズ殖エルト考ヘテ  
居リマス現ニ日本銀行ガ新聞ニ對シテ  
懸念ハナイト云フコトヲ多少ナリ宣  
傳シテ吳レマシタ結果ナドヲ見マシテ  
モ、其ノ效果ガアルヤウニ考ヘテ居リ  
マス

○鈴木(明)委員 次ニ戰時補償ノ對象  
等ニ對シテハドンナ風ニ處置ヲスル積  
合ニ、物ガナクナツテ居レバ、金ニニ  
ツテ居ルノデアリマスカラ、新聞デ財  
產ヲ納メテ戴キマス

○鈴木(明)委員 ソレハ表向キ出來ル  
ヤウデアリマスガ、私ハ絕對不可能デ  
アルト思ヒマス、尙ホ十分ニ御檢討願  
ヒタイト思ヒマス、ソレカラ最後ニ御  
尋ねシタ點ハ、時著運動ガ假ニ成功シ  
タトシテモ、退藏サレテ居ル金ヲ金融  
機關ヲ通ジテ結局流通過程ニ拋り込マ  
レルコトニナル、ソレデハ結局「イン  
フレ」ノ最大原因ニナルト思フ、此ノ  
點大藏大臣ハドウ考ヘテ居ラレルカト  
云フ點アリマス

○石橋國務大臣 一寸伺ヒ損ツタノデ  
スガ、損失ヲ補償スルト云フ點ハドウ  
云フコトデゴザイマスカ

○鈴木(明)委員 物資ノ讓渡、引渡、  
或ハ設備ノ讓渡ト云フヤウナ、生產再  
開ノ爲ニ主務大臣ガ命令ヲ出セルノダ  
ト云フ風ニ臨時物資需給調整法テ明記  
シテ居リマス、サウ云ツタ命令ガ出タ  
スカラ、此ノ會社ニ對シテ損失ヲ補  
償スルト云フコトガ明記サレテ居リマ  
ス、其ノ損失ヲ補償スレバ、結局戰時  
補償ヲ打切ラレテモ損失補償ガアリマ  
スカラ、此ノ會社ニ對シテ何等影響  
ガナイヤウニ私ハ思フノデス

○鈴木(明)委員 其ノ次ニハ補償スル  
ト云フ風ニ臨時物資需給調整法テ明記  
シテ居リマス、サウ云ツタ命令ガ出タ  
スカラ、此ノ會社ニ對シテ損失ヲ補  
償スルト云フコトガ明記サレテ居リマ  
ス、其ノ損失ヲ補償スレバ、結局戰時  
補償ヲ打切ラレテモ損失補償ガアリマ  
スカラ、此ノ會社ニ對シテ何等影響  
ガナイヤウニ私ハ思フノデス

○石橋國務大臣 ソレハ全ク問題ガ達  
ドウスルカ、即チ新勘定ノ第一封鎖預  
金ニ付テハ、一般國民ハ政府ノ補償ガ  
アルモノト考ヘテ居ルガ、金融機關再  
建整備法ノ第三十三條ニ依ルト必ズシ  
モ補償ヲ受ケルトハ限ツテ居ナイノデ  
アリマス、同僚議員ノ質問ニ對シテハ  
シテ行クモノニアリマスカ、御尋不致  
シマス

○石橋國務大臣 マダ構成員ノコトハ  
法律モ通過シテ居リマセヌノデ、具體  
的ニ定メテ居リマセヌガ、中央ニ設ケ  
タルガ如キモノハ、最近ノ方針ニ依  
リマシテ、成ルベク議會ノ諸君等ニ一  
ツ御加入ヲ願フヤウナ方針ヲ執リタイ  
ト思ヒマス、尙ホ安定本部トハ直接ノ  
關係ヲ持チマセス

○鈴木(明)委員 次ニは同僚議員カ  
ラモ出タト思フノデスガ、政府ハ財產  
稅ノ納入ニ物納ヲ認メルト云フガ、物  
納シ財產ハ先程御答辯ガアリマシタ  
ヤウニ、或ル期間ヲ經テ處分スルト云フ  
ノデアリマスルガ、例へバ信託會社ト  
云フヤウナモノニ信託スル場合モアル  
デセウ、ソレカラ行キ場所モ色々異ナ  
ルト思フノデアリマスガ、其ノ物納ノ  
防護爲ニ、一應天井ヲ作ツタ譯デア  
リマス、只今當局ノ計算或ハ日本銀行  
アリマス

○池田(男)政府委員 物納ハ、財産税ヲ納メマス前ニ物納ノ申請ヲ致シマス、サウシテ稅務署ト協議シ相成リマス、納期マデニ物納ガ確定致シマセヌデ、納期ガ過ギマシテモ稅務署ト話ヲシテ居ル間ニハ、所謂延納ノ利子ハ取テナイ、斯ウ云フコトニ致シテ居リマス

○鈴木(明)委員 例へバ斯ウ云フ場合アルノデス、二十萬圓以下ノ會社デアツテ、八割マデハ殆ド自己資金デヤツテ居ル、ソコデ其ノ株主ハ、殆ド個名義ダケハ澤山並ベテ居ルト云フヤウ人同様ノ會社ニナツテ居ルノデスガ、ナ時ニ、十萬圓以上ヲ結局分割シテ取アルサウ云ツタ會社ニナツテ居ルト云フヤウノ場合ニハ、ドンナ風ニ考慮サレルカ、結局考慮ノ餘地ハ私ハナイト思フノデスガ、サウ云ツタ細カイ點、ソレカラ朝鮮人トカ支那人トカ、サウ云ツタ者ニ對シテハ、第三國人トシテ財産税ヲ取ルコトガ出來ナイ、若シ取ルトスレバドンナ風ニシテ實行スルノカ、其ノ點モ一寸御尋不致シタイト思ヒマス

○池田(男)政府委員 會社ノ株主ガ其ノ財產税ノ納入ニ充ツル爲ニ、所有株式ヲ納メルベク物納ヲ申出マシタ時ニハ、個々ノ場合ニ付キマシテ適切ナル

處置ヲ講ジタトイ思ヒマス、其ノ株ガ市場性ノ全然ナイモノナルバ、

稅務署長ハ他ノ財產カラ物納スルヤウ

テ、政府トシテハ種々内外ノ情勢カラ、御無理デアリマセウガ是非一ツ至

ニ要求致シマスデセウ、又ソレガ相當

市場性ノアルモノナラ勿論喜ンデ物納ヲ認メマス、第二ノ問題ノ朝鮮人並ニ支那人ニ對シ、財產税ガ課稅ニナルカ

ト云フ問題デゴイマスガ、朝鮮人ニハ所謂制限納稅義務者トシテノ課稅ガ行

ハ、世界聯合ニ加入シテ居ル國ノ國民ニアルノデス、二十萬圓以下ノ會社デアツテ、八割マデハ殆ド自己資金デヤツテ居ル、ソコデ其ノ株主ハ、殆ド個名義ダケハ澤山並ベテ居ルト云フヤウ人同様ノ會社ニナツテ居ルノデスガ、ナ時ニ、十萬圓以上ヲ結局分割シテ取アルサウ云ツタ會社ニナツテ居ルト云フヤウノ場合ニハ、ドンナ風ニ考慮サレルカ、結局考慮ノ餘地ハ私ハナイト思フノデスガ、サウ云ツタ細カイ點、ソレカラ朝鮮人トカ支那人トカ、サウ云ツタ者ニ對シテハ、第三國人トシテ財產税ヲ取ルコトガ出來ナイ、若シ取ルトスレバドンナ風ニシテ實行スルノカ、其ノ點モ一寸御尋不致シタイト思ヒマス

○鈴木(明)委員 例へバ斯ウ云フ場合アルノデス、二十萬圓以下ノ會社デアツテ、八割マデハ殆ド自己資金デヤツテ居ル、ソコデ其ノ株主ハ、殆ド個名義ダケハ澤山並ベテ居ルト云フヤウ人同様ノ會社ニナツテ居ルノデスガ、ナ時ニ、十萬圓以上ヲ結局分割シテ取アルサウ云ツタ會社ニナツテ居ルト云フヤウノ場合ニハ、ドンナ風ニ考慮サレルカ、結局考慮ノ餘地ハ私ハナイト思フノデスガ、サウ云ツタ細カイ點、ソレカラ朝鮮人トカ支那人トカ、サウ云ツタ者ニ對シテハ、第三國人トシテ財產税ヲ取ルコトガ出來ナイ、若シ取ルトスレバドンナ風ニシテ實行スルノカ、其ノ點モ一寸御尋不致シタイト思ヒマス

○稻村委員 會社ノ株主ガ其

スル諸法案ハ非常ニ厖大デアリマシ

テ、僅カナ期間ニ之ヲ検討シマスト云

フコトハ非常ニ困難な状態デアリマ

ス、是ハ手續上ノ問題デアリマスケレ

ドモ、殆ド斯様ナ僅カナ時間デ以テ、

是ダケノモノヲ全部検討シロト云フヤ

ウナコトハ、或ル程度カラ申シマスレ

バ議會ノ審議權ヲ無視シタ方法デアル

ト私ハ思ヒマスケレドモ、先ツ第一ニ

之ニ對スル所ノ大藏大臣ノ御意見ヲ伺

ヒマス

○石橋國務大臣 政府ハ決シテ議會ノ審議權ヲ無視スルナント云フコトハ飛

シテモナコトデ、ソソナコトハ少シ

モ考ヘテ居リマセヌ、唯先般懇談會デ

モ申上ゲマシタヤウナ事情デアリマシ

テ、政府トシテハ種々内外ノ情勢カラ、御無理デアリマセウガ是非一ツ至

ニ要求致シマスデセウ、又ソレガ相當

市場性ノアルモノナラ勿論喜ンデ物納ヲ認メマス、第二ノ問題ノ朝鮮人並ニ支那人ニ對シ、財產税ガ課稅ニナルカ

ト云フ問題デゴイマスガ、朝鮮人ニハ所謂制限納稅義務者トシテノ課稅ガ行

ハ、世界聯合ニ加入シテ居ル國ノ國民ニアルノデス、二十萬圓以下ノ會社デアツテ、八割マデハ殆ド自己資金デヤツテ居ル、ソコデ其ノ株主ハ、殆ド個名義ダケハ澤山並ベテ居ルト云フヤウ人同様ノ會社ニナツテ居ルノデスガ、ナ時ニ、十萬圓以上ヲ結局分割シテ取アルサウ云ツタ會社ニナツテ居ルト云フヤウノ場合ニハ、ドンナ風ニ考慮サレルカ、結局考慮ノ餘地ハ私ハナイト思フノデスガ、サウ云ツタ細カイ點、ソレカラ朝鮮人トカ支那人トカ、サウ云ツタ者ニ對シテハ、第三國人トシテ財產税ヲ取ルコトガ出來ナイ、若シ取ルトスレバドンナ風ニシテ實行スルノカ、其ノ點モ一寸御尋不致シタイト思ヒマス

○稻村委員 會社ノ株主ガ其

スル諸法案ハ非常ニ厖大デアリマシ

テ、僅カナ期間ニ之ヲ検討シマスト云

フコトハ非常ニ困難な状態デアリマ

ス、是ハ手續上ノ問題デアリマスケレ

ドモ、殆ド斯様ナ僅カナ時間デ以テ、

是ダケノモノヲ全部検討シロト云フヤ

ウナコトハ、或ル程度カラ申シマスレ

バ議會ノ審議權ヲ無視シタ方法デアル

ト私ハ思ヒマスケレドモ、先ツ第一ニ

之ニ對スル所ノ大藏大臣ノ御意見ヲ伺

ヒマス

○石橋國務大臣 政府ハ決シテ議會ノ審議權ヲ無視スルナント云フコトハ飛

シテモナコトデ、ソソナコトハ少シ

モ考ヘテ居リマセヌ、唯先般懇談會デ

モ申上ゲマシタヤウナ事情デアリマシ

テ、政府トシテハ種々内外ノ情勢カラ、御無理デアリマセウガ是非一ツ至

ニ要求致シマスデセウ、又ソレガ相當

市場性ノアルモノナラ勿論喜ンデ物納ヲ認メマス、第二ノ問題ノ朝鮮人並ニ支那人ニ對シ、財產税ガ課稅ニナルカ

ト云フ問題デゴイマスガ、朝鮮人ニハ所謂制限納稅義務者トシテノ課稅ガ行

ハ、世界聯合ニ加入シテ居ル國ノ國民ニアルノデス、二十萬圓以下ノ會社デアツテ、八割マデハ殆ド自己資金デヤツテ居ル、ソコデ其ノ株主ハ、殆ド個名義ダケハ澤山並ベテ居ルト云フヤウ人同様ノ會社ニナツテ居ルノデスガ、ナ時ニ、十萬圓以上ヲ結局分割シテ取アルサウ云ツタ會社ニナツテ居ルト云フヤウノ場合ニハ、ドンナ風ニ考慮サレルカ、結局考慮ノ餘地ハ私ハナイト思フノデスガ、サウ云ツタ細カイ點、ソレカラ朝鮮人トカ支那人トカ、サウ云ツタ者ニ對シテハ、第三國人トシテ財產税ヲ取ルコトガ出來ナイ、若シ取ルトスレバドンナ風ニシテ實行スルノカ、其ノ點モ一寸御尋不致シタイト思ヒマス

○稻村委員 會社ノ株主ガ其

スル諸法案ハ非常ニ厖大デアリマシ

テ、僅カナ期間ニ之ヲ検討シマスト云

フコトハ非常ニ困難な状態デアリマ

ス、是ハ手續上ノ問題デアリマスケレ

ドモ、殆ド斯様ナ僅カナ時間デ以テ、

是ダケノモノヲ全部検討シロト云フヤ

ウナコトハ、或ル程度カラ申シマスレ

バ議會ノ審議權ヲ無視シタ方法デアル

ト私ハ思ヒマスケレドモ、先ツ第一ニ

之ニ對スル所ノ大藏大臣ノ御意見ヲ伺

ヒマス

○石橋國務大臣 政府ハ決シテ議會ノ審議權ヲ無視スルナント云フコトハ飛

シテモナコトデ、ソソナコトハ少シ

モ考ヘテ居リマセヌ、唯先般懇談會デ

モ申上ゲマシタヤウナ事情デアリマシ

テ、政府トシテハ種々内外ノ情勢カラ、御無理デアリマセウガ是非一ツ至

ニ要求致シマスデセウ、又ソレガ相當

市場性ノアルモノナラ勿論喜ンデ物納ヲ認メマス、第二ノ問題ノ朝鮮人並ニ支那人ニ對シ、財產税ガ課稅ニナルカ

ト云フ問題デゴイマスガ、朝鮮人ニハ所謂制限納稅義務者トシテノ課稅ガ行

ハ、世界聯合ニ加入シテ居ル國ノ國民ニアルノデス、二十萬圓以下ノ會社デアツテ、八割マデハ殆ド自己資金デヤツテ居ル、ソコデ其ノ株主ハ、殆ド個名義ダケハ澤山並ベテ居ルト云フヤウ人同様ノ會社ニナツテ居ルノデスガ、ナ時ニ、十萬圓以上ヲ結局分割シテ取アルサウ云ツタ會社ニナツテ居ルト云フヤウノ場合ニハ、ドンナ風ニ考慮サレルカ、結局考慮ノ餘地ハ私ハナイト思フノデスガ、サウ云ツタ細カイ點、ソレカラ朝鮮人トカ支那人トカ、サウ云ツタ者ニ對シテハ、第三國人トシテ財產税ヲ取ルコトガ出來ナイ、若シ取ルトスレバドンナ風ニシテ實行スルノカ、其ノ點モ一寸御尋不致シタイト思ヒマス

○稻村委員 會社ノ株主ガ其

スル諸法案ハ非常ニ厖大デアリマシ

テ、僅カナ期間ニ之ヲ検討シマスト云

フコトハ非常ニ困難な状態デアリマ

ス、是ハ手續上ノ問題デアリマスケレ

ドモ、殆ド斯様ナ僅カナ時間デ以テ、

是ダケノモノヲ全部検討シロト云フヤ

ウナコトハ、或ル程度カラ申シマスレ

バ議會ノ審議權ヲ無視シタ方法デアル

ト私ハ思ヒマスケレドモ、先ツ第一ニ

之ニ對スル所ノ大藏大臣ノ御意見ヲ伺

ヒマス

○稻村委員 ソレハ已ムナクサウヤツ

タト云フコトデアリマスガ、ヤハリ經

濟ノ原則ト致シマシテハ、私ハ大體ニ

調査ト云フモノハ、此ノ貨貸價格

ハ「インカム」ガ基準ニナツテナサレタ

問題デアラウト思ヒマス、ソコデ結局

私ハ「インカム」ガ中心デ貨貸價格ガ中

心デアルトスレバ、ソレトソレカラ大

額ノ一定ノ期間ニ私達ハ平均利子率、

ニ關シテハ大藏大臣ノ御意見ヲ伺ヒタ

ラレテ居ルノデゴザイマス、隨テヨク

貨貸價格ヲ見テ居リマス、隨ヒマシテ

例ヲ以テ申シマスルト、蘆屋或ハ兵庫縣

ノ海岸地帶ノ山林ハ、山トシテ又山林等

ニ於キマシテハ、山林ハ山林トシテノ

命で定める外國人には、これを課さない。」此ノ「命令で定める外國人」トハ、世界聯合ニ加入シテ居ル國ノ國民ニハ、財產稅ヲ課稅シナイコトヲ掲げて居リマス、即チ第二條ニ「財產稅は、命令で定める外國人には、これを課さない。」此ノ「命令で定める外國人」トハ、世界聯合ニ加入シテ居ル國ノ國籍ヲ有スルモノニナツテ居リマス、即チ第二條ニ我々ガ重要ダト思ハレルハ、財產稅ノ課稅對象トシテノ不動產ノ評價ノ基準ト云フモノガ明確なスルモノニナツテ居ラナイト云フコト、ソレカラ今度ハ平均利

子率ト云フモノガ效ニ存在スルト云フ

要ダト思ハレル點二、三ニ付テ質問シテ見タトイ思ヒマス

○石橋國務大臣 昨日主税局長カラ詳

シク申上ゲマシタヤウニ、貨貸價格ハ

ハソレん、租稅ノ關係上決ツテ居リマス、何年ニ一遍アリマシタカ調査

トシテ決定ヲスルモノノデ、是ハ「應新

イ」ト思ヒマス

○稻村委員 ソレハ已ムナクサウヤツ

タト云フコトデアリマスガ、ヤハリ經

濟ノ原則ト致シマシテハ、私ハ大體ニ

調査シタモノデゴザイマス、其後ニ

ニ調査シタモノデゴザイマス、其後ニ

ニ調査シタ

木ノ生エル山モ、或ハ又蘆屋邊ノ禿山  
マ大體ノ賃貸價格ハ似テ居ルノデアリ  
マス、ドチラカト言へバ禿山デスカラ  
山トシテノ價値ガゴザイマセヌノデ、  
低ク付イテ居ル所モアリマス、斯カル  
場合ニ賃貸價格ニ對シテ全國一律ニ見  
ルコトハ、財產稅ノ課稅ノ對象トシテ  
ハ非常ニ不公平ニナルノデアリマス、  
併シサウ云ニ場合ニ宅地ニ付キマシテ  
モ、山林或ハ家屋ニ付キマシテモアル  
譯デゴザイマス、全國一律ノ倍數ニ依  
リマスト、今ノ時價ニ合ハナイト云フ  
コトガ起ツテ參リマスノデ、先程大臣  
ガ申サレタヤウナ方法デ行クノガ一番  
適正ダ、實際ニ合フノダト云フ考ヘノ  
下ニ、税法二十五條、二十六條ノヤウ  
ニ規定致シタノデゴザイマス  
○稻村委員 其ノ點ニ付テハモウ餘り  
深ク追究致シマセヌガ、唯私ハ其ノ場  
合ニ標準價格ト云フ、其ノ標準的ナ價  
格ヲ調ベルト云フコトガ中々困難デハ  
ナイカト云フ風ニ考ヘテ居リマス、一  
體ドレヲ標準ニスルカ、此ノ點ニナリ  
マストヤハリ困難ハ同ジナノデアリマ  
ス、ソレカラ今度ハ、山林價格ノ問題  
ニアリマス、先刻宅地、山林ノ問題ガ  
アリマシタケレドモ、是ハ私ハ東京都  
ノ中デモハ今マデ既ニ立派ニ十年位ハ  
宅地トシテ使用シテ居ルモノガ、登録  
ノ上デハ是ガ畠地トシテ現ハレテ居  
ル、斯ウ云フ問題ガウントアルノデア  
リマス、併シ私ハ宅地ナラ宅地トシ  
テ、此處ナラバ一體普通賃貸價格ガド  
レ位ノ土地デアルカト云フコトヲ是カ  
ラ算定シタ所デ、サウ困難ナ問題デナ  
イト思ツテ居リマス、デスカラ私ハ斯  
ウ云フ算定ハ經濟ノ原則ニ從ツテ致シ  
マセヌト不公平ガ生レテ來ルシ、又ソ  
コニ色々ナカラクリヤ情實ガ抜マツテ

ノ點ハ其ノ位ニシテ次ノ問題ニ移リタ  
來ル、斯様ニ考へテ居リマス、モウ此  
ノ問題デアリマス、是ハ今マデ大藏大臣  
或ハ膳國務相ノ答辯ヲ聽イテ居リマス  
ト、大體ニ於テ最初ノ時ハ時價デ評價  
スルト云フ風ナ話デアリマシタ、所ガ  
其ノ後、同僚カラ突込ンダ質問ノ行ハ  
レタ結果、是ガ安定價格トシテノ時價  
デアルト云フ風ニ、表現ガ變ツテ來タ  
ヤウニ私ハ聽イテ居リマス、併シ安定  
價格トハ一體何デアルカト云フコトニ  
關シテハ、膳國務大臣ハ是ハ米價ニア  
ル、米價ヲ其準トシテ——現在ノ米價  
カドウカ知リマセヌガ——價格ノ「バ  
ランス」ヲ取ラシメテ、ソレヲ以テ安  
定價格ダト、斯ウ云フ風ニ答ヘラレタ  
ト思フノデアリマスガ、サウ解釋シテ  
モ宜シカドウカ、御回答ヲ願ヒタイ  
ト思ヒマス

ダ實ハ決ツテ居ナイ、決得ナインデ  
アリマスガ、産業再建ヲ目途ニシテ、  
今後ノ安定物價水準ト云フモノトモ睨  
ミ合セマシテ、債權者ナリ債務者ニモ  
甚ダシキ不公平ヲ生ジナイヤウニ、斯  
云フ大體ノ方針ダケハ決メテアリマ  
シテ、ソレニ依ツテ如何ナル基準ヲ作ル  
カト云フコトハ今實ハ檢討中デアリマ  
ス、斯ワ云フコトデ、其ノ點ハ具體的  
ニ決ツテ居ラナイモノデスカラ中上位  
兼ネル次第デアリマス

○稻村委員 物ニ關スル資産ノ評價ヲ  
スル場合ニ、例へバ機械ナラ機械、其  
ノ他色々ナモノヲ評價スル場合ニ、其  
ノ評價ノ其準ヲ安定シターツノ物價水準  
準ヲ基準ニシテ評價スル、サウ解釋シ  
テ宜シウゴザイマスカ

○石橋國務大臣 是モ先般カラ屢々御  
答ヘシタト思ヒマスガ、物ト申シマス  
ガ、物ノモ大雜把ニ分ケマスト固定資  
本、固定資産ニ屬スルモノト、ソレカラ  
流動資産ニ屬スルモノト、ヤハリ評價シ  
ノ方法ガ異ナルト思ヒマス、問題ハ固  
定資産ニアリマス、流動資産ノ方ハ時  
價デ評價シテモ差支ヘナイト思ヒマ  
ス、是ハ右カラ左ニ賣レルモノニア  
ル、固定資産ノ場合デモ、之ヲ解體シ  
テ處分スル場合、其ノ事業ヲ其ノ儲殻シ  
テ今後活動サセルト達ヒマス、解體シ  
テモ「モータ」「ハモータ」、旋盤ハ  
旋盤トシテ賣レル、旋盤ノ値段「モー  
ター」ノ値段ハ大體時價ノ標準トシテ  
評價シテ宜イ、唯一ツノ物トシテ評價シ  
ヌル場合ニハ簡単ニ行カナイノデ、  
ソレハ今後ノ日本、或ハ世界ノ事  
情モ考ヘナケレバ、ナラヌガ、十分  
立行クト云フ觀點カラ考慮シナケヌ  
レバナラ、斯様ニ考ヘテ居リマ

シ単純過ギルコトニナリマシテ事實トカ  
合ハナクナルト思ヒマス  
○稻村委員 實ハ私達ハ其ノ固定資本  
ト云フヤウナモノモ、流動資本ノ一概ニ  
結合サレタモノトシテ解釋シナケレ  
バ、資本ノ評價ト云フヤウナコトハ殆  
ド不可能ニナラウト存ズル次第アリマ  
ス、流動資本或ハ固定資本ト云フヤウ  
ナモノハ、ツノ會社ヲ作ラレル場合ニ  
合ニハ、其ノ合計ノ資本額ハ結局スル  
所ヲ言ヘバ、是等ノ個々ノ商品ノ結合シ  
タモノトシテノ額ガ、結局物的ナ所謂  
資本トシテ現ハレテ來ルノダラウト固  
ヒマスカラ、此ノ立場ヲ捨テ、シマフ  
ト、私ハ資本ノ評價ハ殆ド不可能ニナ  
ルト思フナデアリマスガ、ソレハ如何  
アリマス  
○稻村委員 ソレデハモウ一ツ、サツツ  
キ大臣ノ言ハレタヤウニ、固定資本ト  
云フモノト、流動資本、更ニ賃金ニ投下  
デアリマス、一寸サウデアリマスト  
モ、サウデナイトモ申上ゲ兼ネルノデ  
アリマス

云フ風ニ大藏大臣ハ仰シャツテ居リマ  
スケレドモ、併シは金融ノ一ツノ面  
ニ付テサウ云フ傾向ガアルニ致シマシ  
テモ、他面全體的ナ傾向ヲ見マスト、  
私ハ「インフレーション」ノ傾向ガ非常  
ニ強マツテ來テ居ルト思フノデアリマ  
シテ、サウシマスト、名目價格ト申シ  
マスカ、今日ノ日本ノ價格ガ、「イン  
フレーション」ノ進行ト共ニ名目價格  
ガ非常ニ上ツテ來テ居リマス、サウシ  
マスト、評價ベル場合ニ、今日ノ此ノ  
「インフレーション」ニ依ツテ非常ニ名  
目價格ノ上ツテ居ル貨幣デ之ヲ算定ス  
ルト云フコトハ、極メテ難カシイ問題  
ニナツテ來テ居ハセスカ、昔デアレバ  
金ガアリマシタシ、又外國爲替ト云フ  
モノガアリマシタノデ、ソヨニ「リン  
ク」スル所ノ基礎ガアリマシタ、併シ  
今日ニ於テハ日本ハ外國貿易カラ封鎖  
サレテ居リ、又我國ニ金準備ガナ  
イ、斯ウ云フ風ナ紙幣デ以テ測ラレタ  
所ノ名目價格ト云フヤウナモノノ基礎  
トシテ、此ノ資産ヲ評價ベルト云フコ  
トニナレバ、非常ニソレ自身ニ付テ浮  
動性ト不安定性ガ起ソテ來テ、之ニ依  
ツテ測ラレタ所ノ評價ト云フモノハ、  
決シテ今後經濟再建フル爲メノ資產  
評價ガ適當ニ行ハレルト云フ風ニハ考  
ヘラレナインデアリマスガ、其ノ點入  
藏大臣ノ意見ハドウデアリマスカ  
○石橋國務大臣 アナタノ御話ハ、結  
局通貨價值ガ不安定ダカラト云フ一言  
ニ盡キルノダラウト思ヒマス、ダカラ  
日本ノ經濟ガ若シ通貨價值ガ今後モ非  
常ニ不安定デアルトスルナラバ御話ノ  
通リデアル、例ヘバ通貨價值ガドンド  
シ下ルトスレバ、今日ノ通貨價值ト云

云モノハ縣來ニ於テハ非常ニ浮動ナモ  
ノニナル、併シナガラ通貨價値ヲサウ  
云フヤウニ不安ニシタノデハ整理ガ出  
來ナインデアリマシテ、結局此ノ整理  
ト云フモノハ、通貨價値ノ不安ヲ除ク、  
通貨價値ヲ安定サセル目的ガアル譯デ  
ス、ソコデ其ノ安定ヲ何處デスルカト  
云フト、先程ノ御詫ノ安定物價水準ト  
云フノガ宜イ言葉カドウカ知リマセヌ  
ガ、何等カノ形デツツノ物價水準ヲ見  
透シテ、其ノ邊ヲ目途トシテヤル、無論  
物價水準ト申シマシテモ、一定不變ノ  
モノハ出來ルモノデハアリマセス、或  
ル程度ノ安定ト云フモノヲ見テ行ク、  
左様ナ考ヘデ居ル次第デアリマス  
○稻村委員 サウシマスト、一定ノ安  
定物價水準ト云フモノヲ我々考ヘテ見  
マスト、此ノ安定物價水準ノ日安ヲ一  
體何處ニ置キ、又安定物價水準ト思ハ  
レル其ノ基礎ヲ何處ニ置クヤウニスル  
ノデアリマスカ、例ヘバソレガ外國爲  
替ニ「リンク」スルトカ、或ハ「金ト」リンク  
タスルトカ、何カ知ラヌガ、今日ノ如キ  
所謂貨幣其ノモノガ不安狀態ニ於テハ、  
此ノ不安ナ貨幣自體カラ離レタ所ノ、其ノ  
基礎タルベキ所ノモノヲソコニ我々ガ求メ  
ナケレバナラナイト思ノノデアリマスガ、  
其ノ基礎ヲ一體何處ニ置クカ、ソレヲ  
モウ一度御返答願ヒタイト思ヒマス  
○石橋國務大臣 是モ多分アナタノ貨  
幣論カラ來ル所デアリマシテ、詰リ一  
種ノ「メタリスト」ノ考ヘデアルト思ヒ  
マス、サウ云フ意味デハ今日ハ金ノ基  
礎モアリマセヌ、ソレカラ又爲替ニモ  
「リンク」致シテ居リマセヌカラ、「メ  
タリスト」的考ヘシテ來レバ非常ニ  
不安定ニ考ヘラレル、併シ日本ノ一ツ  
ノ物價水準ト云フモノヲ、物資トノ關

係ニ於テ通貨ノ價値ト云フモノハ定メ得ル、ト我々ハ考ヘテ居ル、詰リ「メタリスト」デナイ立場ヲ取ツテ行ク譲  
デアリマス、其ノ「メタリスト」デナイン立場ヲ取レバ、ヤハリ金ナドヲ準備ニセズトモ、ソレヲ基準ニセズトモ、通

思ヒマス、ソレハ屢々申上ゲ  
リ、私ハ今後「インフレーショ  
ン」ハ進マナイト云フノハ、  
マナイ、斯ウ考ヘテ居リマス  
○稻村委員 大臣ノ「インフ  
レーショニ」ハ進マナイト云フノハ、  
後ノ商品——今後ト云ワヨリ

マシタ通ヨン」ハ進ケレドモ、是ハ徐々ニ進ミツ、アリ、又今後必ズ進ムト、私ハ斯ウ考ヘテ居リマスカラ、旁ニ「インフレーション」ハ防止シ得ル、斯ワ考ヘテ居ル譯デアリマス  
○稻村委員 其ノ點モ私ト見解ガ餘程モ、急場日本ノ今レーショ

マヘバ、是ガ發見サレテ、凡ユル物價  
ガソニニ「リンク」シテ行ク、サウスレ  
バ私ハ名目價格ガ如何ニ高クナリマシ  
テモ、貨幣制度ハ或ル程度ノ安定性ヲ  
得ルモノダト云フ風ニ考ヘルノデアリ  
マスガ、ソユデ今日ノ名目價格以外ニ

○稻村委員 私モ決シテ「メタリスト」  
デハナインデアリマシテ、私ノ言ツタ  
コトヲ今大臣ガ私ヲ「メタリスト」ア如意  
ク感ジタ其ノ一番根本的ナ原因ハ何處  
カト云フト、恐ラク私ガ其ノ生産サレ  
ル物ト云フモガ金ニ依ツテ代表サレ  
テ居ルト云フコトヲ前提トシタヤ  
ウニ取ラレタカラデアラウト私ハ思フ  
ノデアリマス、併シナガラ日本ノ現狀  
カラ見マスト、今日ノ貨幣制度ト云フ  
ヤウナモノヲ安定セシメ金ニ代ツテ裏  
付ラスル所ノ生産ハ極メテ貧弱デア  
ル、今日ノ生産ノヤウナ狀態テ以テ、  
今日ノ如ク貨幣ガ多額ニ今後モ財政膨  
脹ニ依ツテ發行サレルトフ風ニナル  
ナラバ、其ノ金ニ依ツテ代表サレテ居  
ル所ノ商品、其ノ商品量ノ生産ト云フ  
モノモ甚ダ貧弱ナモノニナル、茲ニ私  
ハ今日ノ所謂生産サレテ居ル所ノ商品  
量ニ依ツテハ、貨幣ト云フモノノ目安  
ヲ置クコトガ出來ナイ狀態ガ、現狀デハ  
ナイカト云フ風ニ考ヘラレルノデアリ  
マス、其ノ點大藏大臣ハ今日ノ生産量  
ヲ以テシテモ、尙モ貨幣制度ニ對シモ  
ハ一應安定セシメル目安ガ立ツト仰シ  
ヤルノカドウカ、其ノ點ヲ一ツ御伺ヒ  
致シマス

ト云フヤウナモノガ、相當迅速ニ増産  
ガ出来ルト云フコトヲ前提トシテノ話  
デアリマスカ、ソレトモ今日ノ生産状  
態ニシテ、財政ガドンヽト膨脹致シ  
マシテ貨幣量ガ殖エテモ、尙ホ「インフ  
レーション」ハ起ラナイト云フコトナ  
カ、其ノ點ヲハツキリ御答辯願ヒタ  
イト思ヒマス

○石橋國務大臣 其ノ點モ屢々中上ゲ  
タト思ヒマスガ、詰リ財政ヲ生産ニ結  
付ケズニ、財政ヲ手離シドンヽト膨  
脹サセレバ、ソレハ「インフレーション」  
ニナルニ決マツテ居ルノデアリマ  
ス、ダカラ財政ハ隨分御承知ノヤウニ  
色々ナ點デ因難ナ財政デアリマスガ、  
是ハ本年度ノ財政ヲ支出スル場合ニ於  
テモ嚴重ニ査定ヲシテ、「インフレー  
ション」ヲ起サナイ、言換ヘレバ、生  
産ニ之ヲ出來ルダケ給付ケルヤウニシ  
テ行ク、明年度以後ノ財政モ同様ニ處  
理ヲシテ行ク、斯様ナ立場ヲ執ツテ居  
ルノデアリマス、生産ノ方面ハ御言葉  
ノヤウニ中々思フヤウニハ進ミマセヌ  
ケレドモ、是ハ全力ヲ注イデ今ヤツテ  
居ルシ、又政府バカリデハアリマセ  
ヌ、民間ニ於テモ、又議會ノ各政黨ニシ  
於テモ、石炭ノ問題ノ如キ、米ノ問題  
ノ如キ、非常ナ御協力ヲ願ツテ居ル譯  
デアリマス、此ノ協力ノ結果デ私ハ生  
産ハ進ムト思ヒマス、モドカシク思ヒ  
カラ中々進マナイト云フ譯デアリマス

ノ見解トハ餘程異ナリマシテ、今後「インフレーション」ガ進行スルカシニイカト云フコトハ、結局財政ノ膨脹ガ一面ニ於テ不可避デアルト共ニ、生産ノ増強ト云フモノモ不可避デアルト思フノデアリマス、ソレガ財政膨脹ノ「テンボ」ト生産増強ノ「テンボ」トノ其ノ比率ガドウ云フ風ニナツテ行クカト云フコトヲ、冷靜ニ考ヘナケレバナラナルノデアリマス、私ハ色々ナ現状ヲ調査シテ見マスト、財政膨脹ノ比ハ非常ニ急速ニ今發展シテ居ル、迫リツ、アルノデアリマス、而モソレノ必要ダケヌデ、生産ハ増強サレチ居ナイ、現實於テ又ソレヲスルコトガ極メテ困難デアル、大藏大臣ハ初メ此ノ三箇月ノ間ニ相當ノ決意ヲ以テ生産増強ヲシナケレバナラスト云フ風ナ氣持テ財政ニ當テラレタノデアリマセワケレドモ、併シ六月カラ今日ニ至ル此ノ期間ニ於ケル所ノ生産ノ有様ト云フモノハ、極メテ悲觀的ナ様相ヲ呈シテ居ルノデハナカト云フ風ニ考ヘラレルノデアリマス、ソコデ私達ハ茲ニ考ヘラレルコトハ、何カ所謂今日ノ名目價格デ安定本準ヲ探サウトシテモ、是ハ實ヲ言フト殆ド目ヲ瞑ツテ、盲デ以テ安定水準ヲ探スト云フヤウナ結果ニナリハシナカト云フモノガ、「リンク」スペキ所ノ基礎ヲ發見シテシテシテ

○石橋國務大臣 モウ少シ伺ハナイト御質問ノ趣意ガ一寸分ラナイノデスガ、私ハ今「リンク」スルモノヲ——多分御話ハ斯ウ云フ意味ダラウト思ヒマス、此ノ間モ御話ザ出マシタガ、例へバ米ニ通貨ヲ結付ケルト云フヤウナ説ヲ出シタ人モ日本ニアリマス、サツ云フヤウナコトハ考ヘテ居リマセヌ、ソレデ又之ニ結付ケテ見タ所ガ、ソレニ依ツテ若シモ御話ノヤウニ生産ガ進マヌ——詰リ問題ハ生産ノ進ムノ通貨ノ膨脹スル其ノ率ノ問題デアリマスガ、ソレガ御話ノヤウナ、非常ナ非觀的ナモノデアルト致シマスレバ、何ニ結付ケマシテモ通貨價値ノ維持ハ出來ナインデアリマス、結局駄口ニナル、斯ウ云フコトデアリマスカラ、只今ノ所デハ何カニ「リンク」スルト云フヤウナコトハ考ヘテ居リマセヌ

○稻村委員 私ハ併シナガラ斯ウ云フ風大例ヘバ今度ノ企業再建ノ爲ノ資産ヲ評價スル場合ニ、私何時モ大臣其ノ他ノ御意見ヲ伺ツテ感スルコトハ、米價ノハ結局安定物價ノ日安ヲ米價ヲ基準ニ

シテ置クト云フヤウナ結論ニナツデシ  
マノデハナイカト云フ風ニ考ヘテ居  
リマスカラ、ソコデ私ハ斯様ニ述べ  
タ譯ナノデアリマス、併シナガラ私ハ  
今大臣ガ仰シヤツタ通リニ、米價自體  
ガ非常ニ今日不安定デアツテ、之ヲ以  
テ基準トシタ所デ、決シテ安定價格ノ  
目安ハ出來ナインデハナイカト云フ風  
ニ考ヘラレルノデアリマス、私ハ斯  
様ナ意味デ、企業再建ト云フヤウナモ  
ノヲ本當ニ考ヘテ行クノラバ、物價  
水準ト云フモノノ安定ノ目安ト云フモ  
ノヲ、物々交換ト言フカ、所謂貨幣以  
前ノ狀態ニ立返ツチ、一應我々ガ其處  
カラ其準ヲ發見シナケレバナラナイ事  
態ニナツテ居ル、斯様ニ解シテ、大臣  
ニ色々ナコトヲ質問シタ次第ナノデア  
リマス、而モ其ノ基準ハ何處ニ求メル  
カト申シマスレバ、私達ハヤハリ是ハ  
一切ノ生産物が社會的労働ノ生産物デ  
アルト云フコトヲ基準ト致シマシテ、  
サウシテ一切ノモノヲ個々勞働ヲ  
基準トシタ所ノ基準ヲ、貨幣以前ノ狀  
態ニ戻ツチ、一應之ヲは認シテ、ソレ  
ヲ又米價ヲ基準トスルヨリモ、寧ロ此  
ノ場合ニハ勞働ノ價格ト云フヤウナ  
シテ之ヲ基準トシテ考ヘルナラバ、名  
目價格が如何ニ高クナリマシテモ、名  
目價格ガ高クナツタカラト云ツテ貨幣  
ガ安定シナイト云フコトハ當然言ヘナ  
シテハナカト云フ風ニ考ヘテ居  
次第ナノデアリマス、併シ此ノ點、恐  
ラク私ノ此ノ説ニ對シテハ、經濟的ナ  
立場ガ私ト大臣トハ違フト云フ建前カ  
ラ、大臣ハソレヲ一笑ニ付シナサルダ  
ラ、ラウト云フコトハ明カナノデアリマス

問致シタイコトハ、今度ノ評價ノ場合  
ニ於キマシテ、帳簿ノ上ニ載ツテ居ル  
財產、此ノ場合ニ實際帳簿ニ載ツテ居  
ル所ノ財產ト、ソレカラ生產ヲ増強ス  
ル、之ヲ百「パーセント」ニ運用スルコ  
トニ依ツテ十分ニ生産ヲ上ゲル可能  
性、所謂稼働財產ト云フモノトノ間ニ  
ハ、餘程違ツテ居ルモノガアルノデハ  
ナイカ、此ノ評價ニ關シテ所謂帳簿  
上デ評價スルノト、實際ノ上ノ稼働財  
產ノ評價ト云フモノトノ間ニ差異ガ出  
テ來ルノデハナイカ、是ハ一體ドチラ  
ノ方ヲ基準トシテ資產評價ヲスルノ  
カ、其ノ點モ大臣ニ御尋ネシタイト思  
ヒマス

○石橋國務大臣 資產表トシマスレ  
バ、勿論企業ニ殘ツテ居ル資產ノ中ニ  
ハ舊勘定ニ入ルモノモアリマスシ、新  
勘定ニ入ルモノモアリマスシ、新勘定ニ  
入ルモノガ稼働ヲスル資產デアリマ  
ス、デスカラ舊勘定ニ屬スルモノハ、  
若シソレヲ新勘定ニ今後移シ得ナイト  
云フヤウナ性質ノモノアレバ、是ハ  
先程申シマシタヤウニ個々バラ／＼ニ  
シテ處分シテシマヒマスノデスケレド  
モ、其ノ立場カラ評價スル、ソレカラ  
新勘定ニ屬スルモノハ、今後之ヲ稼働  
サセルノデアリマスカラ、其ノ立場カラ  
評價ヲスル、斯様ナコトニナリマシ  
テ、御話ノヤウニ確カニ帳簿ト稼働ノ  
面トハ、評價及ビ物モ違ツテ參ルト思  
ヒマス

○稻村委員 現實ノ問題ト致シマシ  
テ、帳簿ニ載ツテ居ル、殊ニ固定資產  
ノヤウナ場合ハ、或ル產業ニ至ツテハ  
居ルモノナラバ——一應資產表ニ載ツ  
是ハ役ニ立タナイデ、先程カラ申シタ

ガ、併シ私ハ最後ニ大臣ニ對シテ御質  
問致シタイコトハ、今度ノ評價ノ場合  
ニ於キマシテ、帳簿ノ上ニ載ツテ居ル  
ス、所ガモウツハ、從來戰爭中ニ相  
當休ンデ居ツタ所ノ工場タリデハ、  
之ヲ引出セバ相當効力セ得ルト云  
ハ、餘程違ツテ居ルモノガアルノデハ  
ナイカ、此ノ評價ニ關シテ所謂帳簿  
上デ評價スルノト、實際ノ上ノ稼働財  
產ノ評價ト云フモノトノ間ニ差異ガ出  
テ來ルノデハナイカ、是ハ一體ドチラ  
ノ方ヲ基準トシテ資產評價ヲスルノ  
カ、其ノ點モ大臣ニ御尋ネシタイト思  
ヒマス

當リマシテ、動トモ致シマスト、昔働  
ナイテ、居ツテ今働カナイデ居ルト云フヤ  
イテ居ツテ今働カナイデ居ルト云フヤ  
ウナモノハ餘り問題ニナラヌノデアリ  
マスガ、昔働イテ居ツテ何時ノ間ニヤ  
ラ古クナツテ居テ、實際帳簿ノ上ニ於  
テハ十分ニ現ハレテ居ナイヤウナモノ  
ガ、是ガ運轉サレズニ横流シサレル、  
所謂賣却サレテシマフト云フヤウナ、  
斯様ナ傾向ガ方々ニ實際アルノデアリ  
マス、此ノ點ニ對シテ政府ハ早クスウ  
云フ風ナ財產、凡ニル設施ト云フモノ  
アルト云フコトヲ基準ト致シマシテ、  
サウシテ一切ノモノヲ個々勞働ヲ  
基準トシタ所ノ基準ヲ、貨幣以前ノ狀  
態ニ戻ツチ、一應之ヲは認シテ、ソレ  
ヲ又米價ヲ基準トスルヨリモ、寧ロ此  
ノ場合ニハ勞働ノ價格ト云フヤウナ  
シテ之ヲ基準トシテ考ヘルナラバ、名  
目價格が如何ニ高クナリマシテモ、名  
目價格ガ高クナツタカラト云ツテ貨幣  
ガ安定シナイト云フコトハ當然言ヘナ  
シテハナカト云フ風ニ考ヘテ居  
次第ナノデアリマス、併シ此ノ點、恐  
ラク私ノ此ノ説ニ對シテハ、經濟的ナ  
立場ガ私ト大臣トハ違フト云フ建前カ  
ラ、大臣ハソレヲ一笑ニ付シナサルダ  
ラ、ラウト云フコトハ明カナノデアリマス

通リバラ／＼ニ評價シナケレバナラヌ  
ト云フヤウナ問題ガ澤山アルト思ヒマ  
ス、所ガモウツハ、從來戰爭中ニ相  
當休ンデ居ツタ所ノ工場タリデハ、  
之ヲ引出セバ相當効力セ得ルト云フヤウ  
ハ、餘程違ツテ居ルモノガアルノデハ  
ナイカ、此ノ評價ニ關シテ所謂帳簿  
上デ評價スルノト、實際ノ上ノ稼働財  
產ノ評價ト云フモノトノ間ニ差異ガ出  
テ來ルノデハナイカ、是ハ一體ドチラ  
ノ方ヲ基準トシテ資產評價ヲスルノ  
カ、其ノ點モ大臣ニ御尋ネシタイト思  
ヒマス

當リマシテ、動トモ致シマスト、昔働  
ナイテ、居ツテ今働カナイデ居ルト云フヤ  
イテ居ツテ今働カナイデ居ルト云フヤ  
ウナモノハ餘り問題ニナラヌノデアリ  
マスガ、昔働イテ居ツテ何時ノ間ニヤ  
ラ古クナツテ居テ、實際帳簿ノ上ニ於  
テハ十分ニ現ハレテ居ナイヤウナモノ  
ガ、是ガ運轉サレズニ横流シサレル、  
所謂賣却サレテシマフト云フヤウナ、  
斯様ナ傾向ガ方々ニ實際アルノデアリ  
マス、此ノ點ニ對シテ政府ハ早クスウ  
云フ風ナ財產、凡ニル設施ト云フモノ  
アルト云フコトヲ基準ト致シマシテ、  
サウシテ一切ノモノヲ個々勞働ヲ  
基準トシタ所ノ基準ヲ、貨幣以前ノ狀  
態ニ戻ツチ、一應之ヲは認シテ、ソレ  
ヲ又米價ヲ基準トスルヨリモ、寧ロ此  
ノ場合ニハ勞働ノ價格ト云フヤウナ  
シテ之ヲ基準トシテ考ヘルナラバ、名  
目價格が如何ニ高クナリマシテモ、名  
目價格ガ高クナツタカラト云ツテ貨幣  
ガ安定シナイト云フコトハ當然言ヘナ  
シテハナカト云フ風ニ考ヘテ居  
次第ナノデアリマス、併シ此ノ點、恐  
ラク私ノ此ノ説ニ對シテハ、經濟的ナ  
立場ガ私ト大臣トハ違フト云フ建前カ  
ラ、大臣ハソレヲ一笑ニ付シナサルダ  
ラ、ラウト云フコトハ明カナノデアリマス

ト云フヤウナ問題ガ澤山アルト思ヒマ  
ス、所ガモウツハ、從來戰爭中ニ相  
當休ンデ居ツタ所ノ工場タリデハ、  
之ヲ引出セバ相當効力セ得ルト云フヤウ  
ハ、餘程違ツテ居ルモノガアルノデハ  
ナイカ、此ノ評價ニ關シテ所謂帳簿  
上デ評價スルノト、實際ノ上ノ稼働財  
產ノ評價ト云フモノトノ間ニ差異ガ出  
テ來ルノデハナイカ、是ハ一體ドチラ  
ノ方ヲ基準トシテ資產評價ヲスルノ  
カ、其ノ點モ大臣ニ御尋ネシタイト思  
ヒマス

當リマシテ、動トモ致シマスト、昔働  
ナイテ、居ツテ今働カナイデ居ルト云フヤ  
イテ居ツテ今働カナイデ居ルト云フヤ  
ウナモノハ餘り問題ニナラヌノデアリ  
マスガ、昔働イテ居ツテ何時ノ間ニヤ  
ラ古クナツテ居テ、實際帳簿ノ上ニ於  
テハ十分ニ現ハレテ居ナイヤウナモノ  
ガ、是ガ運轉サレズニ横流シサレル、  
所謂賣却サレテシマフト云フヤウナ、  
斯様ナ傾向ガ方々ニ實際アルノデアリ  
マス、此ノ點ニ對シテ政府ハ早クスウ  
云フ風ナ財產、凡ニル設施ト云フモノ  
アルト云フコトヲ基準ト致シマシテ、  
サウシテ一切ノモノヲ個々勞働ヲ  
基準トシタ所ノ基準ヲ、貨幣以前ノ狀  
態ニ戻ツチ、一應之ヲは認シテ、ソレ  
ヲ又米價ヲ基準トスルヨリモ、寧ロ此  
ノ場合ニハ勞働ノ價格ト云フヤウナ  
シテ之ヲ基準トシテ考ヘルナラバ、名  
目價格が如何ニ高クナリマシテモ、名  
目價格ガ高クナツタカラト云ツテ貨幣  
ガ安定シナイト云フコトハ當然言ヘナ  
シテハナカト云フ風ニ考ヘテ居  
次第ナノデアリマス、併シ此ノ點、恐  
ラク私ノ此ノ説ニ對シテハ、經濟的ナ  
立場ガ私ト大臣トハ違フト云フ建前カ  
ラ、大臣ハソレヲ一笑ニ付シナサルダ  
ラ、ラウト云フコトハ明カナノデアリマス

テ居ルモノナラバ——一應資產表ニ載ツ  
居ルモノナラバ——一應資產表ニ載ツ

○稻村委員 終戦後ニ於テ屢々斯ウ云  
フ現象ガ事實既ニ起ツテ居リマス、例  
ヘバ肥料ヲ生産スルノニ、肥料ヲ生産  
シタナラバ、會社ノ經理上引合ハナイ、  
斯ウ云フヤウナ問題ガ起キタノデ  
アリマス、是ハ原因ハ違ヒマス、  
併シ斯ウ云フ風ニ會社ハ廢メタイ、  
事業ヲ縮小シタイ、大半ノ勞働者ヲ  
首誠ツチシマヒタイ、斯ウ云フ風ナ問  
題ガ起キルコトガ屢々アルノデアリマ  
ス、私ハ新潟縣ノ者デアリマスガ、新  
潟縣デハ既ニ東洋合成ト云フ工場デハ  
既ニサウ云フ問題ガ起ツテ居リマシ  
テ、約半年ノ間、此ノ場合爭議ノ形ヲ  
取リマシテ、勞働組合ガ生産管理ノ形  
デ以テ生産ヲ續行シタノデアリマス、  
サウシテ更ニソレガ此ノ間爭議が解決  
致シマシテ、會社ノ經營ニ戻ツタ譯デ  
アリマスガ、斯様ナ場合、此ノヤウナ  
條件ト條件ハ違ヒマシテモ、之ニ似タ  
ヤウナモノガ澤山方々ニ起ツテ來ルト  
云フコトハナイト言フケレドモ、アル  
コトハ明カデアラウト思フノデアリマ  
ス、斯ウ云フ在來ノ經營者ガ生産ヲ續  
行スルダケノ意欲ガ全然ナイ場合ニ、  
完全雇傭ノ建前カラ勞働者ヲ中心トシ  
テ之ヲ動力サナケレバナラヌ、此ノ場  
合ニ經營主體ハ一體何處ニ置クベキ  
カ、斯様ナ意見ナノデアリマス  
○石橋國務大臣 イヤ分リマシタ、ソ  
レハ詰リ經營主體ガナクナツタノデハ  
ナクテアルケレドモ、其ノ株式ナリ經  
營者ナリガ、何カノ事情デ生産ヲヤラ

スト ヴィン  
デア デア  
産セ 産セ  
○稻 ○稻  
場合 場合  
當澤 當澤  
効勵 効勵  
キセ キセ  
致シ 致シ  
○石 ○石  
ノヤ ノヤ  
ヲ資 ヲ資  
リマ リマ  
○稻 ○稻  
シテ ラバ  
デ又 マス  
トカ トカ  
出来 ハナ  
ス、 ス、  
ル程 ル程  
ス所 ス所  
トカ トカ  
在存 在存  
資產 資產  
アル アル  
前ト 前ト  
ハナ ハナ  
アリ アリ  
藏大 藏大

橋國務大臣ノ御云フアマスケマニマスノ中ニイカタ程度ノトド云ト本ノ設備ノ程度ノイカタナナイデシテ、道ノ私ハ度勞業者ト云モ、一ツノレバレル山山入ツリマシテ、資材ノ中ニ云フナラ

物資ノアリ  
依ツ考へ  
ハ此ノ持  
トシテムフヤ  
ヘルナ  
有ノ持  
トシテ  
ソ  
ハルナ  
有ス  
サレ  
モ労働  
ノデア  
考へ  
ヨニ所  
シマ  
有ス  
ダケ  
云ツ  
スル  
ヘル  
サレ  
ハラ  
ヘラ  
私達  
貴徹  
シ  
イト  
ニ完  
サレ

マスジ  
需給説  
資産評定  
ウナ老  
ラバ  
ソツテ  
評價並  
レモモ  
学上、  
所ハ持  
ハ持ツ  
十分ニ  
ルト云  
出来ナ  
ノデマ  
ルト云  
スレバ  
謂完全  
ガスル  
力ヲサ  
ルノニ  
力ガサ  
タメニ  
テ、既  
所ニシ  
テ、既  
ナイシ  
レルモ  
スル所

ルトカラ常シ○來資合ガ味テ云アア動ガフトシカトノヌフルヤタガトシヨ○マ  
ヤラガラトシヨ

國民經濟政策大綱

ノスノ態フカスカ非ヲ 出ヲ場ス意立トケデニレ云ル正斯倅ブセ云ナ、ツスカマ體

「バラ  
構成ス  
ナイウ  
ナモソ  
ルナシ  
シミズ  
テ來リ  
來ナシ  
ヨデシ  
在シテ  
ソレー  
云フア  
ツテ  
ヲシ得  
可能ニ  
ナ意ナ  
ノデ  
イトト  
點ニ開  
テモモ  
止マリ  
本多  
○天明  
ノテ、我  
タコト  
遭遇シ  
戦國ノ  
ハ國民  
團結ソ  
優ル戰  
ヒ、唯  
テ行ク  
敗戦ノ  
往々目  
シテ、我  
テモモ  
止マリ  
本多  
○天明  
ノテ、我  
タコト  
遭遇シ  
戦國ノ  
ハ國民  
團結ソ  
優ル戰

ト云々大キヤウトナリ。謂勞結局生提ト、ハ私ノモニ、ノ比考モノ也。テ來ルノ資義、ノ異性也。リマシタ、大臣入リシタ、ウトメ打切シタ。

ノコト  
ナ役割  
セズシ  
アハナ  
ハ當然  
アハナ  
ナコト  
ナアリ  
ヒマ  
ナ評  
ルノデ  
考へ  
ベケレ  
味デノ  
テト此處  
ンタ論  
心ヒマ  
ヤシ  
ノアリ  
ツア  
アハ  
タ云  
ヌレマ  
テ他  
カレル

ガ、セラフ演者、ト云避ケテ、リカ、フモト云、存在テ、リ。ト云前題ヲ、ツクタハナドモ、ドモ、テ行テ完全争争ヲ、スカニ置キト。

ノリマシテ  
又配ラ  
ノ常ニ  
スルノ  
ト云フ  
サウシ  
ガノナ  
モソノ  
コロト  
思ブ  
モソノ  
提トシ  
クコト  
固定資  
ナ企業  
云フモ  
イカ、  
併シ  
争致シ  
ヘルダ  
、私  
ト、一  
シテ、  
キ方  
ニ於キ  
タ曾メ  
メナ状  
ノ情勢  
伺ヒ致  
ニシテ  
云フコ  
而シテ  
ト、一  
氣力  
タメシ  
奴戰  
ト、一  
ノ常ニ  
スルノ  
ト云フ  
サウシ  
ガノナ  
モソノ  
コロト  
思ブ  
モソノ  
提トシ  
クコト  
固定資  
ナ企業  
云フモ  
イカ、  
併シ  
争致シ  
ヘルダ  
、私  
ト、一  
シテ、  
キ方  
ニ於キ  
タ曾メ  
メナ状  
ノ情勢  
伺ヒ致  
ニシテ  
云フコ  
而シテ  
ト、一  
氣力  
タメシ  
奴戰

資本 デハ ヤウ  
テ若 サレ  
ガ出 ノ出  
、ソ  
ガ存 テ、  
本ト ニ依  
ニ再建  
ノガ  
ス様 ノ質  
此ノ マシ  
ケニ  
態ニ  
ヲ率  
トヲ  
針ニ  
トヲ  
テ敗  
一ツ  
前ニ  
ツハ  
ヲ失  
受ケ  
ス、

而シ行タノ施ル我國ツニイタダニ於キ皇室ラレ我ニ對法ニ得テ士ノ三〇五マシニテ太廟ニシケナハイ〇王室会議會ニ准カガマニアムデアハ服が

シテソ  
カド  
ノデア  
ノジア  
ノ戴ク  
カト思  
イコト  
マスマ  
財産三  
カラ中  
レテ居  
得ナイ  
人藏  
ノレル  
承ツ  
於テ  
「對ス  
至此範  
ノヤニ委  
ノアリ  
テモ  
スウ  
之ニ  
ノリマ  
今ノ  
カ出來

臣是ヨコハマ市役所見御所より、ノルノデトト云々アリ。ノマシテカナナイ後決メトハ、只今大ハシマリ。トヨタニ、御答我々

ハ、是  
イコト  
カリ園  
指導五  
政府ハ  
松下深  
其ノ財  
マスガ  
八十  
ス、  
ト思フ  
ノ財產  
此ノ點  
タイタ  
リ  
ス立  
ノコト  
補則テ  
アリテ  
意法三  
院定ノ  
御司  
府ハ今  
トウカ  
アリテ  
タニシ  
ミニ於  
支那政  
マスガ  
タニシ

ヒ承テノシスワ令今至ヨ皇 テシ仕財隨定テキ フシ課憲法ハメ皇ニシナ立我ス府ア

二大誠當局が御見エニナツテ居リマス  
ノデ、出來得マスナラバ記録ヲ止メテ  
モ宜シウゴザイマスガ、モツト詳細ニ  
我々議員ニ納得ノ行クヤウナ御説明ガ  
願ヒタイト存ジマス  
○池田(勇)政府委員 速記ヲ止メテ戴  
キマス  
○本多委員長 速記ヲ止メテ  
〔速記中止〕  
○本多委員長 速記ヲ始メテ  
○天野委員 本件ニ付キマシテハ、政  
府委員ノ御答辯ニ依リマシテ御苦心ノ  
程ヲ御察シシテ了承致シマス、  
續イテ伺ヒタイコトハ、金融機  
關再建整備法ノ第三十三條ニ  
預金部等損失特別處理法ニ依ル補償  
金、合計金額百億圓ガ限度デアルト云  
フコトニナツテ居リマスガ、此ノ百億  
圓ヲ預金部ノ補償金トシテ支出スル限  
度ニ付キマシテ、如何ナル算定ノ下ニ  
此ノ百億圓ガ算出サレタカニ付キマシ  
テ御伺ヒ致シタイト思ヒマス  
○石橋國務大臣 御話ノ金額ハ預金部  
ダケデハコザイマセヌノデ、全體ノ金  
融機關ニ對スル政府カラ行フ補償ヲ其  
ノ限度デ止メル、斯ウ云フ意味デアリ  
マス、隨て是ハ正確ナ計算ハ一々マダ  
會社ノ方カラ金融機關ニ及ブ影響等モ  
決マリマセヌノデ、正確ナコトハ決マ  
リマセヌガ、大體種々ナル計算ヲシテ  
見マシテ、先程申シマシタヤウニ全金  
融機關ニ對スル補償ハ此ノ程度デ出来  
ル、斯ウ云フ見込デアリマス  
○天野委員 先般「ラジオ」放送ニ依  
リマスト、遞信省ニ關スル第二封鎖ハ  
ガ放送サレテ居リマス、尙ホ新聞等ノ  
報道ニ依リマスルト、遞信省關係ニ對

スル補償ガ三十六億四千九百萬圓、ソレカラ銀行、組合等ニ關スル補償ガ大體六、七十億ト聞イテ居リマスガ、此ノ額ヲ以テ致シマスト、遞信省關係ニ預金部第二封鎖預金ハ全然支拂ヘナイトニシテ勘定ガナルト考ヘマスガ、其ノ取扱フカト云フコトハ初メカラ大分問題デアリマシタガ、結局全國ヲ一銀行ト看做シテ計算ヲスル、斯ウ云フコトニシマシタ結果、郵便貯金等ニモ第二封鎖ガ出來ルコトニナリマシタ、所ガ其ノ第二封鎖ノ金額ハ、先程申シマスヤウニ全體ノ預金額ハ非常ニ大キイモノガアルニ拘ラズ、少額預金ガ多數デアリマスカラ、第二封鎖ニナルモノハ比較的僅カデ六億圓位ノ程度デアリマス、所ガ預金部ニハヤハリ在外資產二封鎖ニナルモノハ僅カ六億圓、故ニ全部第二封鎖ハ拂ハレナイト云フコトニ一應ナル譯デアリマス、併シ是ハ我々ノ計算デハ百億圓ノ限度ニ合ツテ、普通ノ金融機關ノ第一封鎖ニ對シテハ補償ヲ行ヒ、尙ホ若干ノ剩餘ノ出来ル見込ミデアリマス、ソレガ出来ヌス場合ニハ、優先的ニ郵便貯金或ハ郵便年金ノ第二封鎖ヲ支拂フ、斯ウ云フヤウナ建前ヲ取ツテ居リマス

シテ平常ノ金ノ運行ガ付クナラバ大シ  
タ心配ハナイト思ヒマス、而シテ戰時  
テ居ルガ、私ハ是ハ政府ニ信賴ガ一  
シツカリト金融機關ニ金ヲ納メ、サウ  
シテ平常ノ金ノ運行ガ付クナラバ大シ  
タ心配ハナイト思ヒマス、而シテ戰時  
中ニ於キマシテモ零細ナ金ヲ國家ノ爲  
ニ、戰争ノ爲ニ貯金サセテ置イテ、其  
ノ政府ガ直接預ツタ金ニ對シテ、第二  
封鎖預金ニ對スル薄弱ニ支拂豫定デア  
ル、一方銀行、會社、組合等ニ於キマ  
シテハ、是ハ舊勘定ノ整理ノ結果、  
田舎ノ銀行、組合等ニ於キマシテハ全  
額支拂豫定ノモノモアリマス、又普通  
ノ銀行ニ於キマシテモ、相當ナ額ヲ支  
拂ヒ得ル豫定ガ完全ニアルノデアリマ  
シテ、斯様ナ狀態ノ時ニ於キマシテ、  
遞信省其ノモノガ預ツタ、所謂國ガ預  
ツタ其ノ預金ガ、第二封鎖ノ支拂豫定  
ガ確立シテ居ラヌ、斯ウ云フコトハ甚  
ダ國民ノ今後ノ思想上ニ及ボ影響ガ  
重大デアルト考ヘマス、固ヨリ遞信省  
ノ預金ダケガ全部支拂ヲ受ケヨウトハ  
國民モ考ヘスト思ヒマスガ、他ノ金融  
機關ニ優ルトモ劣ラザル支拂ヲ致スベ  
キガ當然デハナイカト思フ、之ニ對シ  
テ大藏當局トシテハ如何ナル御考ヘヲ  
持タレルカ承リタイト存ジマス

來ル譯デス、左様ニ情勢カラドウシテ  
モ一種ノ公平觀カラ郵便貯金等モ一應  
普通ノ金融機關ト同ジニ取扱ハナケレ  
バナラヌ、其ノ取扱ツタ結果ガ、是ガレ  
若シ第二封鎖ガ非常ニ大キナ額デアリ  
マスト、言換レバ郵便貯金ト云フモノ  
ガモット大口ノ預金ガ多イノデアリマ  
スレバ、第二封鎖ガ殖エ、隨テ第二封鎖  
鎖ノ中ニモ助カルモノガ出來ル、斯ウ  
云フ勘定ニナル譯デアリマス、所ガ郵  
便貯金ト云フモノハ少額預金者ガ多  
イ、斯ウ云フ關係カラ結局事實ニ於テ  
ハ非常ニ大部分ノ預金者ガ悉ク第一封  
鎖ニカル、五百何十億ノ中僅カニ六億  
シカ第二封鎖ニ入ラナイ、所ガ一方資  
産ノ損害ノ方ハ相當ニアルモノデアリ  
マスカラ、其ノ結果第二封鎖ガ全部部  
鎖ニナル、五分何十億ノ中僅カニ六億  
カラ、斯ウ云フコトニナルンデス  
トハ何事カ、他ノ金融機關ハ第二封鎖  
デモ拂ハレル部分ガアルデハナイン  
シデシマフト云フ結論ニナルモノデス  
ガ、逆ニ言フト第一封鎖ガ非常  
ニ多カツタ大銀行ノ如キハ、結  
リ損害ガソレダケ多カツタ云フコト  
ニナル譯デアリマス、サウ云フ譯デ  
應ハサウ云フ勘定ニナラザルヲ得ナイ  
ノデ、サウナツタノデアリマス、併シ先  
程申上ゲマスヤウニ、百圓ニ依ヅテ  
普通ノ金融機關詰リ郵便貯金カラ始  
テ金融機關ノ新勘定ニ對シテノ補償ヲ  
行ヒ、ソレデ剩餘ガアル場合ニハ直チ  
ニ振替ヘテ郵便貯金ノ第二封鎖ノ支拂  
ニ充テルト云フコトニ致シテ置キマシ  
タ、サウ云フ譯デアリマスカラ、是ハ  
不確實ト言ハレ、バ不確實デアリマス  
ガ、其ノ剩餘金ヲ出シ得ル見込ミデ居  
ル譯デアリマス

金ノ第二封鎖ニ廻ル額ハ極メテ尠少デ  
アルガ爲ニ特ニサウシタ、斯ウ云フ御  
話デアリマスガ、私ハ額ノ如何ヲ問フ  
譯デナク又遞信省預金ナルガ故ニ優先  
的ニ全額支拂ヲ受ケナケレバナラヌ、  
斯ウ云フコトデモナインデアリマス、  
要ハ國家方預カツタ金、而モ郵便貯金  
ハ大部分ニ於テ零細ナ預金デアル、サ  
ウシテ其ノ額ガ多イカ少イカ、斯ワ云  
フコトニ對シテハ私ハ問題外ダト思ヒ  
マス、假ニ他ノ銀行ニ致シマシテモ、  
若シ一萬五千圓以下、或ハ三千圓以下  
ノ預金ヲ預ツテ居リマシタナラバ、是  
ハ全部第一封鎖ニナルノデアリマシ  
テ、其ノ零細ナル預リ金ヲシテ居ル銀  
行ナルガ故ニ第二封鎖ハ其ノ儘度宜イ  
カト云フコトニナリマスト、サウハ參  
リマセヌノデアリマス、カルガ故ニ私  
ハ今大臣ノ言ハレタヤウナ、整備フシ  
テ行ケバ支拂ガ出來ルデハナイカト云  
フヤウナ薄弱ナモノデナクテ、之ニ對  
シテ何等力ノ確タル支拂ノ方途ヲ講ジ  
テ戴クコトガ、今後國民ガ政府ヲ信賴  
スル唯一ノ動機トナルト考ヘテ居リマ  
ス、此ノ點ニ付キマシテ何カ今少シ確  
タル茲ニ方途ヲ御示シ願ヒタイト考ヘ  
マスガ、御意見ヲ承リタイト思ヒマス  
○石橋國務大臣 私ハ郵便貯金等ノ第  
二封鎖ノ額ガ少イカラト云フコトヲ申  
上ゲタノデハアリマセヌ、是ハ建前ト  
シテ郵便貯金等モ他ノ金融機關ト同ジ  
ヤウニ取扱ハザルヲ得ナカツタ、是ハ  
内外ノ情勢上サウ取扱フコトガ當然ダ  
ト主張シタ譯デアリマス、考ヘトシテ  
ハ郵便貯金等ハ政府ノ關係ノモノダカ  
ラ別ノモノニシテ、今度ノ處理カラ離  
シテシマハウト云フ考ヘモナインデハナ  
カツタノデアリマスガ、ソレデハ全體  
トシテ不公平ニナル、ヤハリ是モ一ツ

ノ金融機關ナノダカラ一般ノ銀行ト同  
ジヤウニ取扱ハナケレバナラヌ、斯ウ  
云フ建前ヲ執リマシタ結果郵便貯金ニ  
モ第二封鎖ガ現ハレタ、然ルニ其ノ第  
二封鎖ト云フモノハ全體ノ預金額ガ非  
常ニ大キナモノデアルニ拘ラズチヨツ  
ピリデアル、是ハ大キナ預金デアリマス  
カラ隨て是ガ見返リノ資産モ大キイ、  
見返リノ資産ガ大キイカラ其ノ資産ニ  
穴ガ相當明イタ、所ガ第二封鎖ニナル  
モノハ極クチヨツピリデアルカラ其ノ  
結果第二封鎖ノ僅カノ金額ガ全部第一  
次ノ整理ニ於テ飛乗ニシマフ、斯ウ云  
フコトニナツタノデアリマス、是ガ全  
部飛ンデシマフト云フノデ又非常ニ不  
公平ナヤウナ感ジラ與ヘテ居ル譯デア  
リマスガ、實ハドウシテサウ云フコト  
ニナツタカト申シマスト、只今申上ゲ  
タヤウナ結果デアツテ、非常ニ厖大ナ  
預金額ノ中ニ極ク僅カノ第二封鎖預金  
シカ出來ナカツタト云フコトカラ起ル  
ノデアリマス、併シ何レニシマシテモ  
政府關係ノ斯ウ云フ預金ニ對シテ損害  
ヲ掛ケルト云フコトハ、實ハ政府ドシ  
テハ苦慮致ス所デアリマス、殊ニ據信  
大臣等ニ於テ非常ニ御心配ガアツタ譯  
デアリマス、併シ初マリノ建前カラ理  
論的ニ申セバ、如何ニ政府關係ト雖セ  
金融機關ハ金融機關トシテ取扱ハザル  
ヲ得ナイ、斯ウ云フコトデアリマスノ  
デ斯様ニ結果ニナリマシタガ、併シ繰  
返シテ申上ゲマスヤウニ、百億圓ノ限  
度ニ於テ金融機關ノ第一封鎖ノ損失ヲ  
ナ方法ヲ執ツテ、ソレ以上ニハ只今ノ  
テハ、是モ少シ不公平ナ取扱デアリマ  
スケレドモ、剩餘ガアレバ直ニ郵便貯  
金ノ第二封鎖ヲ優先的ニ支拂フ、斯様  
ナ方法ヲ執ツテ、ソレ以上ニハ只今ノ

所ハヤレナイ、ソレガ只今政府ガ考へ  
マシタ最大限デアルト云フコトヲ御認

ノ銀行或ハ生命保険、ソレ等ノ第一封鎖ナラ第二封鎖ノ飛ンダ銀行、第一封

第一封鎖ニ全部ナラウトモ關係シタコ  
トデアリマセヌガ、其ノ性質、理論ニ於

デアルカラ詰リ第二封鎖ガ少クテモ、  
一方ノ民間銀行ニ於テハ舊勘定ヲ整理

○天野委員 今ノ大臣ノ御詫ハ詰リ金融機關關ト國家ノ預カツタ金ト同ジ意味デアルカラ同ジヤウニ抜フト言ハレテ居リマシタガ、一方金融機關ノ方ニハモウ是ハ切り放シデ出來ナイ、斯ニハ舊勘定ノ整理ノ後ニソコニ支拂ガ出來ル見返リガアル、一方遞信省ノ方ニハ得ル事無シテ、斯ニハモウ是ハ切り放シデ出來ナイ、斯ニハ云フ形ニナルノデアリマシテ、是ハ同ジ扱ニサレタノデハナカツタ私ハ考ヘマスガ、併シは別問題トシテ其ノ辯論爭ハ取止メルコトニ致シマシテ、私は遞信省ノ預カル第二封鎖ガ八億二千七百萬圓ト聞イテ居リマスガ、之ニ對シテ餘ツタラヤラウデナクテ、斯シテクスクノ方法ヲ以テ兎ニ角一般民營業者ノ金融機關ガ支拂フト同等ナ類位マデニハ達シヨウ、斯ウ云フ何カ御考へ、方法ヲ聽カシテ戴キタイト考ヘテ居リマスガ、其ノ點如何デアリマセウカ

ハ、其ノ時ハ銀行、生命保険、郵便時  
金ガ第二封鎖ハ全部飛ソ<sup>テ</sup>居ル、テ  
アリマスカラ、單ニ郵便貯金ダケデナ  
ク、一般金融機關ノ中ニハ第二封鎖云フコトデ  
飛ブモノガ或ル程度アルト云フコトデ  
アリマス、デスカラ決シテ郵便貯金ダケ  
ケ別扱ヒラシテ特ニ不利益ナ立場ニ  
タシタ譯デハナイノデアリマシテ、全  
ク同ジ立場ニ立タセタ結果ガ斯ウ云  
コトニナツタノデアリマス、其ノ點又  
御質問ノ中ニアリマシタノデ申上ゲ  
置キマス。

○天野委員 今ノ御説明デ大臣ハ別ニ  
第一封鎖ノ支拂ガ多イカラト云フ意味  
デ第二封鎖ノ豫備ヲ取ツテ置カナカッ  
タ、ソレデ詰リ其ノ理由デ斯ウダト云  
フ御話デアリマスガ、是ハドウシテモシ  
私ハ納得ガ行キマセヌ、曩ニ申上ダム  
シタ通り、田舎ノ小サイ銀行、小サイ  
組合ハ全部ハ第一封鎖ニナツテ居ル、  
ソレト同ジテ遞信省ノ預金ハ零細ナ預  
金ラ集タマモノデアリマシテ、ソレガ  
便貯金ダケデナク、詰リ百億圓ニ當ル  
程ノ損失ヲ「カバー」シテヤラナケ  
バ、百億圓ハ、第一封鎖ノ「カバー」<sup>テ</sup>

○石橋國務大臣 私ニハアナタノ御御  
一寸分ラナイノデスガ、全ク他ノ金融  
機關ト郵便局ト同ジ取扱ヲシテ居ルガ  
ケデス、同ジ取扱ヲシテソレデ計算ヲ  
シテ見ルト五百何十億圓ノ預金ノ申入  
部分ガ第一封鎖ニナリ、サウシテ六億  
圓バカリガ第二封鎖ニナル、是ダケン  
コトナノアリマス

○天野委員 今一度申上ゲマスガ、甘  
ノ普通ノ一般金融機關ト遞信省ノ郵便  
貯金ト同ジ扱ツタト言ハレルガ、牛  
ノ大臣ノ御答辯デハ兎ニ角全體ノ額カ  
ラ第二封鎖ニ廻ル額ガ少イカラスワニ  
フ結果ニナツタト言ハレルガ、私ノ考  
ヘデ近イ例ヲ申上ゲマスト、私ノ村キ  
ドハ山間ノ僻村デアリマシテ、産業組合  
ナドハ零細ナ金ヲ預カツテ居ル、其ノ  
零細ナ金ヲ預カツテ居ル組合ノ預金ハ  
三千圓以下、或ハ一萬五千圓以下デア  
リマシテ、全部第一封鎖ニ廻ツテシ  
フ、ソレデハ其ノ組合ノ預金ハ別ニ  
フカト云フトサワデハナイ、隨テ添  
信省ノ預金ト云フモノハ元々零細ナ金  
ヲ預カツテアルノダカラ、第一封鎖ニ  
廻ハルベキ金ガ多イコトハ當然ノ歸属  
デアル、隨テ第一封鎖ニ多クノ金ガ分布  
ハルカラ、第二封鎖ノソレニ對スル吉  
云フコトデハ私ハドウシテモ理論ガ有  
ナイト思フ、斯ウ云ノコトナンデス

ガアル、遞信省ニ於テハ如何ニ整理シテモ、第二封鎖ニ廻ハツタ八億二千七百萬圓ニ對シテハ支拂豫定ノ確タルモノガ今ナイ、ソレハ不公平デハナイカダケノ豫定ハシテ置クベキデハナイカ、其ノ豫定ヲ置イテ歟クコトガ、一般拂ヘト云フコトハ、中上ゲヌガ、一般民間ノ營業者ノ平均額位ノ金ヲ支拂フタコトヲ一寸補足シテ申上ゲタイト思ヒマスガ、銀行其ノ他ノ金融機關ノ場合ニアリマシテハ、補償ヲ要スルト云フノハ第二封鎖ノ金ガ全部飛ンダ後ノ話ニアリマス、隨ヒマシテ其ノ同ジ筆法デ行キマスト、郵便貯金ハ預金部ノ方ニ相當大キナ穴ガ明キマスカラ、其ノ穴ヲ埋メルト云フコトニ依ツテ郵便貯金ノ支拂ガ切メテ可能ナノデアリマス、只今新勘定、舊勘定ト云フ區別ハシテ居リマセヌガ、第一封鎖、第二封鎖ト云フ區別ハシテ居ル、第一封鎖預金ヲ銀行並ニ補償致シマスト云フ際ニハ、第二封鎖ニナツタモノハ總テ是ガ飛ンダト云フ後デナケレバ、銀行並ニ行ケバ補償ヲ受ケラレナイト云フ筋合ナノデアリマス、然ルニ仰シャル通り銀行等ト違ヒマシテ、郵便貯金ハ非常ニ柔細ナモノデアル、ソレカラ又國ニ對スル預金デアルト云フヤウナ特殊ナ性質ガアリマス、ソコデ銀行トハ草ヒ

マシテ非常ナ特殊ナ厘イ取扱ヲシテ居ルノデアリマス、其ノ第一點ハ、百億ト云フ制限ガアリマスガ、其ノ制限ヲ超エテ普通ノ銀行ノ第一封鎖ハ補償サレルコトハ出來ナインデアリマスガ、郵便貯金ニアツテハ、先づ百億圓ノ中他ノ銀行ガ第一封鎖ノ保護ヲ受ケ得ナイト云。場合ニ於キマシテ優先シテ保護サレルノデアリマス、ソレカラ尙ホモウ一ツノ特典ト申シマスカ、厚イ取扱トシテハ、他ノ銀行ガ補償シテ郵便貯金ノ方ト合ハセテ百億圓ニハ餘リガアルト云フ際ニハ、第二封鎖マデモ補償シヨウト云フコトニナルノデアリマス、其ノ二點ニ於テ非常ニ厚イ取扱シテ居ル、ソレカラ實際ノ見透シトシテハ、銀行、郵便貯金ヲ合ハセマシテ百億ト申シマスト相當餘裕ガアラウカト思フノデアリマス、實際ノ見透シトシテハ郵便貯金ハ殆ド全部第二封鎖モ確保サレテ居ル、斯様ナコトニナリマスト、是ハ他ノ銀行ニハ例ヲ見ラレナイ厚イ扱ヒヲ受ケル、斯ウ云フコトニナリマスノデ、先づ政府トシテ此ノ扱ヒハ出來ル限りノ扱ヒヲシタ、斯様ニ御慮承願ヒタイト思ヒマス。

○天野委員 大體今ノ御話ハ分リマシタガ、ソコデ一ツ伺ツテ置キタイコトハ金融機關ニ對スル財産ノ見積リ、是ハドウ云フ所ヲ基準ニ不動産、詰リ建物、器具、土地ナドニ關シテハ計算サレルノデアリマセウカ、其ノ點ヲ承ツテ置キマス

○福田政府委員 只今ノ御尋ねハ金融機關自體ノ建物ノ評價ノコト承知シタノデアリマスガ、金融機關自體ノ建物ノ評價ニ付キマシテハ、是ハ企業ノ場合、ソレカラ財産税徵收ノ場合ト大

○ 藤田政府委員 是ハ先程大臣カラ  
段々御答へ申上ゲテ居ル所デアリマ  
スガ、一般ノ評價基準——色々物ニ依  
リマシテ場合アリマスガ、建物等ニ  
アリマシテハ時價ト申シマシテモ、成  
ベク時價ヨリハ低自ナ評價ヲ致シタイ  
ト云フ風ニ考ヘマス

○ 天野委員 ソレデハ最後ノ希望ト致  
シマシテ、兎ニ角一般ノ預金者ハ預金  
ヲ損ラスル、ソレカラ又國ヲ信賴シテ  
我々トシマシテハ戦争中勝ツ爲トシテ  
零細ナ金ヲ、食ベル物ヲ食ベズニ預ケ  
サシタ、斯ウ云フ建前ニナツテ居リマ  
ス、ソレカラ今大臣ノ答辯ニ依リマス  
ト、之ヲ整理シテ殘ルモノハ郵便局  
ニ廻ハス、斯ウ云フコトデアリマシタ  
カラ、遞信當局ト致シマシテ、私カラ  
ヘテ、一ツ國ノ信賴ヲ傷スケナイヤウ  
ケレバ良イダケ其ノ方へ廻ハルト考ヘ  
テ居リマス、ドウカ其ノ點ニ手心ヲ加  
ガ、其ノ業者ノ財産ノ見積リ價格ガ良  
い御支拂ヲ願ヒタイト存ジマス

○ 松宮務大臣 只今ノ天野委員ノ御  
質問ハ遞信省ニ關係スルノデアリマス  
カラ、遞信當局ト致シマシテ、私カラ  
ヘテ、一ツ國ノ信賴ヲ傷スケナイヤウ  
モ所信ノ一端ヲ茲ニ明カニ致シマシ  
テ、國民ノ誤解ノナイヤウニ致シタイ  
ト思フノデアリマス、百億ノ金ヲ以チ  
マシテ金融機關ノ補償ノ額ニ充テ  
テ其ノ額ガ百億圓ニ達スレバ、モウ  
ソレデ郵便貯金竝ニ年金ノ第二封鎖ノ  
第一封鎖ノ不足ニ之ヲ充テル、サウシ  
ル、其ノ中デ、此ノ法ニ規定致シテア  
リマスヤウニ、郵便貯金、郵便年金ノ  
ソレデ郵便貯金竝ニ年金ノ第二封鎖ノ  
方ニハ充當出來ナイ、デアリマスカ

シニ、所謂郵便貯金及び年金ノ第二封鎖ノ八億何千萬圓ト云フ金ハ是ハ飛ンデシマノニアリマス、ソレヲ天野委員ハ御心配ニナツテ居ルノニアリマセバウガ、大藏當局ノ非常ニ考慮ヲ拂ハテ居リマスル點ハ、郵便年金竝ニ郵便貯金ノ第一封鎖ヲ一番ニ支拂ツテ、殘リノ金、例ヘバ郵便貯金竝ニ年金ノ補償スルモノガ四十億圓アルト假定致マス、サウスルト百億ノ中カラ四十億引クトアト六十億殘ル、其ノ六十億ノ金ヲ以テ銀行若シクハ組合、農業會社ノ第一封鎖ヲ假ニ五十億ダケ支拂ヘバ、ソレデ第一封鎖ノ補填ガ出來タト假定致シマス、サウスルトソニ二十億ト云フ金ガ殘ルカラ、其ノ十億ノ金ハ所謂郵便年金竝ニ郵便貯金ノ八億幾ラト云フモノニ充當シテ第二封鎖ノ金ヲ全部拂ツテシマフ、尙ほ殘りガ二億アリガ二億アリガ二億アリガ二億アリガ四十億アツテ、六十億殘ヌテ居ル、其ノ六十億圓ノ金ガ銀行竝ニ農業會、組合等ノ第二封鎖ノ方ニ入ル、斯シ云フコトニナリマス、若シ百億ノ金デ今例ニ取りマシタ郵便貯金竝ニ年金レバ其ノ二億ハ今度ハ銀行竝ニ農業會、組合等ノ第二封鎖ノ方ニ入ル、斯シ云フコトニナリマス、若シ百億ノ金組合等ノ第一封鎖ノ不足ニ充當スル時ニ假ニ五十八億ダケ要ツタ、サウスルト二億残ル、其ノ二億ハ郵便貯金竝ニ農業會、組合等ノ第二封鎖ノ方ニ入ル、斯シ云フコトニナリマス、若シ百億ノ金ウスルト八億アツタ中ニ二億入ツカヌ、六億ダケ飛ンダト云フコトニナリマス、サウスルト問題ハ銀行封鎖ノ方ニ持ツテ行ケルカラ、如何ニ

スレバ、金ガ餘ルカト云フ此ノ工作ガナラニ  
及ビ農業會トカ組合トカ云フヤウナノ資産ノ評價、之ヲ帳簿面テ評價スルア  
ト云フコトニナルト安イ、デスカラ李  
産ガ少クナレバ、國ノ補償スル百億  
金ガ澤山ソコニ食ハレル、資産ガ多クナ  
レバ、百億ノ金デ四十億拂ツタ殘ル  
ノ六十億ノ金デ支拂フ分ガ少クナリマ  
ス、即チ第一封鎖デ拂フ金ガ大分餘ル  
カラ、郵便貯金及ビ年金ノ方ニ廻ハ  
ル、斯ウ云フコトニナル、デスカラ委  
產ノ評價ノ仕方ト云フモノガ非常ニ重  
大ナ影響ヲ持ツノデス、其ノコトハ今  
大藏當局ノ御説明ニ相成リマシタルヤ  
ウニ、成タケ公平ニ堅實ニ、是ナラ  
餘リ無理ハナイ、ト云フヤウナ、公正  
ナ立場ニ於テ其ノ資產ノ評價ヲスル、  
サウスレバ幾ラ殘ルカ知ラナイガ、郵  
便年金及ビ預金ノ方ニ廻ハルト云フ  
トニナル、デスカラ私共遞信當局トシ  
テハ、此ノ資產ノ評價ニ付テ餘程著  
シナケレバナラヌ、之ヲ減茶苦茶ニ空  
ク評價ヲシテ銀行ヤ何カノ方ニ澤山當  
ハレ、バ、郵便年金及ビ郵便貯金ト云  
フモノノ第二封鎖ヘ拂ヘスト云フコ  
ニナル、其ノ點ガ此ノ運用ノ上ニ於テ  
餘程注意シナケレバナラヌモノアニ  
ル限リハ、我々ノ預金ハ必ず支拂ハ  
ナイノダ、約束ガ違フノダト云フコト  
ニナレバ、アナタノ仰シヤルヤウ  
ニ致シマシテ、今天野委員ノ仰セニ  
リマシタヤウニ、大日本帝國ノ存在ア  
ル限リハ、我々ノ預金ハ必ず支拂ハ  
ルモノダト思シテ、預金シタ其ノ預金  
者若シクハ年金契約ヲシタ人ガ、拂  
ヌト云フコトニナリ、政府ニ對シテ信

ルト將來ノ遞信省ノ郵便年金若シクハ郵便貯金ト云フモノハ、モウアレニ預ケタツテ駄目ダト云フコトニナルト大變デスカラ、其ノ邊ハ遞信大臣トシテ餘程關心ヲ持ツテ大藏當局ト善處スペク努力致シテ居リマスシ、又努力スル考ヘデアリマスカラ、其ノ點ハドウゾ御安心下サイマスルヤウニ御願ヒ致シマス

○天野委員 只今遞信大臣ノ御話ヲ聽キマシテ、色々ト事情ガ分リ肯カレマシタ、此ノ際一ツ大藏當局ニ尙ホ一應伺ヒタインノデアリマスガ、今申上ゲマス通り、資産ノ評價如何ガ懸ツテ郵便貯金、年金等ノ支拂ニ關係ガアル、斯ウ云フコトデアリマシタ、是レ亦郵便貯金及ビ年金等ガ或ル程度國民ニケルマデニ支拂ヘルト云フコトガ國家ノ信用ヲ増ス所以デアリ、又新シキ日本ヲ建設スル上ニ於キマシテ、政府ヘノ信賴ヲ保持スルト云フコトガ一番ノ重大要件デアル、斯ソ云フ點カラ考ヘマシテ、其ノ點ニ付キマシテ相當御考慮ヲ拂ヘルカ否カト云フコトヲ一應御伺ヒ致シマス

○福田政府委員 御趣旨ノ點ハ能ク分リマシタカラ、成ベク左様ナコトニナルヤウニ努力致シマス

○天野委員 次ニ恩給法ニ付テ簡單ニ厚生省ノ方ニ伺ヒタイト思ヒマス、先程來同僚委員カラ御質問ガアリマシタガ、恩給法ノ第八條ニハ「昭和二十二年勅令第六十八號第五號に規定するものを除く」トアリマシテ、今回恩給法相當スル額ガ支拂ハルト云フコトニガ改正ナレテ、他ノモノハ三十五割ニナツテ居リマス、併シナガラ聞ク所ニ依リマスルト、二十一年勅令第六十八

號第五號ト云フモノハ、我が國民ガ國家ノ爲ニ戰場ニ備キ、而シテ手ヲナクシ、足ヲナクシ、或ハ耳ヲ失ヒ、眼ヲ失ヒ、自力ヲ以テ備キ得ナイ傷痍軍人アルト承ツテ居リマスガ、此ノ人達ノ恩給ガ文官ノ恩給ニ比較シテ、非常ニ低イ額ニナツテ居ル、是ハ聯合國或ハ某國ノ指圖ニ依リマスト、軍人ナルガ故ト云フコトモ聞イテ居リマスガ、併シモウ戰フコトガ出來ナシ、生キテ行クノニ氣息奄々タル者ハ、假令交戦中デアリマシテモ、之ヲ赤十字ガ救ツテ、敵タリトモ之ヲ看護シテヤル、斯ウ云フ人道上ノ情義モアルノデアリマス、然ルニ終戰後平和ニナリマシテ、戰鬪力ガナクナツク、而モ國ノ爲ニ手ヲ失ヒ足ヲ失ツタ其ノ人達ガ、此ノ法令ガアルガ爲ニ、文官ニ比較シテ洵ニ氣ノ毒ナ狀態ニアル恩給ヲ支給サレル、斯ウ云フコトハ今後思想上ニモ由タシイ問題デアルト考ヘマス、ソユデ私ハ率直ニ厚生省ニ伺ヒタノデアリマスガ、此ノ軍人ニ對シテ安恩給ニ置カナケレバナラナイ事態此ノ法令ガアルノデ、之ニ其準則取ツテ算定致シタ、斯様ニナツタ云フコトヲ聞イテ居リマスガ、果シテ然リトシマスナラバ、此ノ厚生年金ヲ改正シテ、此ノ恩給ヲ上ゲル意思ガアルカナカ、又厚生年金ト致シマシテモ昭和十七年ニ制定致シタモノアリマシテ、今日其ノ額ガ其ノ儘デアルト云フコトナラバ、厚生年金ノ額モ今日ノ時代ニ副ハナイモノアルト考ヘマスガ、此ノ必要ヲ實ハ認メテ居リマシテ見ヲ承リタイト思ヒマス

○服部政府委員 厚生年金法ノ給與ノ内容ヲ上ガルト云フコトニ關シマシテハ、其ノ必要ヲ實ハ認メテ居リマス

目下考慮ヲ致シテ居リマスガ、具體的アルト承ツテ居リマスガ、此ノ人達ノ恩給ガ文官ノ恩給ニ比較シテ、非常ニ低イ額ニナツテ居ル、是ハ聯合國或ハ某國ノ指圖ニ依リマスト、軍人ナルガ故ト云フコトモ聞イテ居リマスガ、併シモウ戰フコトガ出來ナシ、生キテ行クノニ氣息奄々タル者ハ、假令交戦中デアリマシテモ、之ヲ赤十字ガ救ツテ、敵タリトモ之ヲ看護シテヤル、斯ウ云フ人道上ノ情義モアルノデアリマス、然ルニ終戰後平和ニナリマシテ、戰鬪力ガナクナツク、而モ國ノ爲ニ手ヲ失ヒ足ヲ失ツタ其ノ人達ガ、此ノ法令ガアルガ爲ニ、文官ニ比較シテ洵ニ氣ノ毒ナ狀態ニアル恩給ヲ支給サレル、斯ウ云フコトハ今後思想上ニモ由タシイ問題デアルト考ヘマス、ソユデ私ハ率直ニ厚生省ニ伺ヒタノデアリマスガ、此ノ軍人ニ對シテ安恩給ニ置カナケレバナラナイ事態此ノ法令ガアルノデ、之ニ其準則取ツテ算定致シタ、斯様ニナツタ云フコトヲ聞イテ居リマスガ、果シテ然リトシマスナラバ、此ノ厚生年金ヲ改正シテ、此ノ恩給ヲ上ゲル意思ガアルカナカ、又厚生年金ト致シマシテモ昭和十七年ニ制定致シタモノアリマシテ、今日其ノ額ガ其ノ儘デアルト云フコトナラバ、厚生年金ノ額モ今日ノ時代ニ副ハナイモノアルト考ヘマスガ、此ノ必要ヲ實ハ認メテ居リマシテ見ヲ承リタイト思ヒマス

○大野委員 只今厚生省ノ方カラ御説明ヲ戴キマシテ大變ニ有難イコトデアリマスガ、ドウカ一ツ早急ニ御決定ヲ願ヒタイト思ヒマス、而シテ此ノ厚生年金ハ昭和十七年ニ制定致シタモノ、是ハ實際ニ利用スルノハ三十二年頃カラ始マルト考ヘテ居リマスガ、ドウカ一寸忘レマシタガ極メテシテ文官其ノ他ニ或ル程度マテ四敵スル、納得ガ出来ル類ニ御引上ヲ願フコトヲ希望致シマス

○本多委員長 中野四郎君  
○中野(四)委員 私ハ七項目ニ瓦ツテ付キマシテハ、厚生省ト致シマシテ十分ニ考慮致シテ居リマスコトヲ御承知ヲ願ヒマス

○天野委員 私ノ質問ハ是テ終リト致シマス  
○天野委員 私ノ質問ハ是テ終リト致シマス

合ニハ適當ニ評價ヲ下スヤウナコトヲ考ヘテ居リマス

○池田(勇)政府委員 財産税法案ノ税率ハ世界無比高イト云フコトハ、此ノ間石橋大藏大臣モ此處デ認メテ居ラレルノデアリマス、曾テ此ノ財産税ヲ世界中デ「フランス」テ取ツタ云フコトヲ聞イテ居リマスガ、ソレモ本當ニリマスガ、ドウカ一ツ早急ニ御決定ヲ願ヒタイト思ヒマス、而シテ此ノ厚生年金ハ昭和十七年ニ制定致シタモノ、是ハ實際ニ利用スルノハ三十二年頃カラ始マルト考ヘテ居リマスガ、ドウカ一寸忘レマシタガ極メテシテ文官其ノ他ニ或ル程度マテ四敵スル、納得ガ出来ル類ニ御引上ヲ願フコトヲ希望致シマス

ル税額ヲ以テ戦災者ヤ復員軍人或ハ引揚者ト云フ方面ノ生活ノ保障——社會黨ノ中崎君ガ言ツテ居ラレタガ、サウ云々方面ニハ撒カレルト云フヤウナ血モアリ涙モアルヤウナ所謂政治ノアリ方トノ根據ガ私等ニハ分ラナイ、是モ後程纏括的ニ伺ハナケレバナラヌ方面ノ角ト致シマシテ、唯端的ニ二萬圓ノ税率ヲ十萬圓ニボント引上ゲタ云フコトノ根据ガ私等ニハ分ラナイ、是モ後大事ナ問題デアリマスカラ、税率ノ根據ト共ニ免税點ヲ十萬圓ニ引上ゲタ根據ヲ伺ツテ實キタイト思ヒマス○池田(勇)政府委員 當初ノ財產稅法案ノ免稅點ハ御話ノ通りニ二萬圓デザイマシタ、是ハ其ノ當時ノ物價事情リト相共ニ出テ參リマスル財產稅ニ於又財產稅ノ目的カラサツ云フ風ニ決メキマシテハ、此ノ提案理由ニ書イテアヌテ居ツタノデアリマスルガ、社會經濟事情ガ餘程違ツテ參リマシテ補償打切リト相共ニ出テ參リマスル財產稅ニ於國庫收入ヲ確保スルト云フコトド、富ノ均衡化ニ依ル經濟ノ民主化ト云フニシテ各國各行ツテ居リマス財產稅ヲ見點カラ考慮ヲ運ラシマスト、十萬圓ガ適當デアルト云フ結論ニ到達シタノデアリマス、是ハ今回ノ戰爭後ニ於キマソスハ二十五萬「フラン」ヲ免稅點ニ致シマシタ、「ベルギー」ハ個々ノ分類リマシテ餘程違ツテ居リマス、「フラン」ヲ使ツテ居リマス、只今我ガ國ノ此ノ現狀カラ以テスレバ、徵稅技術ノ點モ考慮致サナケレバナリマセヌノテ、財產稅デアリマスノデ、相當低免稅各般ノ事情ヲ考慮致シマシテ、十萬圓點ヲ使ツテ居リマス、各適當デアルト云フコトニ致シタノデ

ニ、所定ノ收入ガ累ダ得ナイ時ニハ五萬圓以上ノ方ニモ將來改メテ財產稅ヲ取ルヤウニナルカモ分ヲヌト言ハレタコトハ、是ハ將來ノ稅收入ガ非常ニ減ツタ場合ニ措置デゴザイマス、此ノ法案カラ當然出テ來ルノデハゴザイマセバ  
○中野(四)委員 ソレデハ主稅局長ノ御答ヘハ斯ワ取ツテ宜シウゴザイマスカラ、十萬圓ノ免稅點ニ一取ツテ、所定ノ額ガ取レナイ場合ニ於テハ、更ニ何等カノ機會ニ於テ五萬圓マデ免稅點ヲ引上ゲテ取ルヤウナ場合ガ想像サレルト云フヤウニ取ツテ宜シウゴザイマスカ  
○池田(勇)政府委員 此ノ財產稅法案カラハサウ云フコトハ出テ參リマセス、若シ將來五萬圓以上ノ方ニ對シマセシテ別ニ財產稅ヲ取ルトスレバ、別個ノ法案デ御審議ヲ願フコトニナルノデゴザイマス、只今ノ所ハ私ハ四百三十五億圓ノ豫定ノ稅收ハ確保シ得ルト考ヘテ居リマスカラ、實際問題トシテ五萬圓カラ十萬圓マデノ方カラ改メテ取ルト云フコトハナイト思ツテ居リマス  
○中野(四)委員 取レルカ取レヌカハ狸ノ皮算用デ取ツテ見ナケレバ分ラヌト私ハ思フケレドモ、先ヅ其ノ取り方ニ色々アルダラウト思ヒマス、ソコデ徵稅ノ順位ト云フモノヲ此ノ際一ツ承クリ置キタイト思ヒマス、曾テ主稅局長ノ談ト致シマシテ、大體此ノ議會デハ再々聽イテモ居リマシタガ、第一ニ現金、ソレカラ預金、公債其ノ次ハ不動產ト云フコトニナツテ居リマスカラ、斯ウ云フ風ニ數ヘテ行キマスレバ次ニ來ルモノハ當然動產、株式公債、骨

董、書畫ナント云フ方面ニ行クノダムアリマス、斯ウ云トウモロコシノ事、  
ウモ政府ハ中々旨イヤリ方デス、第一番ニ現金ヲ取ツテ、ソレカラ預金ヲ取ツテ、  
ツテ、公債ヲ取ツテ、其ノ次ニ不動産ト云フヤリ方ハドアリマス、  
ト云フノデアリマス、不動産ト云フノ大體住宅デスカラ、誰デモ不動産ヲ  
出シタクナイ、之ヲ出シタクナイトナルト結局自分ノ持ツテ居ル株トカ家財  
ナンカラ賣ツチ、不動産ヲ助ケルト云フヤウナ結果ニナルノデヤナカラウカ  
ト思ヒマスガ、斯ウ云フ意味デ行ケバ、  
政府ハ非常ニ賢明ナ策ヲ執ツタニ達ヒアリマセヌケレドモ、取ラレル側ニ販  
ツテハ此ノ位迷惑ナ話ハナイト思ヒマス、ソコデ此ノ順位ニ對シテドウデナ  
シカ、株券又ハ家財ヲバ不動産等物ナ  
ノ場合ニ任意ニ納メサセルト云フヤウ  
ナコトヲ政府當局ハ考ヘテ居ラレルカ  
ドウカ、一ツ御聽カセヲ願ヒタイト  
ヒマス

現金化シテ戴キタイト思ヒマス、現金化が困難デアル場合、而モ不動産竝ニ、最後ノ順位トシテ動産二行クコトニ致シテ居リマス  
○中野(四)委員 若シサウ云フヤウナ状態デ株券ヲ以テ納メル、株券ヲ賣斐テ不動産ヲ助ケヨウツルト、結局議方カラ株券ヲ賣ルト云フコトガヒドナルカラ株價ハ自然下ガル、特ニ大本家ナドノ納税ノ物納ハ大陸株券タラウト思ヒマス、政府デハ大ニイサウニテ株券物納ヲ認メテ居リマスガ、斯ニ云フ場合ニハ政府ハ營業權、企業權ニ「タツチ」セザル所ノ大株主ニナルカニ知レマセヌガ、結局政府モ株ガガタ莎ニナツタラ、收入ガグット減ツテ來リカラ、勢ヒ株ヲ賣ル、賣ツテ一般ノ津惑ニナルヤウナコトヲ考ヘズニ、此ト不動産ノ場合ニ一家財道具ノコトハ別ニシテモ、株券ト不動産トヲ物納ノ場合ニ同等ニ考ヘルト云フ考ヘハアリマス又カ

八割取ツテ二割残存サシテ行クト云  
話デシタガ、今デモ其ノ通りデスカ  
○池田(男)政府委員　ズット以前第一  
封鎖下第二封鎖ノナイ場合、即ち三月  
頃マデハ現金、預金ノ八割ヲ先ヅ納メ  
テ貰フト云フ考ヘヲ持ツテ居リマシタ  
ガ、今ノ現状デハ第一封鎖預金ト云  
フモノハ餘程少イト認メテ居リ  
マス、隨ヒマシテ法律デモ金錢デ  
納付スルヨコトノ困難ナル場合ト  
決メマシテ、個々ノ場合ニ決メテ行キ  
タイト思ツテ居リマス、第一封鎖預金  
ヲ各銀行ニ相當持ツテ居ラレルト云フ  
場合デ、而モ税額ガ非常ニ少イト云フ  
時ニハ、預金ヲ全部現金デ納メテ貰フ  
場合モゴザイマセウ、併シ税額ガ非常  
ニ多クテ第一封鎖預金ガ少イ場合ニ  
ハ、其ノ第一封鎖預金ハ生活費ニ廻ハ  
サナケレバナリマセヌカラ、預金デ納  
メテ貰フ金額ハ皆無カ或ハ極ク少イト  
云フ場合モアルト思フノデゴザイマス  
○中野(四)委員　個々ノ場合ヲ十二分  
ニ參酌スルノデスカ、サウシマスト、  
ソレハ誰ガ參酌スルノデスカ  
○池田(男)政府委員　個々ノ場合ヲ十  
分參酌致シマス、サウシテ誰ガ參酌ス  
ルカト申シマスト、徵稅ノ衝ニ當ツテ  
居リマス稅務署長ガ、納稅者ノ事情ヲ  
聽キマシテ、決定スルヨコトニ致シテ居  
リマス  
○中野(四)委員　次ニ戰災控除ノコト  
デ伺ソテ置キタインデスガ、先ノ財産税  
法案デハ、戰災控除ハ一家ガ大體一萬  
圓デ、明カニ家族單位デアツタノダガ、  
今度ノ法案デハ第十九條ニ戰災者、引  
揚者ニ付アハ一人ニ付キ五千圓ノ控除  
ガ規定サレテ居リマスガ、是ハ政府方  
新憲法ノ精神ニ基イテ個人單位ニ改メ

モ、一人五千圓ヲ控除スルト言ツテ居リマス、此ノ前ノハ一家一萬圓ト言ツテ居リマス、世帯單位カラ個人單位ニ變更シタト云フコトハ、新憲法ノ精神ニ即シテナスツタノダラウト私ハ思フノデスケレドモ、第二十二條ノ第二項ニ於テ、同居家族ニ付テハ課税價格ヲ合算シテ、其ノ總額ニ付テ前項ノ規定ヲ適用スルトアツテ、此處デハ課税價格ヲ算定ヲバ家族單位ニシテ居ルト云フノハドウ云フ譯デアリマセウカ、此ノ點戰災控除ノ場合ト矛盾シナイカト思フノデアリマスガ、御答辯願ヒマス○池田(勇)政府委員　總テ租税ニ付キマシテハ、所得稅ニ於キマシテモ規定シテ居リマス如ク、家族單位デ、同居家族ヲ合算致シマシテ、税率ヲ適用スルノガ平々期シ得ルノデ、税率ノ適用ハ總テ家族單位ニ致シテアリマス、サウシテ前ノ御質問ノ戰災者竝ニ引揚者ニ對シマスル控除ハ、ズット以前ノ案デハ一世帶一萬圓ト云フコトニ致シテ居リマシタガ、戰災者ノ數ニ依ツテ損害モ變ツテ居ルト云フ事情ヲ慮致シマシテ、一人五千圓ト致シタ次第デアリマス

或ハ漁村ニ於ケル漁船、漁網ト云フヤ  
ウナモノニ税金ガ課ケラマスル結果  
ニ於テハ、直接其ノ企業體ニ影響ヲ及  
ボス感ガ深イノデアリマス、御承知ノ  
ヤウニ農家ノ家ト云フモノハ、大體ニ  
於テ、都會ノ住宅ト連ツテ、其處ガ鹽ヲ  
銅ヲ場所モアレバ乃至ハ農機具ヲ  
置ク所ノ一ツノ納屋デモアル、斯ワ云  
フヤウナモノニ對シテ、今度ノ財産税  
課税ニ當ツテ、住宅ト云フヤウナ見地  
カラ課税ヲスルカドウカト云フコトヲ  
一ツ伺ヒタイト思フノデアリマス  
○池田(勇)政府委員 農家並ニ漁業家  
ノ所謂農業ノ爲ニ資産或ハ漁業ノ爲ニ  
資産モ一應課税ノ対象ニナリマス、併  
シ免稅點ガ十萬圓ニナリマシタノデ、  
實際ニ課税ニナリマス場合ハ少トイト考  
ヘテ居リマス、又農家ノ靈室其ノ他ノ  
納屋ニ付キマシテハ、是ハ賃貸價格ガ  
ソレ相應ニ低ク付イテ居リマスノデ、  
ヤハリ倍數ヲ適用シテモ苦酷ニ失スル  
ト云フコトハナイト思シテ居リマス  
○中野(四)委員 私ノ御尋ネシタノ  
ハ、住宅トシテ取扱フカ、或ハ特別ナ  
考慮ヲシテ居ルカドウカト云フコトヲ  
伺ツタ譯デ、其ノ課税ガ課カルカ課税カ  
ラヌカハ是カラ御尋ネシテ行カウト思  
フノデスカラ、其ノ點ヲ一ツ主税局長  
カラ伺ヒマス  
○中野(四)委員 是ハ私ハ洵ニ容易ナ  
ラヌ問題ダト思フノデス、主税局長モ  
デアル、納屋デアル、家屋デアルト云  
ハ農村デ生レテ來ア、貧乏百姓家ニ  
フコトハ區別致シマセヌ、家屋トシテ  
カラソニデリマス、此處ニオイデノ方モ

大體農家ノ方ニ關係ノ深イ方バカリデス、併シナガラ農家ノ大キサト云フモノハ都會ノ住宅トハ全ク趣キヲ異ニシテ居リマス、サウシテアナタノ今仰ノヤウナ觀點カラ見マスレバ、現在ノ十萬圓ノ免稅點ナラバ課カラムト云フヤウナ考ヘ方ヲ持ツテ居ラレルヤウダガ、先程私ガ先ゾ十萬圓ノ免稅點ノ根據ヲ伺ツタ時ノ御答ヘノヤウニ、將來ニ於ア何等カノ形ニ於テ免稅點ヲ引上ゲテ五萬圓或ハ三萬圓ノ免稅點ヲ以テ之ヲ律スルト云フヤウナ場合ニハ、當然全國ノ農家ハ之ニ該當スルモノノデアリマス、其ノ該當スベキ所ノ農家ノ構造タルヤ實ニ都會ノ住宅トハ趣キヲ異ニシテ居ルト云フコトハ私ガ申スマデモナイ譯デス、假ニ農家ノ問題ヲ一應餘所ニシマシテ、漁網或ハ漁船ノ問題ニ觸レテ見タイト思ヒマス、今日漁船ヲ造ルニシテモ、漁網ヲ買フニ致シマシテモ、ソレ相當ノ闊價格デス、其ノ闊價格モ中々容易ナラヌモノデ、漁網ナドニシマシテモ、ヒシコ網ト云フノノ食糧增産ノ爲ニ大イニ獎勵サレテ居ル網云フ狀態デス、公定ニシテモ實ニヨリ竿買フニシテモ現在ハ百萬圓或ハ百四、五十萬圓出サナケレバ買ヘストテ船ト云ヒ網ト云ヒは皆食糧増產ノ三十萬圓或ハ三十五萬圓ト云フ莫大ナダネス、船一艘買ヒマシテモ忽チ數十萬圓ヲ要スルヤウナ現狀デス、サウシテ船ト云ヒ網ト云ヒは皆食糧増產ノ一種ノ消耗品ナシデス、是等ノモハ一年經チ或ハ二年經テバソレトノ消費ナタ方ガ特別ナ考ヘラツキテ居ラレルシテ行ツテシマフヤウナ、農家或ハ漁家ニ取ツテハ相當大キナ影響ヲ持ツモノナンデス、斯ウ云フモノニ對シテアカ居ラレヌカト云フコトヲ私ハ聽イテ居ルノデアリマスガ、モツ一度主税局

○池田(勇)政府委員 動産、不動産、付キマシテモ、闇價格ニ依リ、マセヌ  
出來ルダケ公定價格ニ依リタイト思ひ  
テ居リマス、又農家の家ノ問題デゴボ  
イマスガ、六大都市ノ家ノヤウナ評議會  
ハ致シマセヌ、現在ニ於キマシテモ、  
家ノ家屋ノ賃貸價格ハ一坪一圓前後ニ  
相成ツテ居リマス、東京ノ家屋ハ平均  
十六圓ニナツテ居リマスノデ、實際ニ  
倍數ヲ適用シテ評價シタ場合ニハ、餘程  
一坪當リノ價格が達ツテ來ルノデアリ  
マスカラ、御心配ノ様ハナイト想ヒ  
ス、漁船或ハ漁網ニ致シマシテモ、八  
定價格ノアルモノハ公定價格ニ依ツ  
評價シテ行キタイト云フ考ヘヲ持ツ  
居リマス

之ヲ抱棄シタラドウデスカ、税金ヲ課  
ケナイコトニシタラドウデスカ農村  
ナドノ農耕用機具トカ、農耕用家畜ト  
カ、或ハ農家ノ家屋ナンカニハ、今ノ  
觀點カラ言ツテ税金ヲ課ケナイデモ宜  
イト云フヤワナ行キ方ヲシタラ如何デ  
スカ、斯ウ云フヤワナ氣持ガ、勿論ナ  
イト仰シヤルカモ知レマセバ、アル  
カドウカ、一ツ念ノ爲ニ承ツテ置キタ  
キガ筋道ダト思ツテ居リマス

○池田(男)政府委員 特殊ノ財産ヲ財  
產稅ノ課稅對象カラ除クト云フコトハ  
理論的ニ筋ガ立チマセヌ、サウ云フ御  
話ノヤウナ問題ハ免稅點等デ考ヘルベ  
ニ對シテ考慮ヲ拂フ意思ガアルカナイ  
カヨーツ伺ツテ見タイ

○中野(四)委員 之ヲ抱棄スルコトガ  
出來スト云フナラ、特別ニ何カ食糧増  
産ノ見地カラ漁舟ノ漁船、漁網ナシカ  
ニ致シマシタノデ、ソレ以上ノ漁船、  
漁網ヲ持ツテ居ラレル方ハ此ノ際此ノ  
程度ノ負擔ヲシテ戴クノガ適當ダト考  
ヘラマス

○中野(四)委員 水掛論ハシタクナイ  
ケレドモ、一體漁船ヲ持ツテ居ル者、  
漁網ヲ持ツテ居ル者デ、税金ノ課カラ  
ヌ者ガアルト思召シマスカ、漁船、漁  
網ノ御調査ハ勿論濟シテ居ルト思ヒマ  
スケレドモ、漁師デ少クトモ漁船、漁  
網ヲ持ツテ居ル者ニ税金ノ課カラヌ者  
ガアルト思召シマスカ、主稅局長ノ見  
解ヲ承ツテ置キダイト思ヒマス

○池田(男)政府委員 漁船ノ大キサ、  
アルカト思ヒマスガ、課カル場合ニ付  
キヤシテハ、私ハ財產稅ヲ納メテ戴ク  
ノガ相當ダト考ヘテ居リマス

○中野四委員 ソチチデ思へバ仕方  
ガナイコトデ、コツチデ何ト思ツモ  
已ムヲ得ヌト思ヒマスケレドモ、大體  
日本ノ當面ノ重要問題ハ何カト言へバ  
食糧危機デス、之ヲ突破スルコトガ今  
議會ノ重大ナ使命デアツタ筈ナンデ  
ス、唯偶々天候ニ大イニ惠マレテ一時  
小康ヲ得タリト雖モ、此ノ食糧増産タ  
ルヤ刻下ノ重大問題デス、此ノ焦眉ノ  
問題ヲ解決シ得ル所ノ農村、漁村ノ生  
産意欲ヲ減退セシムルヤウナ所謂財產  
稅ノ取り方ト云フモノハ賢明ナ政治ノ  
ヤリ方デハナイト思フ、斯ワ云フ觀點  
ニ立ツテ、特別ナ考慮ヲ拂ツテ、生産意  
欲ヲ旺盛ナラシメルト云フコトガ政治  
ノ旨味ダト思ツテ居リマス、併シナガモ  
ラク主税局長ハドウモ斯ウモナルマイ  
ト思ヒマスカラ、此ノ質問ハ是打切  
リマス、次ニ私ハ、新シク近頃出來タ  
レ、是レ以上アナタニ要求シテモ、恐  
ラク主税局長ハドウモ斯ウモナルマ  
知レマセスガ、新興財閥ト言フノデス  
カ、近頃變ナ名前ガ大分流布サレテ居  
ルノデアリマスガ、斯ワ云フモノラド  
ウ處理スルカト云フコトニ付テ一ツ聽  
イテ見タイト思フノデスガ、今度ノ財  
產稅ハ初メ一千億ヲ徵收シテ、一千四  
百億ノ國債ヲ大部分償却スルト云フノ  
ガ目的デアツタ思フノデス、ソレ  
ヲ、僅カニ四百三十五億取ツテ、其ノ  
中三百五十億ヲ今年度ノ赤字補填ニ使  
用スルト云フノダカラ、初メノ財產稅  
ガ革命稅デアルト云フヤウナ性格ハ全  
ク失ハレテシマツタ思フノデアリマ  
ス、政府ハ今後免稅點ヲ更ニ引上げ  
シテ革命稅トシテノ當初ノ性格ヲ復活  
サセル意思ハナイカドウカ、特ニ三月  
三日以後ノ新圓成金層ト云ヒマスカ、  
新興財產家ト云フヤウナモノニ對シ

テ、何カ手ヲ打ツ用意ガアルカナイ  
カ、之ヲ一ツ伺ヒタイト思ヒマス  
○石橋國務大臣 新圓ノ問題ハ屢々御  
質問ヲ多クノ方カラ受ケタノデスガ、  
先程カラ局長ト御問答ガゴザイマシタ  
十萬圓以下ノ課税ノ問題モサウデアリ  
マスガ、只今ノ所我々ハ此ノ財産税ヲ  
以テ處理ガ出來ル、サウシテ希望年歲  
入ガ之ニ依ツテ得ラレルト考ヘテ居リ  
マスノデ、十萬圓カラ五萬圓ノ間ニ對  
シテ財産税ヲ課スル積リハアリマセヌ、  
併シ先程局長ガ申シマシタヤウニ、若  
シモ之ヲ課ストスレバ、此ノ法律ニ依  
ルノデハナク新シイモノニ依ルノデア  
ツテ、其ノ場合ニハ調査期日モ變ツテ  
來マスカラ、若シサウ云フヤウナコト  
ガアルトスレバ自ラ御話ノ新圓階級ニ  
ハ新シイ財産税ガ課カルト思ヒマス  
○中野(四)委員 大藏大臣カラソレダ  
ケ承ツテ置ケバ、モウ別ナ構想ヲ聽ク  
ダケ野暮ナコトハセヌ方ガ宜イト思ヒ  
マス、私ノ約束ノ時間ハモウアト僅カ  
二、三分シカナイヤウデスガ、最後ニ  
不動産評價ノコトニ付テ一應聽イテ置  
キタイト思フノデアリマス、是ハ本法  
案中ノ一番ノ山デス、何ト申シテエ評  
價ヲ出セ、評價ガナイアル、ナイト云  
フヤウナコトデ、大ニ此處デ議論數  
三十五億圓ガ得出來ナイト云フコトハ  
刻闘ハサレタモノデアリマス、中々主  
税局長モ能ク闘ハレタト思フケレド  
モ、鬼ニ角評價ノ基準ガナケレバ四百  
ヒマス、全國ノ區々別ニ於ケル所ノ基  
總括のモノダケレドモ、區々於テ  
ハアルトスウ云フコトヲ言ツテ居ラレ  
誰モ肯カレルコトナシテス、アル筈デ  
ス、アルカナイガト云フコトハ、主税局長ハ

準ニ對シテ、本日此ノ委員會ニ資料ナシテ御提出ヲ要求致シマス、更ニ現在政府ガ持ツテ居ル地區別基準ノ要當性ハ、我々ハ嚴密ニ検討シナケレバナラナイ、又ソレガ當然ノ必要アル問題ダト私ハ思ツテ居ルノデアリマス、其ノ理由ハ今日ノ物價ハ混沌トシテ居ル、何處ニ準據スペキヤハ全國民ノ齊シク迷ツテ居ル所デアリマス、御承知ノ通り物價ニハ丸公モアリマスシ丸協モアル、今アルカドウカ知リマセス、私ハ丸公、丸協ノ方ヨリ私ハ闇ノ方が能クルノデスガ、丸協モアリ或ハ闇モアル、其ノ闇ニモ大闇アリ小闇アリト云フヤソナコトデ、其ノ準據スル所ノ價格ニ依ツテ非常ニ大キナ差額ヲ生ジテ來マス、政府ガドノヤウナ基準ヲ以テ行クカト云フコトハ全國民齊シク知リタイ所デアルノデアリマス、政府トシテハ本議會ヲ通ジテ此ノ基準ヲ算定シタ根據ハ公表スルコトハ、民主主義ニ忠實ナル所ノアルト私ハ信ジテ居リマス、本條項ヲ鶴谷ミニスルト言フト言葉ガ拂イカ知リマセスガ、有耶無耶ニ藝ヲシマフト云フコトハ、結局不動產評價委員ニ對シテ或ハ政府ニ對シテ非常ニ大幅ノ決定權ヲ任せル結果ニナルノデアリマス、ソレデハドモ民主政治ノ本旨ニ悖ルト思フ、例ヘバ家屋ガ一坪千圓ガ時價トモ言ヘル二千圓モ時價ト言ヘル或ハ三千圓モ時價ダト言ヘルシ四千圓ガ時價ダト言ハレテモ決シテ不當ナシテ場合モアルト思ヒマス、其ノ評價如何ニ依ツテハ納稅者ノ負擔ニ非常ニ差異ガ起ツテ來ルコトハ自明ノ理デアリトカ云フヤウナ營利ヲ目的トシタ職場ナシカデアレバ、物價ノ變動ニ伴フ使

用料ハソレニ順應シテ參リマスカラ大體大キナ開キハナイト云フコトガ言ヒ得ルカモ知レマセスガ、本稅ノ對象ナルヤウナ不動産ハ大體住宅ダカラ物價ノ變化ニ順應シテ融通性ヲ缺イテ参リマス、却ツテ近頃ノ物價騰貴ニ依ツテ其ノ所有者達ハ其ノ負擔ガ加重サレルコトニ依ツテ非常ニ苦シシニ居ルト云フ實情デアリマス、斯ウ云フ大切ナ不動産ノ評價ニ付テハ、其ノ根本基準ハ飽クマデ民意ノ象徵タル本院ニ於テ徹底ニ検討詮議シタ上決定スルノガ明當然ダト思ヒマス、不動産評價ノ基準ハ稅率ニ付テ言ヘバ稅率以上ニ重大ナ問題ダト私ハ思ヒマス、斯ウ云フヤウナ問題ニ對シテハ政府ハ飽クマデヨ明白ナ答辯ヲ此ノ議會ニ與ヘラレルノガ當然ダト私ハ思フノアリマスカラ、此ノ不動産評價ノ所謂區々ニ於ケル所ノ基準ヲ資料トシテ御提出ニナルト同時ニ、此ノ基準ヲ算定シタ根據ヲバ此ノ際一ツ大藏大臣カラ伺ヒタイト思ブノデアリマス

ノハ家屋ヲドウ見ルカト云フコトハ其  
ノ郡ノ經濟事情等ニ依リマシテ判斷ス  
ルヨリ外ニハゴザイマセス、隨ヒマシ  
テ個々ノ家屋、個々ノ宅地ニ付キマシテ  
ハ、私ハ其ノ資料ヲ持ツテ居リマセス  
ガ、昨日申上ゲマシタヤウニ、例ヘバ  
全國ノ家屋ハ村ニ於テハ平均ドノ位ス  
ル、町デハドウダ、斯ウ云フ達觀  
ヲ加ヘマシテ、全體ノ家屋ノ價格ヲ七  
百六十二億圓ト評定シテ四百三十  
五億圓出シタノデゴザイマス、評價ハ  
賃貸價格ト取引價格、斯ウ云フモノヲ  
見テ實際ニ沿フヤウニ各財務局デ地方  
ノ人カラ御意見ヲ聽イテ決メルノガ適  
當ダト考へマシテ斯様ニ法律ニハ規定  
致シテ居ルノデゴザイマス

ルカト仰シャレバ、是ハ此ノ程度ニ評價シタラ宜イノデヤナイカト思ツテ、ソレヲ基準ニ四百三十五億圓ヲ出シタト申上ゲマシタガ、東京ノ家屋ヲ何ボニ見タカト申サレマスト、家ハ個々決マツテ居リマセヌ、良イモ悪イモアリマス、又利用價值ノ良イノト惡イノガゴザイマス、隨テ個々ノ家ニ付テ幾云フ御間ヒダラウト思ヒマス、是ハ中々難カシイ問題デゴザイマス、私ノ調査ニ依リマスト終戦前ノ半年間ニ於ケル東京ノ目黒區ニ於ケル家ノ賣買ノ平均ハ八百二十圓ニナツテ居リマス、併シ今ノ目黒區ニ於ケル住宅ノ賣買ノ其ノ五倍モ六倍モシテ居ル所モゴザイマセウ、或ハ三倍位ノ所モアリマセウ、隨テ東京ノ住宅ノ平均幾ラデ見ルガドレダケデアルカノ個々ニ見ナクテ、全國的ニ大體此ノ位ノモノダト云レバナラヌ、併シ財產稅ノ見積リト致思ヒマシテハ何モ東京ノ家ノ平均ノ時價、名古屋、横濱ハ可ナリ安イ、斯ウ云フコトデ一概ニハ言ヒ得ラマセヌ、又其ノ平均モ私ハ申上ゲナイ方ガ宜イト思ヒマス。

○中野(四)委員 評價ノ問題ハ此ノ法律案ヲ通ジテ一番大キナ問題デアリマスカラ、何レ討論ノ際ニ申上ゲルトシテ、資料ガソレマデニ提出サレルモノト思ヒマスカラ、ソレヲ拜見シ、ソレニ準據シテ更ニ語ヲ續ケタトイ思ヒマス、私ノ質問ハ是デ終リマス。

○本多委員長 田中重彌君 大變時間モ制限サレテ居リマスノデ、私ハ總論的ナコトハドウ云フ風ニ評價スルカト申シマシテモ、其ノ程度ノ家ヲ私ハ見テ居リマセヌカラ、幾ラノ評價スルト云フコト云フ具體的ノ御示シヲ願ヒタイト申上ゲラレマセヌ

○池田(勇)政府委員 農村ノ家屋ノ評價ニ付キマシテハ各財務局稅務署ヲ使ヒマシテ、實際ノ最近ニ取引サレマシタ家屋、此ノ取引ハ餘程少ウゴザイマスガ、全國的ニ集メルト或ル程度ゴザイマス、隨ヒマシテソレヲ平均致シマシタノガ農村ニ於キマシテ一坪百六十圓程度、町制施行地ニ付キマシテハ二百三、四十圓、市制施行地ニ付キマシテハ三十萬ノ市モゴザイマス、又三、四萬ノ小サイ市モゴザイマスガ、平均シテ三百五、六十圓ニ相成ツテ居リマス、六大城市ニ付キマシテモ、是ハ東京、大阪、神戸ハ相當高ウゴザイマスガ、

○中野(四)委員 評價ノ問題ハ此ノ法規案ヲ通ジテ一番大キナ問題デアリマスカラ、何レ討論ノ際ニ申上ゲルトシテ、資料ガソレマデニ提出サレルモノト思ヒマスカラ、ソレヲ拜見シ、ソレニ準據シテ更ニ語ヲ續ケタトイ思ヒマス、私ノ質問ハ是デ終リマス。

○池田(勇)政府委員 申告ノ場合ニ書類ノ提出ハ求メマセヌ

○田中(重)委員 次ニ第七章ノ審査ノ部ニ於キマシテ五十一條ノ「納稅義務者」は、政府の通知した稅額に對して異議があるときは、通知を受けた日から一箇月以内に不服の事由を具し、政府に審査の請求をなすことができる。」之ニ付キマシテ、「第一項の請求があつた場合においても、政府は、稅金の徵收を猶豫しない。」ト斯様ニ對シマシテ所謂政府ニ對シ

○池田(勇)政府委員 從來所得稅等ニ於キマシテハ審査會ハ概ネ一年一回ト御捕入願ヘナイカト云フコトデゴザイマス。

○田中(重)委員 約束ノ時間デゴザイマスカラ私ハ是デ打切りマス

○本多委員長 寺田榮吉君 御尋ねシタトイ思ヒマス、先づ第一ニ特別經理會社ノコトニ付テデアリマスガ、現在法案が隨分出マスノデ、實際面ニ於キマシテハ、非常ニ複雜デ分リ

○池田(勇)政府委員 次ニ於キマシテハ、非常ニ複雜デ分リ

ガ、是ノ除外申請ガ出來ルト云フコトニナツテ居リマス  
ニナツテモ居ルノデスガ、其ノ除外申  
請ヲシタ時ニ其ノ會社ノ資産ノ評價ヲ  
商法ニ於テ決メラレテ居ル、然ルニ特  
別經理會社ニナツタ時ノ資産ノ評價ト  
ノ差ガアルノデアリマスカラ、ドウシ  
テモ、特別經理會社ニ多クノモナガナ  
ツテ行ク傾向ニナルト思フノデアリマ  
スガ、此ノ點ニ付テハ如何ニ御考ヘデ  
スカ、即ち簡單ニ言ヒマスト、特別經  
理會社ヲ除外シテ貲フニハドウ云フ條  
件ヲ備ヘタラ宜イカト云フコトニ付テ  
御尋ネシタインデアリマス

ニナリマシタラ、御承知ノヤウニ生産  
ガ非常ニ減退サレルノデアリマシテ、  
大藏大臣が屢々言ハレル生産増強ガ第  
一ダト云フコトガ非常ニ阻碍サレルト  
云フコトヲ私ハ申上ダタイノデアリマ  
ス、併シサウ云フ御見解デシタラ是ハ  
已ムヲ得ナイト思ヒマス、サウシテ特  
別經理會社ニナリマシタラ特別管理人  
ガ出来ル、此ノ特別管理人ガ株式ノ書  
換ニ對シチ否否スル權利ガアルカドウ  
カト云フコトヲ御伺ヒシタインデアリ  
マス

○三木政府委員 評價換算問題三付キ  
マシテハ、大藏大臣或ハ膳國務大臣カラモ度々御説明中上ゲテ居リマスノ  
デ、私カラ更ニ附言スル必要モナイト  
思ヒマスガ、御質問ノ點ニ付キマシテ  
ハ我々モ十分考慮致シマシテ、適當な  
措置ヲ講ジテ參りタイト思ヒマス、唯  
業種別ニ之ヲ算定スルト云ソコトガ果  
シテ出來ルカドウカ非常ニ問題アラ  
ウト思ヒマスケレドモ、唯實情下致シ  
マシテ、例へバ鐵鋼ナドニ付キマシテ  
他ノモノト同ジヤウナ取扱ラシテ宜ハ  
カドウカト云フ點モアリマス、御趣旨  
ノ點ヲ十分酌ミマシテ、今後ノ研究ニ  
資シタイト考ヘテ居リマス

○寺田委員 只今ノ御答辯デ一ツ残ツ  
テ居リマスノハ、収益還元法ニ依ルカ  
か、或ハ複成式ノ評價法ニ依ルカ、斯  
ウ云フ點ハドウデセウカ

○三木政府委員 収益還元法ニ依ルカ  
或ハ複成式ナモノニ依ルカ、或ハ又複  
業率ヲ見テ行クカト云フヤウナ點へ評  
價基準ノ最も重要ナ觀點デアラウト思  
ヒマス、サウ云フ點ニ付キマシテハマ  
ダ政府部内ニ於テ決定シテ居リマセ  
ス、今後各方面ノ意見ヲ承リ、又特ニ

委員會ノ議ニ付キマシテ、之ヲ決定シテ參リタイト考ヘテ居リマス  
○寺田委員 大體了承致シタノデアリマスガ、次ニ未拂込ノ徵收ノ問題デマシテ、結局良イカ悪イカト云フヨリモ、其ノ後ノ產業ノ再建ニ及ボス影響ガモ大切デアルト考ヘラレルノデアリマスガ、是ハ實際ニ於キマシテ財產稅ヲ取ツタ後ノ未拂込ハ徵收サレルダラウト云フコトガ想像サレルノデアリマスガ、サウ云フ場合ニ果シテ政府が取ルカドウカト云フコトヲ云フヤウニ考ヘテ居ラレルカ、又取ルトシマシタラ、財產稅徵收ノ後ノ未拂込ヲ徵收スルト云フコトハ、國民ニドウ云フ影響ヲ及ボスカト云フコトニ付テ御考ヘラスモ決メタタイト考ヘテ居リマス  
○池田(勇)政府委員 只今ノ所ハ一日十五日ヲ申告期日ニ致シタイト思ツテ居リマス、併シ只今申上ゲマシタ二ツノムヅカシイ問題ガ解決致シマセント、非常ニ評價ガ困難デゴザイマスナラ、二ツノ問題ハ出來ルダケ早く決メテ貰フ、一月十五日ヲ申告期限トシ、二月十五日ニ納稅シテ戴ク、斯ウ云フ豫定ヲ持ツテ居リマス  
○寺田委員 サウシマスト未拂込ノ決定サレルノハ其ノ以前、大體本年中ト

○寺田委員 サウシマスト現在考ヘテ居ラレル未拂込ハ殆ド負債デアルト云フニ我々ハ考ヘルノデアリマスガ、我々ハ現ニ財産税ノ由告フシタ時ニ、未拂込株券ヲヤハリ財産トシテ申告ヲシテ居ル、是ガ非タ常ナ矛盾ガ來ルノデヤナイカ、未拂込株券ヲ持ツテ居ル爲ニ負債ガ非常ニ多クナル、之ヲ稅務署ガ負債トシテ考ヘラレルノカ、財產トシテ考ヘラレルノカ、此ノ點ニ付テ御伺ヒシタイト思ヒマス

○池田(勇)政府委員 三月三日ノ臨時財産調査令ニ依リマス申告ハ、拂込済ノモノモ未拂込ノモノ額面金額デ申告シテ戴イテ居リマス、隨ヒマシテ今ノ未拂込ノ問題ハ、見込金ダケヲ負債ト見ルカ、債務ト見ルカト云フ問題デザイマスガ、是ハ先程申シマシタヤウニ、債務ト見ルカ或ハ見ナイカト云フ問題ハ未拂込全體ノ問題ガ決マレバ片付クト思ヒマス

○寺田委員 過日來財閥解體ガ行ハレテ居ル、其ノ大部分ノ株式ガ此ノ持株整理委員會ニ渡サレテ居ルト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、其ノ時ニモ未拂込ノ株券ヲ除外シテ居ルト云フコトモ聞イテ居ルノデアリマスガ、ソレハ結構未拂込ノ株券ヲ財産ト見テ居ルカドウカト云フコトニアルノデヤナイカト思フノデアリマス、此ノ點ニ付テ御伺ヒシタ



ル譯デスネ

○三木政府委員 當然舊債權ハ舊勘定ノ中ニ入ツテ整理サレルト思ヒマス

○奥村委員 恐ラクハ會社内容ガ提出サレテ參リマスト、終戰後色々な事情カラ、會社ニ依ツテハ色々放漫ナ經營ノ爲ニ莫大ナ缺損ヲ起シテ居ルモノガアルダラウト思ヒマス、此ノ缺損カラ

シテ債權者ニ迷惑ヲ掛ケルト云フコトニナルト、是ハ相當問題アラウト思ヒマス、此ノ會社内容ノ統計ガアレバ尙ホ突込ンデ御伺ヒシタインデアリマスガ、是ハ今後ニ於テ相當問題ニナラウト思ヒマスノデ、之ヲ委員會ニ於テ質問シテ置ク次第アリマス

○石橋國務大臣 其ノ點ハ私カラ御答へシテ置キマス、ソレハ今度ノ建前ハ、軍需補償ノ打切りカラ來ルモノヲ整理スルト云フノガ無論根本デアリマスガ、ソレト同時ニ一切ノ企業及ビ金融ニ於ケル勘定ヲ結麗ニシテ、今後ノ經濟ノ建直シヲシヨウト云フノデアリマスカラ、御話ノヤウナ直接軍需補償カラ來ナイ、終戰後放漫テアルカドウカ知レマセヌガ、終戰後ノ缺損ト云フモノハ入ツテ參リマス、而シテ債權者ニ被害ガ來ルト云フコトハ、是ハ當然デアリマス、ソレコソモウ債權者ニ來テ一向差支ヘナイ損害デアリマス、寧口補償打切りデ來ルノヲ個々ノ債權者ニ掛ケルト云フ方ガ理窟カラ言フト妙普通ノ損害ノ方ハ、却テ個々ノ債權者ニ被ツテ來テモ理窟ハ立ツヤワニ考ヘテ居リマス、理窟ハ鬼モ角トシテ事實整理ハ左様ニサレル譯デアリマス

ハ、恐ラク生產ガ止ツテ居リマスカラ、賃金俸給ナドノ値上リノ爲ニ此ノ一年間ニ相當赤字ガ出テ居ルダラウト思ヒマス、ソレデ當然債權者ニ迷惑ヲ掛ケテモ宜イト云フ今ノ大藏大臣ノ御話ハ、少シ納得ガ行キ兼ネルト思ヒマス

○石橋國務大臣 私ノ申スノハ、株主ナドガ無論損害ヲ受ケルコトハ、ソレハ全部飛バシテシマツテ、尙ホ損害ガ殘ル場合ニハ、如何ナル場合モ債權者ニ被セル外ニハ被セラレナイ損害デアリマスカラ、自然サウナツテ参リマス

○奥村委員 サウナリマスト、又此ノ資產評價ガ問題ニナルト思ヒマス、株主ト申シマスケレドモ、一ツハ残ツタ株主ノ權利モ此ノ資產ニ對スル權利ハ同ジデアリマス、サウスルト結局其ノ尻拭ヒが債權者ニ來ルト云フヤウニ感ジマスガ、是ハ斯ウ云フ疑問モ記録ニ残シテ戴ケレバ結構ダト思ヒマス、私ノ質問ハ是デ終リマス

○本多委員長 是ニテ大體ノ質疑ハ終了致シマシタ、尙ホ必要ガアレバ補足的ナ質問ハ委員長ニ於テナスコトト致シマシテ、本日ハ是ニテ散會致シマス次會ハ明五日前十時ヨリ開會致シ

午後六時四十七分散會